

黒森町 I 遺跡

— 宗教法人「先天大道一貫道日本總天壇」研修施設建設工事関係発掘調査報告書 —

2015.3

岩手県宮古市教育委員会

黒森町 I 遺跡

— 宗教法人「先天大道一貫道日本總天壇」研修施設建設工事関係発掘調査報告書 —



2015.3

岩手県宮古市教育委員会

序 文

黒森町Ⅰ遺跡の一次調査は二十年ほど前に行われました。その時の調査では江戸時代の鋳物工場跡と墓所とが見つかり、「港町みやこ」の新たな一面が明らかになりました。今回の調査区は前回の隣接地にあたります。調査の結果、工房の続きと思われる施設、溝や溜池のような掘り込みが見つかりました。それらの施設は大規模に埋め立てられた盛土の上に築かれていることが分かりました。さらにその盛土の下からは、平安時代の住居跡が出土しています。それらの住居跡は、一般的な住居とは少し異なり、そこには製鉄に関わった人たちが暮らしていたのではないかと推測されます。

一次調査で背後の墓所から「鉄山」の文字が刻まれた墓碑が出土しています。周辺部の調査例などを考え合わせますと、古代に始まり、中世に続き、近世の「鉄山」に至る大きな流れを想像してみたくくなります。今後の大変に興味深いテーマかと思われます。

最後に宗教法人「先天大道一貫道日本總天壇」をはじめ、野外調査、あるいは資料整理に御協力いただきました関係者、各位に深く感謝申し上げますとともに、この成果が広く活用されることを願って序文とします。

平成 27 年 3 月

宮古市教育委員会

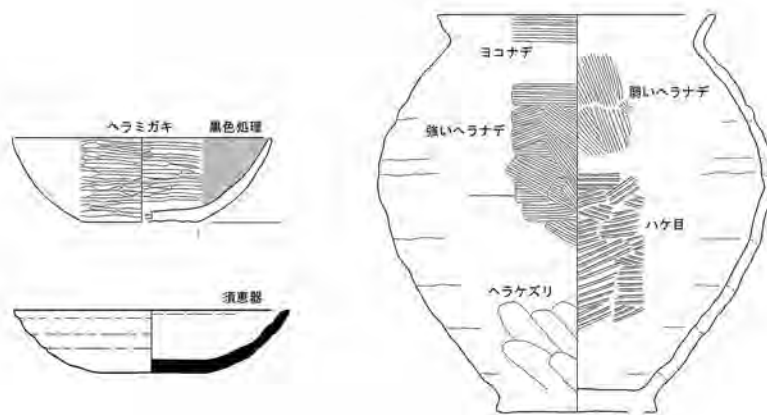
教育長 伊 藤 晃 二

例 言

1. 本書は宗教法人「先天大道一貫道日本總天壇」建設工事に伴う「黒森町 I 遺跡」の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 調査主体は宮古市教育委員会(教育長 伊藤晃二 平成 25 年～)である。発掘調査及び本書の執筆・編集は文化課の阿部が担当し、他の文化財担当者がこれを補佐した。
3. 調査座標については世界測地系に従い、整数末尾 3 桁の数値を用いた。高さについては標高値をそのまま用いた。

原点座標 X -38000.000 Y +94000.000

4. 土色及び土層の観察に際しては『新版標準土色帖』(小山忠雄、竹原秀雄編著 2001 年度版)を使用した。
5. 遺物の表現については、下記の通りとした。



6. 遺物写真図版については、原則として実測図版の縮尺に合わせて載せた。遺物写真に付した番号は、図版番号 - 遺物番号である。
7. 本書に収録した調査記録及び出土資料は宮古市教育委員会で保管している。

目次

序文

例言

目次 図版目次 写真図版目次

1	調査に至る経過	1
1-1	調査に至る経過	
1-2	調査要旨	
1-3	調査体制	
1-4	立地と環境	
2	調査内容	5
2-1	基本層序	
2-2	検出した遺構と遺物	
3	調査のまとめ	85
	報告書抄録	100

図版目次

第 1 図	遺跡の位置と周辺の遺跡	2
第 2 図	地形分類図	3
第 3 図	調査区と周辺の地形	4
第 4 図	調査区西壁面土層断面図	6
第 5 図	I 期遺構配置図	7
第 6 図	1 号溝、土坑跡平面図	8
第 7 図	1 号溝、土坑跡断面図	9
第 8 図	1 号溝、土坑跡出土遺物 (1)	9
第 9 図	1 号溝、土坑跡出土遺物 (2)	10
第 10 図	2、3 号遺構群の配置	13
第 11 図	2 号遺構群断面図	14
第 12 図	3 号 a 溝跡、3 号 b 土坑跡平・断面図	15
第 13 図	3 号 d、e 炉跡、3 号 f 焼土遺構平・断面図	15
第 14 図	3 号 c 土坑跡平・断面図	16
第 15 図	2 号遺構外出土遺物 (1)	17
第 16 図	2 号遺構外出土遺物 (2)	18
第 17 図	2 号遺構外出土遺物 (3)	19
第 18 図	2 号遺構外出土遺物 (4)	20
第 19 図	2 号遺構外出土遺物 (5)	21
第 20 図	2 号遺構外出土遺物 (6)	22
第 21 図	2 号遺構外出土遺物 (7)	23
第 22 図	2 号遺構外出土遺物 (8)	24
第 23 図	2 号遺構外出土遺物 (9)	25
第 24 図	3 号 c 土坑跡、遺構外出土遺物 (1)	26
第 25 図	3 号遺構外出土遺物 (1)	27
第 26 図	4 号遺構群平・断面図	28
第 27 図	4 号 c 焼土遺構平・断面図	29
第 28 図	4 号遺構群出土遺物	30
第 29 図	5 号土坑跡平・断面図	31
第 30 図	6 号土坑跡平・断面図	32
第 31 図	5 号、6 号土坑跡出土遺物	32
第 32 図	7 号土坑跡平・断面図	33
第 33 図	7 号土坑跡出土遺物	33
第 34 図	8 号鍛冶炉跡平・断面図	34
第 35 図	8 号鍛冶炉跡出土遺物	34
第 36 図	9 号、10 号黄褐色粘土の広がり平・断面図	35
第 37 図	II 期遺構配置図	36
第 38 図	11 号竪穴住居跡平・断面図	37
第 39 図	11 号竪穴住居跡出土遺物	38
第 40 図	12 号竪穴住居跡出土遺物	39
第 41 図	12 号竪穴住居跡平・断面図	40
第 42 図	13 号竪穴住居跡、15 号炉跡出土遺物	41
第 43 図	13 号竪穴住居跡平・断面図	42
第 44 図	14 号、15 号炉跡平・断面図	43
第 45 図	16 号竪穴住居跡平・断面図	46
第 46 図	16 号竪穴住居跡、土坑跡、堆積土断面図	47
第 47 図	16 号 c 土坑跡、炉跡平・断面図	48
第 48 図	16 号竪穴住居跡 c、e 炉跡、d 炭の広がり平・断面図	49
第 49 図	16 号竪穴住居跡カマド平・断面図	50
第 50 図	16 号竪穴住居跡出土遺物 (1)	51
第 51 図	16 号竪穴住居跡出土遺物 (2)	52
第 52 図	16 号竪穴住居跡出土遺物 (3)	53
第 53 図	16 号竪穴住居跡出土遺物 (4)	54
第 54 図	16 号竪穴住居跡出土遺物 (5)	55
第 55 図	16 号竪穴住居跡出土遺物 (6)	56
第 56 図	17 号竪穴住居跡平・断面図	58
第 57 図	17 号竪穴住居跡出土遺物 (1)	59
第 58 図	17 号竪穴住居跡出土遺物 (2)	60
第 59 図	18 号竪穴住居跡平・断面図	61

第 60 図	18 号竪穴住居跡出土遺物	62
第 61 図	19 号竪穴住居跡平・断面図	63
第 62 図	19 号竪穴住居跡カマド平面図 (1)	64
第 63 図	19 号竪穴住居跡カマド平・断面図 (2)	65
第 64 図	19 号竪穴住居跡出土遺物 (1)	66
第 65 図	19 号竪穴住居跡出土遺物 (2)	67
第 66 図	20 号竪穴住居跡平・断面図	68
第 67 図	20 号竪穴住居跡焼土、粘土の広がり平・断面図	69
第 68 図	20 号竪穴住居跡出土遺物 (1)	70
第 69 図	20 号竪穴住居跡出土遺物 (2)	71
第 70 図	21 号竪穴住居跡平・断面図	72
第 71 図	22、23 号土坑跡平・断面図	73
第 72 図	23 号土坑跡出土遺物	73
第 73 図	24 号土坑跡平・断面図	74
第 74 図	24 号土坑跡出土遺物	75
第 75 図	25 号土坑跡平・断面図	76
第 76 図	26 号焼土遺構平・断面図	76
第 77 図	遺構外出土遺物 (1) 盛土層、7 層	78
第 78 図	遺構外出土遺物 (2) 7 層	79
第 79 図	遺構外出土遺物 (3) 7 層	80
第 80 図	遺構外出土遺物 (4) 7 層	81
第 81 図	遺構外出土遺物 (5) 8 層	82
第 82 図	遺構外出土遺物 (6) 8 層	83
第 83 図	遺構外出土遺物 (7) 8 層	84

写真図版目次

写真図版 1		
1	I 期調査区全景 (東から)	91
2	1 号溝、土坑跡 (東から)	91
写真図版 2		
3	3 号遺構群検出状況	92
4	3 号 d 炉跡、3 号 f 焼土土層断面	92
5	3 号 d、e 炉跡土層断面	92
6	3 号 c 土坑跡断面	92
7	2 号西斜面堆積状況	92
写真図版 3		
8	4 号遺構群全景 (東から)	93
9	8 号鍛冶炉跡土層断面	93
10	6 号土坑跡完掘状況	93
11	5 号土坑跡完掘状況	93
12	II 期調査区全景	93
写真図版 4		
13	16 号竪穴住居跡全景 (東から)	94
14	16 号 c 土坑跡、15 号 e 炉跡検出状況	94
15	16 号 b 土坑跡土層断面	94
16	16 号 e 炉跡検出状況	94
17	16 号竪穴住居跡カマド	94
写真図版 5		
18	19 号竪穴住居カマド検出状況	95
19	19 号竪穴住居跡鹿角出土状況 (カマドの東側)	95
20	22 号、23 号土坑跡検出状況	95
21	23 号土坑跡貝層出土状況	95
22	調査区西壁面土層堆積状況	95
写真図版 6	I 期出土遺物 陶磁器、鉄製品、土製品、銅製品、銭貨	96
写真図版 7	I 期出土遺物 銭貨	97
写真図版 8	II 期出土遺物 土師器、須恵器	98
写真図版 9	II 期出土遺物 鉄製品、土製品、石製品、骨角器	99

1 調査に至る経過

1-1 調査に至る経過

黒森町Ⅰ遺跡は、宮古市黒森町に位置している。平成3年度に宅地造成工事に伴う発掘調査が実施され、近世の墓坑群、鑄造関連の炉跡とともに陶磁器類が出土している。

今回の調査地点は、宮古市黒森町73番地1の内で、平成3年度調査地点の東側の隣接地である。宗教法人「先天大道一貫道日本總天壇」から当該地に研修施設を建設したいという申し出があり、協議を重ねたうえで、平成25年9月17日付で埋蔵文化財発掘の届出が提出された。その後試掘調査は同年9月25日から10月23日まで行った。試掘調査の結果、近世の遺構、遺物のほかに古代の遺構も確認され、研修施設を建設する前に本調査が必要である旨を伝えた。本調査については、協議を重ねたうえで、平成25年11月5日付で「埋蔵文化財の取扱いに関する協定書」と「埋蔵文化財調査委託契約書」を取り交わし、同年11月11日から開始した。また、発掘調査報告書については、平成26年度に資料整理及び報告書刊行作業を行った。

1-2 調査要旨

調査地点	宮古市黒森町73-1のうち建物部分
調査面積	440平方メートル
調査期間	試掘調査 平成25年9月25日～同年10月23日
	本調査 平成25年11月11日～平成26年3月25日
	整理作業 平成26年6月2日～同年9月30日

検出した遺構と遺物

近世	炉跡 2基、溝跡2基、土坑跡 4基
	陶磁器、鉄銭、鉄製品、土製品
古代	竪穴住居跡 9棟、土坑跡 3基
	土師器、須恵器、鉄製品、土製品

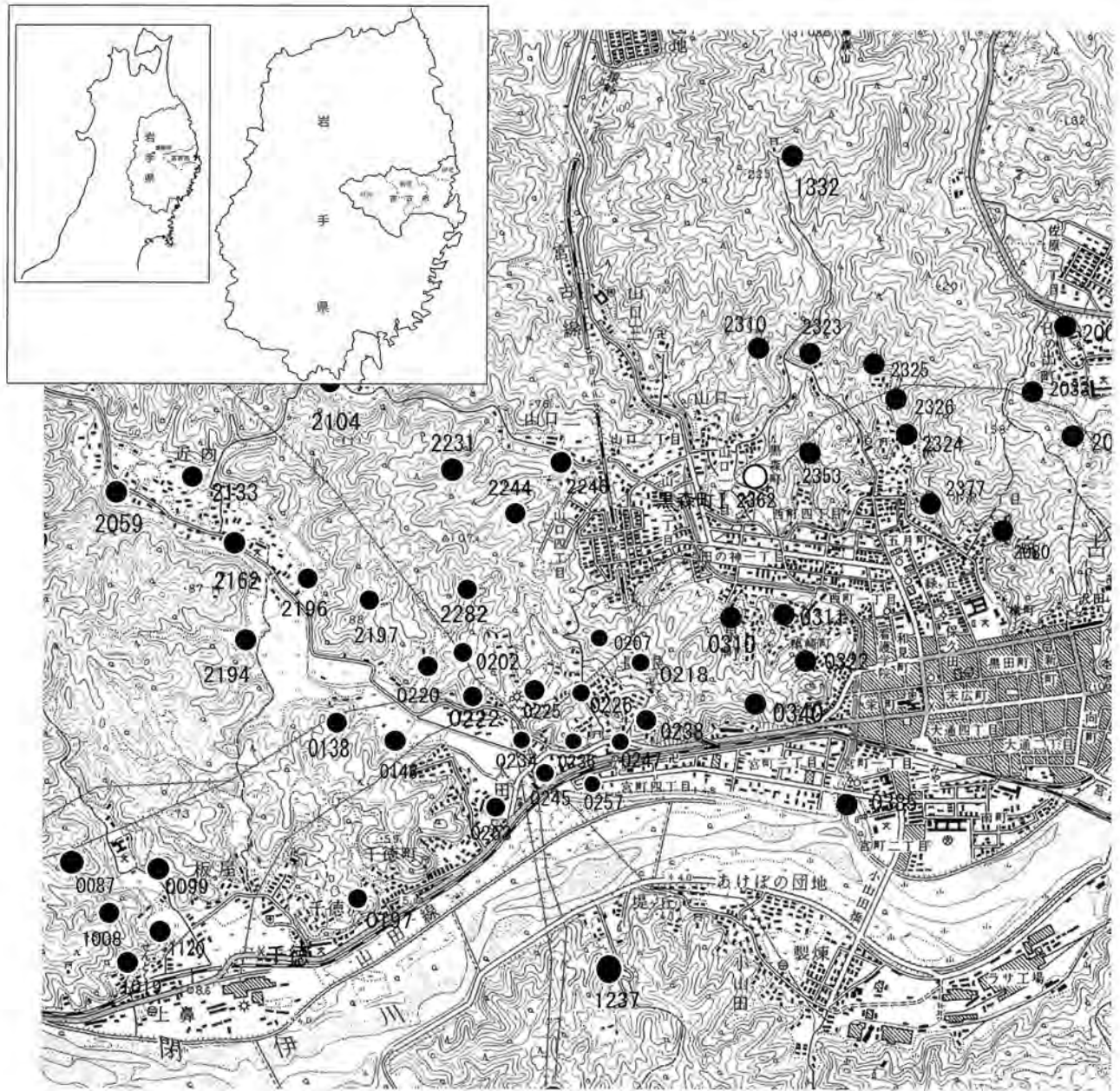
1-3 調査体制

平成26年度

調査主体	宮古市教育委員会	教育長	伊藤 晃二
調査総括	竹下將男	宮古市教育委員会文化課長	
調査員	高橋憲太郎	〃	文化課副主幹
	鎌田祐二	〃	文化課副主幹
	布谷義彦	〃	文化課主任文化財調査員
	加納由美	〃	文化課主任文化財調査員
	安原誠	〃	文化課主任文化財調査員
	長谷川真	〃	文化課主任文化財調査員
	江口邦泰	〃	文化課主任文化財調査員
	千葉剛史	〃	文化課文化財調査員
	阿部豊	〃	文化課埋蔵文化財発掘調査員（調査・報告書担当）
	前川友宏	〃	文化課埋蔵文化財調査員
	赤沼みちる	〃	文化課埋蔵文化財調査員

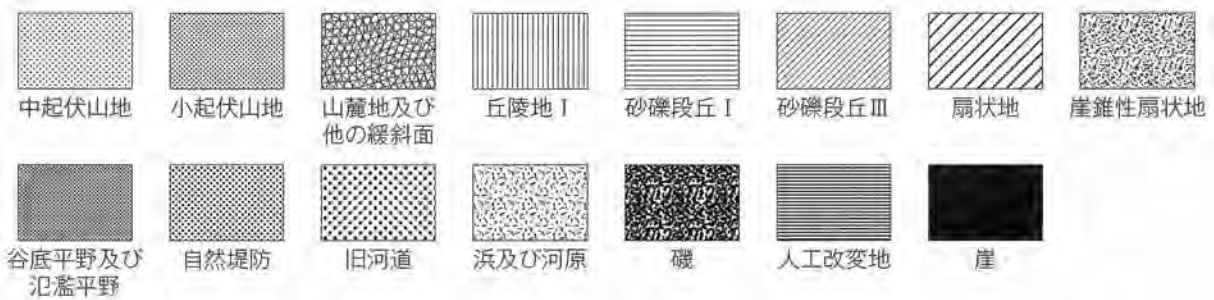
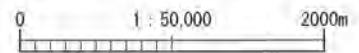
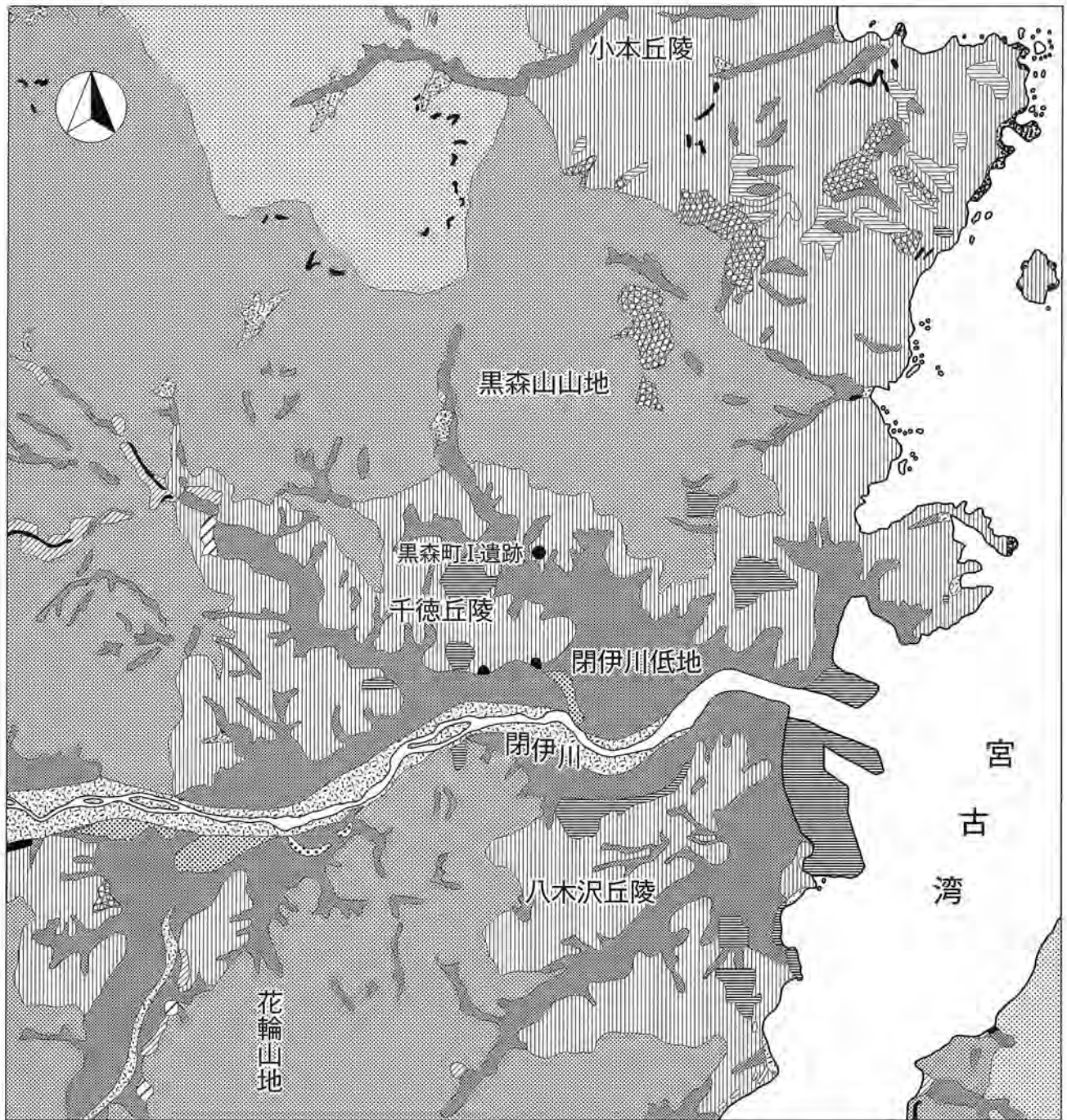
<発掘調査作業員・整理作業員>

佐々木亨 山崎日日雄 伊藤勝夫 舘崎禮子 扇田正義 佐々木則義 大程保見 佐々木壽郎
在原正利 山口忠夫 木村洋一 山根清美 佐々木厚子 中村明子 平山早予子 崎尾由美子

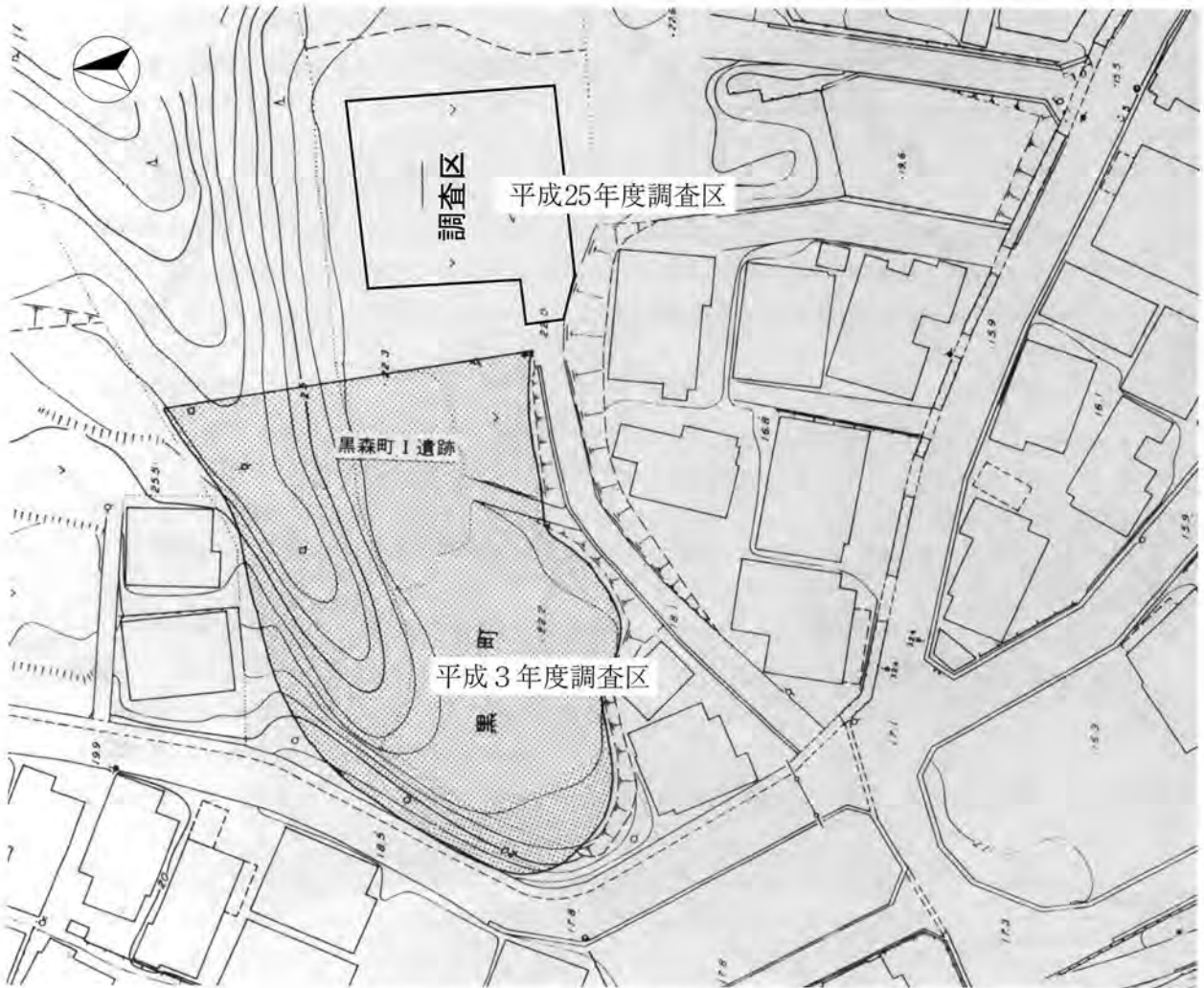


遺跡コード	遺跡名	遺物・遺構	遺跡コード	遺跡名	遺物・遺構
LG33-0385	横山	土師器・須恵器・鉄滓	2310	山口館	城館遺跡
0322	鴨崎Ⅱ	土師器・須恵器	1364	黒森マギ沢	縄文時代早期土器
0311	鴨崎Ⅰ	土師器	1332	黒森山	古黒森神社等
0310	泉町狐崎Ⅰ	土師器	2362	黒森町Ⅰ	近世鋳物工場跡・墓所
LG23-2353	拝殿ヶ沢	縄文時代土器・鉄滓・土師・須恵器	2080	小沢Ⅱ大上	縄文時代土器
2377	小沢Ⅱ貝塚	縄文時代早期・貝層	2003	日の出町Ⅰ	縄文時代前期土器
2346	小沢Ⅲ石倉平	縄文時代中期・後期土器	2033	日の出町Ⅱ	縄文時代中期土器・フイゴ羽口
2336	小沢Ⅳ人形鼻	縄文時代後期土器・土師器・須恵器	2044	日の出町Ⅲ	縄文時代土器
2325	小沢Ⅴ神籠石	縄文時代晩期土器・土偶・土師器	2076	沢田Ⅰ	土師器
2323	拝殿峠	縄文時代後期土器	2087	沢田Ⅱ	
			LG34-0025	黒田館	城館遺跡
			LG33-0340	横山	土師器・須恵器・鉄滓

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡



第2図 地形分類図



第3図 調査区と周辺の地形

1-4 立地と環境

岩手県宮古市は沿岸のほぼ中央に位置し、太平洋を望む水産都市である。昭和16年に宮古町と山口村、千徳村、磯鶏村が合併して宮古市が誕生している。宮古湾を有し、古くは江戸・長崎向けの海産物の積出し港、北海道松前への中継港として栄えた。その「港町」は近年内陸の新里村、川井村と合併し、「海と山の町」となり、市域を大きく拡大している。景勝地にも恵まれ、国立公園「浄土ヶ浜」をはじめとして、本州最東端の地である鮭ヶ崎あたりから北に向かう海岸線に沿って雄大な風景が連なる。

宮古湾には閉伊川、津軽石川の二大河川が流れ入り、遺跡の大半がその流域、その支流域に分布する。背後の丘陵地には古代の集落、中世の城館跡などが広く分布し、城館の主の名前が地名となって残されている例も多い。

今回の調査地である黒森町I遺跡は黒森山地の南端部に位置する。平成3年の一次調査では平坦地で近世の鋳物工場跡、背後の丘陵地では近世の墓所が出土している。今回の調査区はその隣接地の平坦地である。周辺を石垣で囲まれており、鋳物工場の続き、建物跡などを想定して調査に当たった。周辺の調査例では、北東部の「山口館」では多くの鍛冶炉を伴った中世の建物跡が報告され、北の「拝殿峠」では中世の建物跡や製鉄炉跡が出土しており（資料整理中）、製鉄関連の遺構が目立っている。

2 調査内容

2-1 基本層序

調査区は第一次調査区（1992）の東隣に位置する（第3図）。北側と東側を石垣で囲まれた平坦地で、現状は耕作地である。調査は地山面まで掘下げる方法で行った。調査の結果、調査区の原状は傾斜地であり、傾斜地に盛土をして平坦面を作っていることが分った。盛土からは明治、江戸時代の遺構、下の自然堆積層、地山面からは平安時代の遺構が出土している。南側の盛土層、自然堆積層は厚く、地山面まで掘下げることは出来なかった。堆積土は盛土と自然堆積層に分かれる。堆積土は10層に大別される。

1a～1c層は耕作土、最も新しい盛土層である。調査区全域に堆積する。

2a～2c層は南西部斜面に堆積する盛土層である。盛土の時期は不明であるが、層序から近代の仕事と思われる。

3a～3c層も盛土層である。I期1号遺構の検出面である。

4層もやはり南西部の谷を埋める盛土層である。

5a～5e層は調査区の南半分を埋める盛土である。2～4号遺構群、5、6号土坑跡の検出面である。

以上すべて盛土であり、I期遺構群の構築土層である。

6層は自然堆積層である。斜面全域に堆積する。

7層は西側から中央部にかけて分布し、南西の谷にむかって厚く堆積する包含層である。土器などの多量の遺物の他に焼土塊、炭などを多く含まれていることや、褐灰色の大きな土塊が混じっていることなどが特徴である。また20号竪穴住居跡の検出面である。

8層は南側の低部に堆積する黒色土層である。貝層を伴った24号土坑跡の検出面である。上部に土器などを含む遺物包含層であるが、南西部の谷付近では水が湧き出す。

7層、8層は厚い包含層であるが、安全上のこともあり、掘り切れずに終了した。

9層は地山への漸移層、10層は地山面である

2-2 検出した遺構と遺物

I期 近世、近代の遺構群

I期遺構群は南西部の炉跡、溝跡、土坑跡、北東部の土坑跡などから構成される。

1号溝、土坑跡（第6、7図）

調査区南東部に位置する。検出面は盛土3層である。2、3号遺構群と4号遺構群を切る。L字状に掘削された溝、土坑跡である。溝跡は北に向かって深くなり、西方向に向かう屈折部では、段上に掘り込んで土留め石を組んでいる。土留め石が切れた辺りからいきなり深く、広く方形に掘り込まれる。そこから更に一段下がって方形に掘り込まれた後先細りなり、点線で示したところで完結している。規模は南端部で幅80cm、深さ30cm、屈曲部では幅2.1m、深さ60cmである。方形の掘り込み箇所では最大幅3.6m、深さ1.3mである。埋土は砂土で、人為的な堆積と思われる。

出土遺物（第8、9図）

1は染付け陶器の皿である。内、外面に草文を施す。瀬戸美濃系で18世紀代に伴う。2は染付け磁器の皿である。見込みは笹文である。産地、年代は不明である。3は施釉陶器の鉢である。産地、年代は不明である。

3～は13鉄製品である。4、5は鉄銭である。4の径は31mmである。

6～11は角釘である。12、13は板状の製品である。12は段差をつけた成型しており、鍋などの製品の可能性がある。

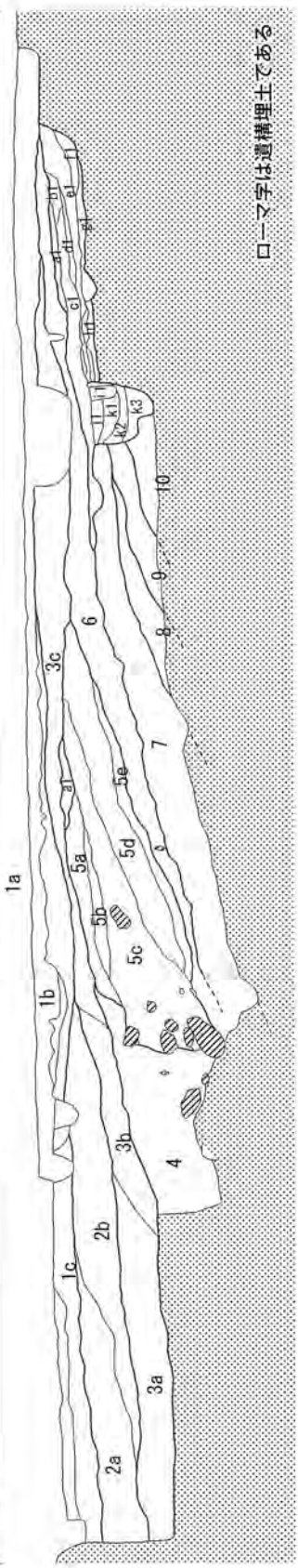
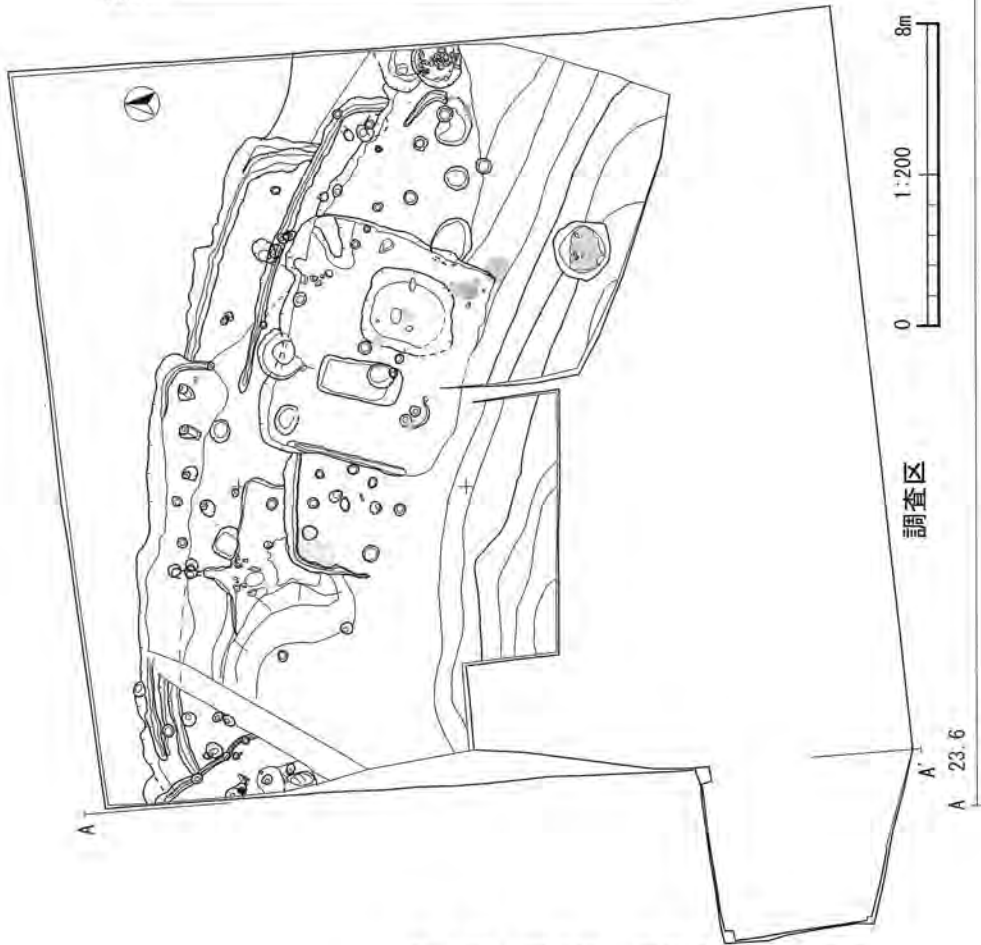
14は銅製品の「指貫」である。

15は土製品である。断面は内湾するが、内側は三面とも面取りされ、さらに端の一部も面取りされている。鋳物の「鋳型」と思われる。

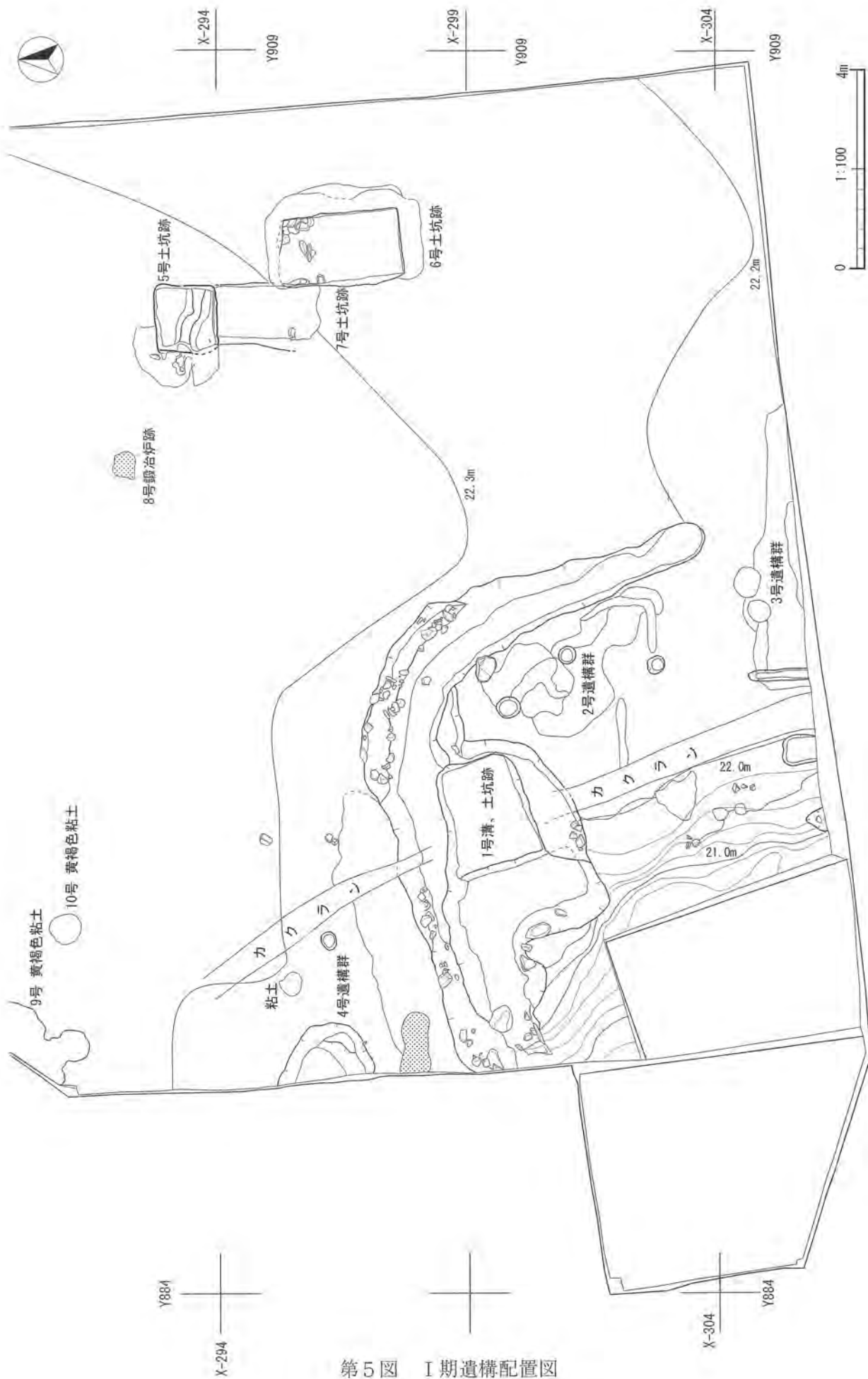
遺構の年代は出土遺物から幕末から明治に伴う。

基本土層 土層観察表

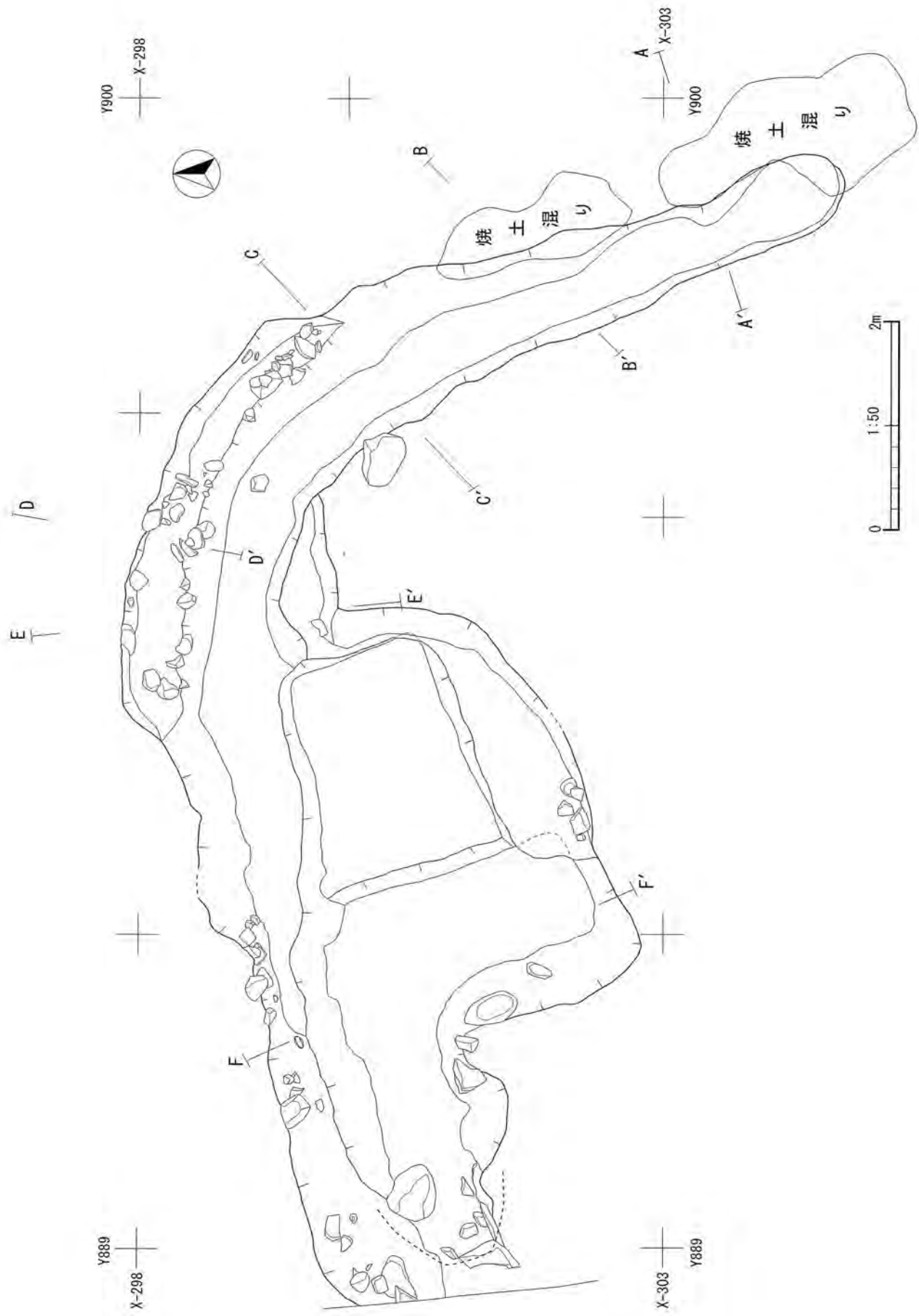
層名 西壁 層序	基本土層	混入土	堅さ・構造・混入物
1a	10YR3/5 暗褐色砂壤土	10YR4/6 褐色真砂土 3%	中、中、塊
1b	10YR5/3 にぶい黄褐色砂土	10YR6/4 にぶい黄褐色真砂土 3%	中、中、塊
1c	10YR5/4 にぶい黄褐色真砂土	10YR5/6 黄褐色粘土 3%	中、中～密、塊
2a	10YR5/4 にぶい黄褐色砂土	10YR4/4 褐色砂土砂状 15%	中、中、塊
2b	10YR5/3 にぶい黄褐色砂土	10YR6/4 にぶい黄褐色真砂土塊 2%	中～軟、中～軟、塊
3a	10YR4/4 褐色砂土	10YR5/3 にぶい黄褐色真砂土層状 10%	中～固、中、塊
3b	10YR5/3 にぶい黄褐色砂土	10YR3/3 暗褐色砂壤土塊 1%	中～軟程度、中程度、塊
3c	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂土層状 10%	中、中、塊
4	10YR5/3 にぶい黄褐色砂土	10YR4/4 褐色砂土層状 3%	中、中、塊
5a	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR5/3 にぶい黄褐色真砂土層状 15%	中、中、塊
5b	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色真砂土 10%	中、中、塊
5c	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色真砂土 3%	中～固、中、塊
5d	10YR5/6 黄褐色砂土	10YR5/6 黄褐色真砂土 10%	中～固、中、塊、灰(少)
5e	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR5/3 にぶい黄褐色真砂土 2%	中、中、塊
6	10YR5/4 にぶい黄褐色砂土	10YR5/6 黄褐色真砂土 2%	中、中、塊
7	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土塊 5%	中～固、中、塊
8	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色真砂土 3%	中、中、塊
9	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色真砂土層状 5%	中、中～密、塊
10	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色真砂土層状 10%	中～軟、中、塊



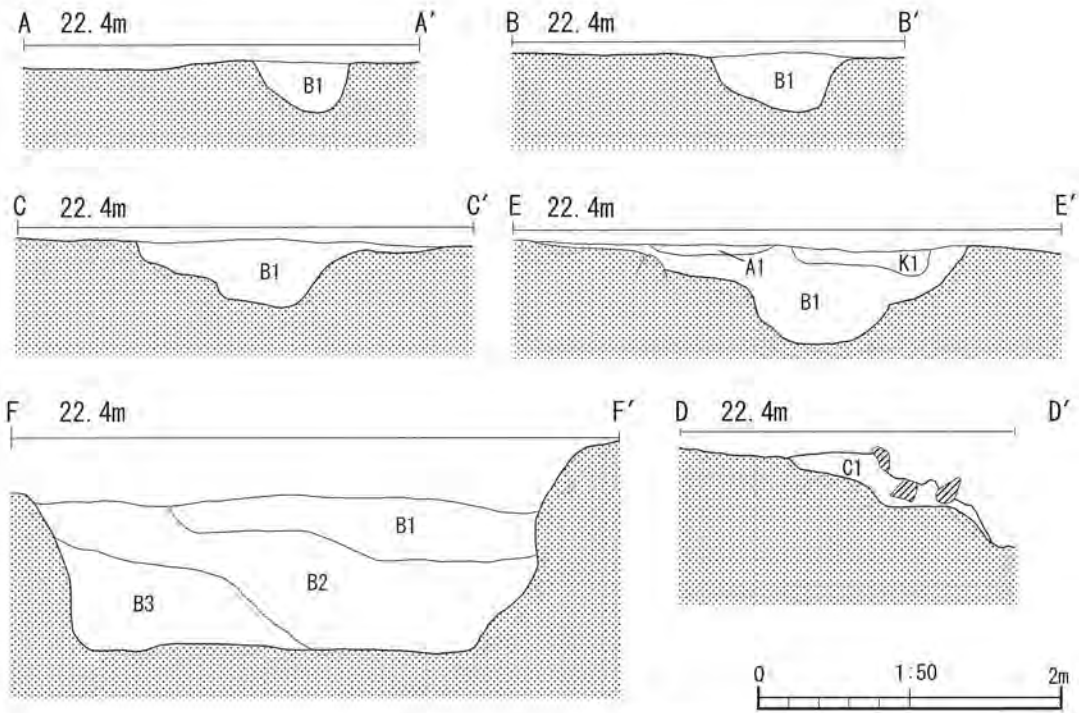
第4図 調査区 西壁面土層断面図



第5図 I期遺構配置図

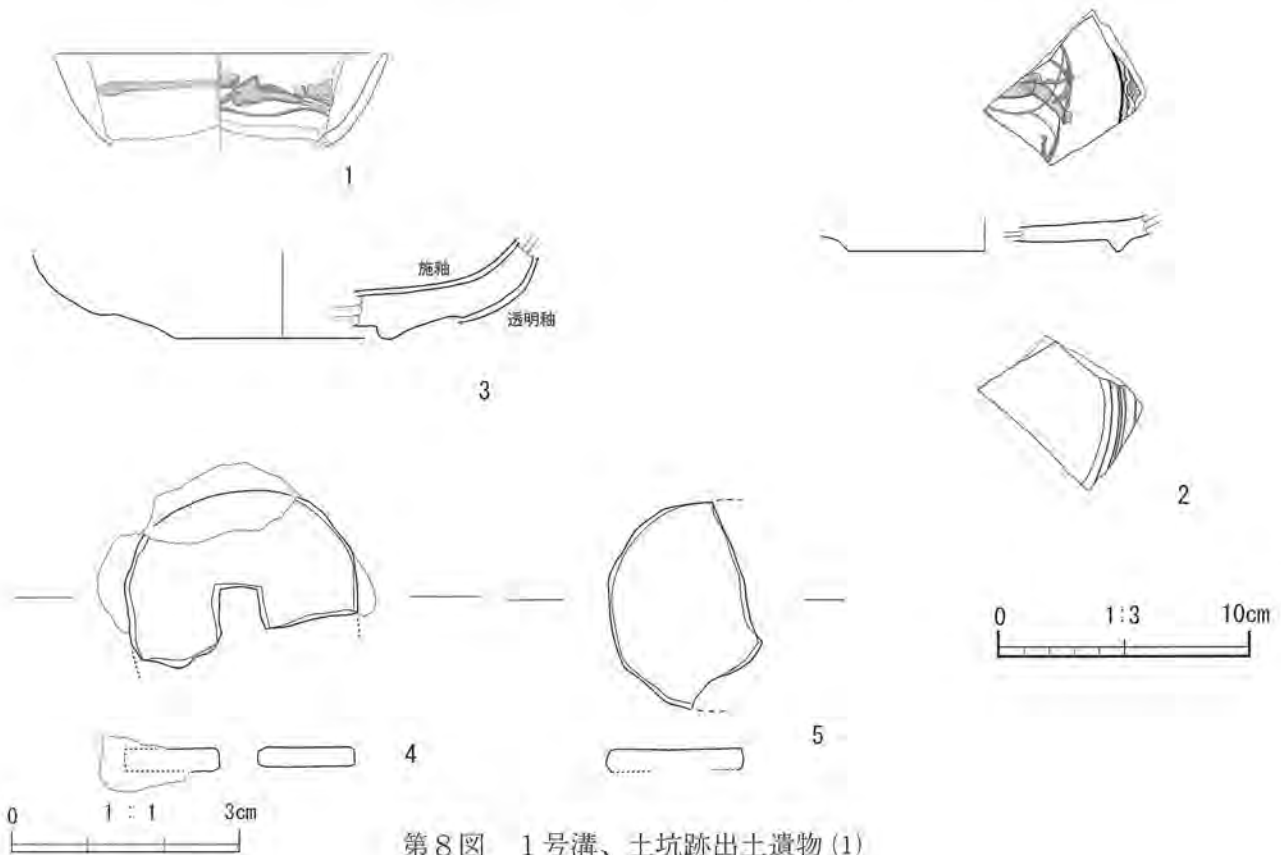


第6図 1号溝、土坑跡 平面図

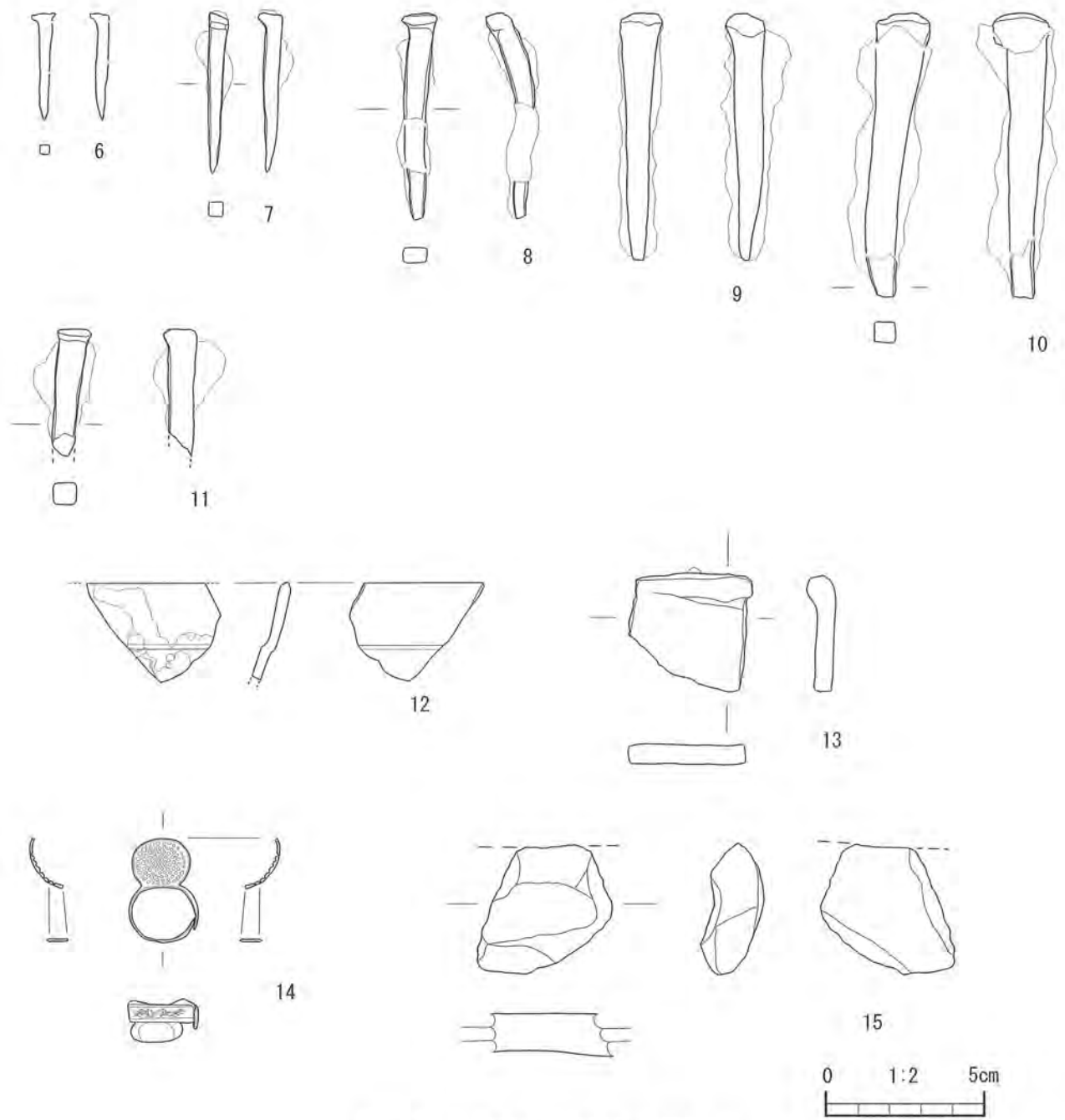


第7図 1号溝、土坑跡 断面図

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物	
1号溝、 土坑跡	A1	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色砂壤土？状 10% 10YR 7/4 にぶい黄橙色粘土 2%	中～固、中～疎、塊
	K1	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂土 2%	中～軟、中、塊
	B1	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10YR6/6 明黄褐色砂土 2%	軟、疎、塊
	B2	10YR6/4 にぶい黄橙色砂土	10YR6/4 にぶい黄橙色新砂土ブロック 15% 10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 1%	中～軟、中、塊
	B3	10YR4/2 灰黄褐色砂土	10YR6/4 にぶい黄橙色真砂土ブロック	中～軟、疎、塊
	C1	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色粘土 5% 10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 3%	固、密、塊塊、鉄滓、炭



第8図 1号溝、土坑跡出土遺物(1)



第9图 1号沟、土坑迹出土遗物(2)

2、3号遺構群（第10図～第14図）

調査区南西部に位置する。検出面は盛土5層である。1号溝、土坑跡に切られる。東側の平坦面から西側斜面にかけての炭、焼土、粘土などの広がり土坑跡を2号遺構群とし、南壁面沿いの炉跡、焼土遺構などを3号とした。

2号遺構群（第11図）

3号遺構群の北に位置する平坦面と西側斜面である。検出面は盛土5層である。東側と北側を1号溝、土坑跡に切られている。遺構は小規模な土坑跡5基のみであるが、3号遺構群に関連すると思われる焼土、粘土、炭などが全面に広がっており、多量の遺物が出土している。遺物の大半が西斜面のH1、G1層から出土している。

3号遺構群（第13図）

2基の炉跡（3号d、e）と構築土、土坑跡（3号b、c）、溝跡（3号a）3号f焼土遺構などから構成される。

3号a溝跡、3号b土坑跡（第12図）

調査区中央、南端に位置する。溝跡は南壁から北方向に延びる。検出面は盛土5層である。炉跡を切る。規模は幅20cm、深さ10cmである。遺物は出土していない。土坑跡は溝跡の東側に位置する。平面形は円形である。規模は径約60cm、深さ8cmである。遺物は出土していない。

3号c土坑跡、3号d、3号e炉跡（第13図）

3号d、eは大小2基の炉跡である。いずれも検出面は盛土5層で、構築土（E1層）を掘り込んで作られている。大型炉の平面形は隅丸方形になりそう形ではあるが、正確な形状は不明である。また断面形状においても不連続な部分があり、新旧の炉跡が重複している可能性は高い。いずれにしる類例のない大型炉跡である。規模は東西2.3m、炉壁高約50cmである。炉壁の胎土は炉内側が酸化炎焼成、外側が還元炎焼成を受けている。

3号e炉跡は3号d炉跡の西に位置する小規模な炉跡である。平面形は円形で、規模は径約50cm、深さ20cmである。焼土層H1は固く焼き締まっている。鍛造剥片などは検出していない。

3号c土坑跡（第14図）

3号炉跡の北に位置する。検出面は盛土5層である。3号f溝跡、構築土を切っている。平面形は円形、規模は径60cm、深さ25cmである。大きな特徴として、粘土が敷かれ（C1層）、その上に断面形が「凹」の字を伏せた形で円形の周溝が掘り込まれていることである（B1層）。規模は径48cm、幅3cmである。溝上からは鉄製品が出土している。粘土は焼けてはいない。

3号f焼土遺構（第13図）

3号炉跡の北側に位置する。炉跡と平行して東西に帯状に延びる焼土遺構である。3号c土坑、構築土（E1）に切られている。規模は幅20cm、深さ25cm～30cm、延長は東西方向に3mである。この焼土層（F1）は固く締まってはいるが、焼け方が一様であり、他所で焼かれた土を埋めたものと思われる。配置から炉跡とセットで、防湿効果をねらった施設の可能性がある。遺物は出土していない。

2号遺構外出土遺物（第15図～第23図）

1～5は陶磁器である。

1は施釉陶器の菊皿である。瀬戸美濃産で17世紀に伴う。2は染付磁器碗の口縁部である。外面に花文を施す。産地、年代は不明である。3は染付磁器の鉢である。外面に源氏香文、内面に笹文

を施す。焼継痕をもつ。19世紀代に伴う。産地は不明である。4は全体に飴釉を掛けられた片口である。産地、年代は不明である。5は急須である。「温故」の銘印があり、江戸時代末期に窯を起こした「温故焼」（岐阜県）と思われるが、詳しい年代は不明である。6は播鉢である。

7～46までは鉄銭である。

銅銭「寛永通宝」の径を基準にして5つのグループに分けた。7～9は径が小さいもの（22mm）。10～20は同径のもの（23.5mm）。21～40は径の大きいもの（30mm）。41～45はさらに径の大きいもの（32mm）。46は最大径のもので1点である（34mm）。

48～61は角釘である。

62～90は鉄銭、釘以外の鉄製品である。

62～65刃物である。66、67は鍋の吊手、縁である。68、69は鍔である。

70～72は細い板状の製品である。73～80は薄い板状の製品である。鍋などの製品の破片と思われる。81～85は明瞭な形状をもつ厚い板状、太い棒状の製品である。86～90は板状、塊状の鉄塊である。

91、92は流動滓である。いずれも銅滓で、91には鉄滓が付着している。

93～96は土製品である。

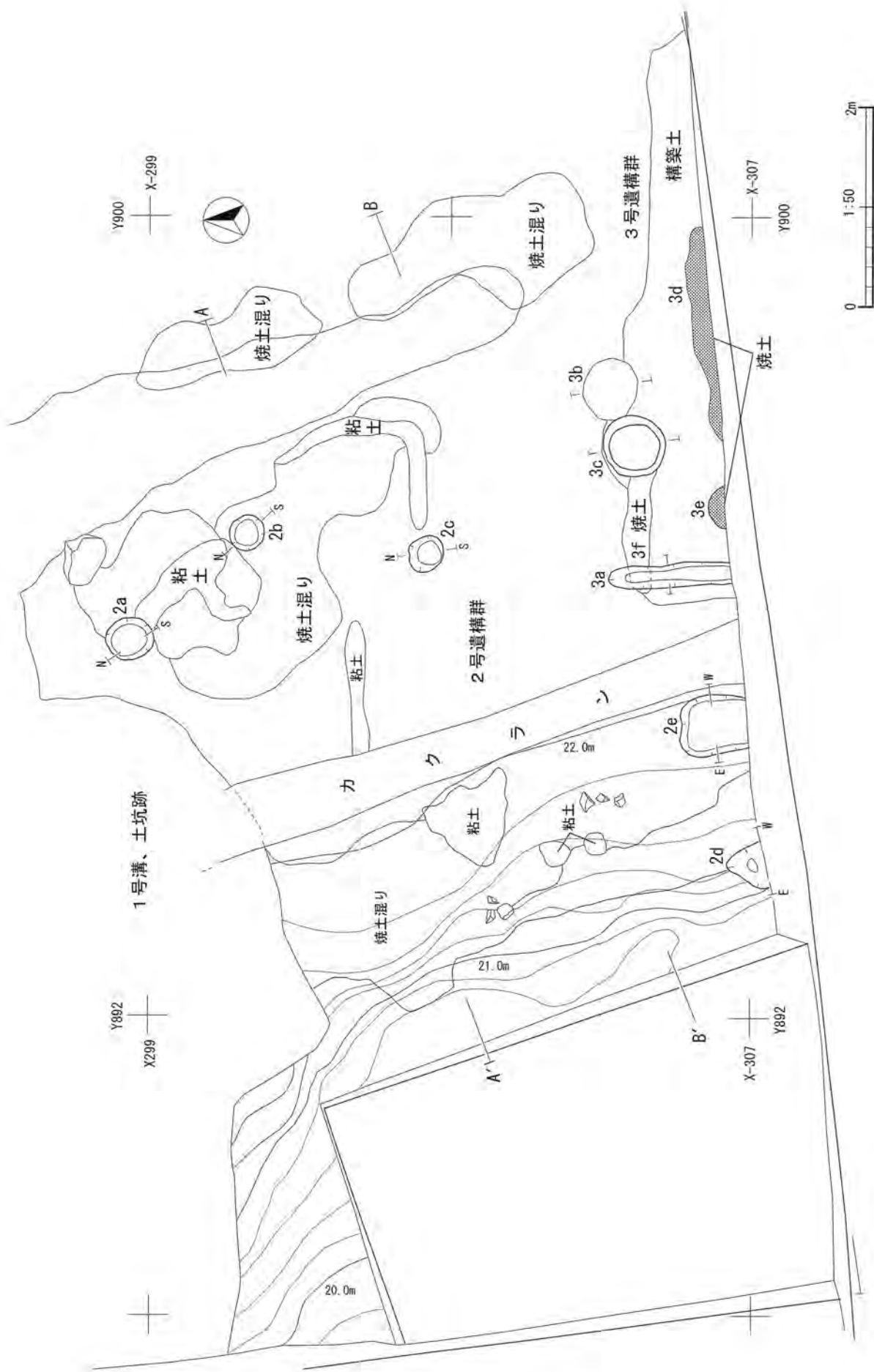
93、94は面取り成形され土製品である。いずれも鋳物の「鋳型」片と思われる。95はレンガ状の製品であるが、内湾している。同形の土製品で条痕をもつものが一次調査で出土している。炉の構築に使用されたものである。96はいわゆる「泥面子」と思われる。植物を図案化したものを型取り成形される。

97は椀型滓である。98は石製品である。内面には段差を設けやや傾斜させて成型している。石臼か。炭化物が付着している。花崗岩である。

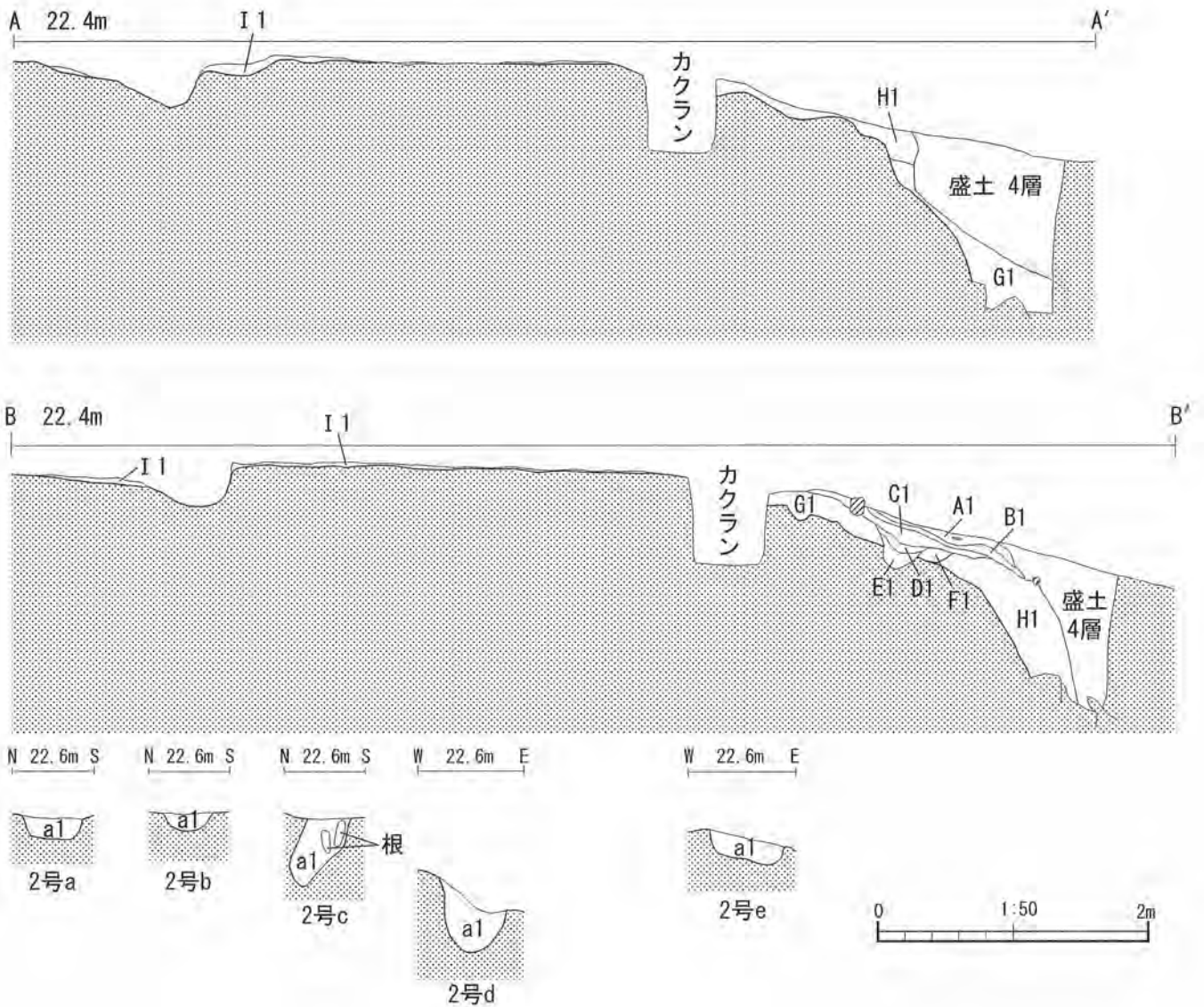
3号遺構群出土遺物（第24、25図）

1～11は3号c土坑跡、B1層から出土したものである。他は遺構検出面から出土したものである。1～8は鉄製品である。1、2は鉄銭である。3、4角釘である。5～8は板状の鉄製品である。9～11は銅の流動滓である。12は土製品である。三面が面取りされている。鋳物の「鋳型」と思われる。12～17は鉄滓である。12～16は椀型滓である。17は羽口のように筒状に固まった鉄滓である。

2号、3号遺構群は、出土遺物から江戸時代後期に伴う。



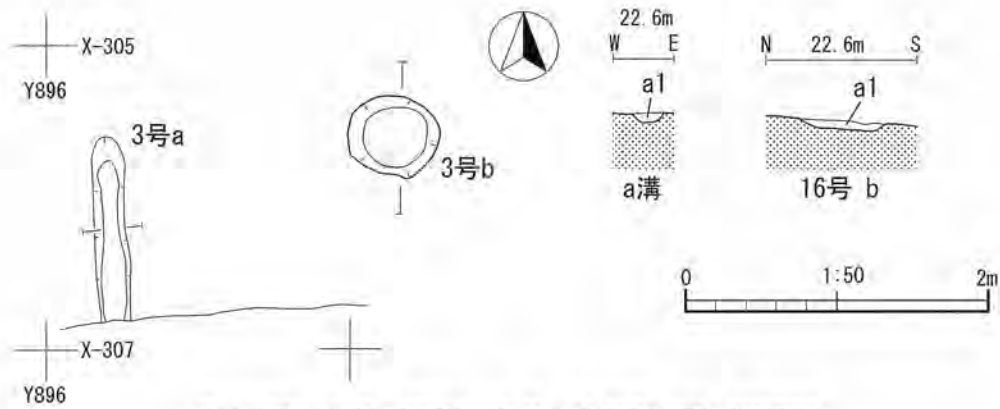
第10図 2号、3号遺構群の配置



第11図 2号遺構群断面図

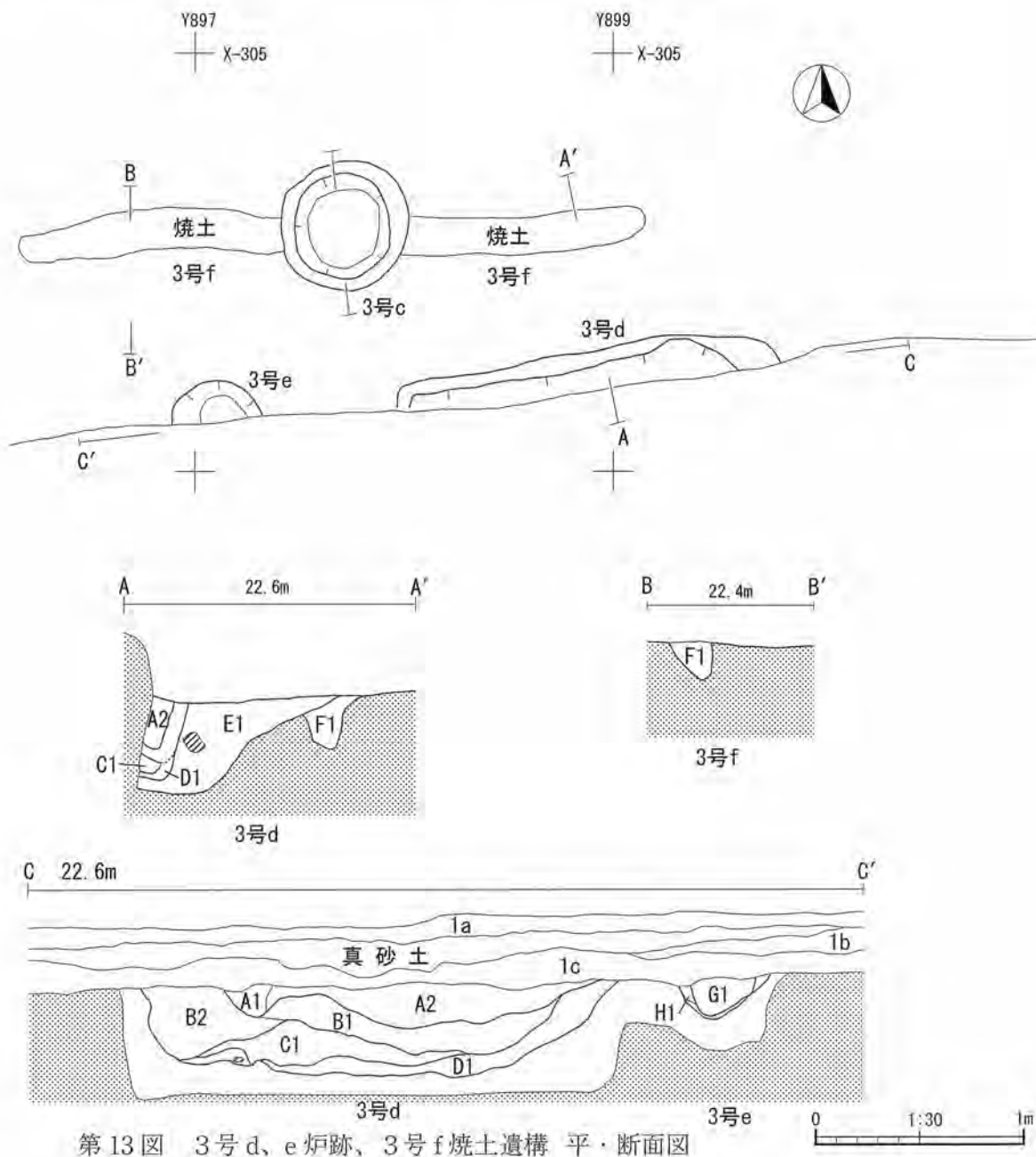
層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物	
2号遺構群	A1	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色層状 10%	軟、疎、塊、貝、焼土塊、炭、粘土 (少)
	B1	2.5YR5/3 にぶい赤褐色砂土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂土 10%	軟、疎、塊
	C1	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂土 3%	中～軟、中、塊
	D1	10YR6/4 にぶい黄橙色真砂土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土塊 2%	軟、疎、塊
	E1	7.5YR4/4 褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 10%	軟、疎、塊
	F1	7.5YR4/3 褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土塊 15%	中～軟、中～疎、塊
	G1	7.5YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色真砂土 2%	固、密、塊
	H1	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土塊 10%	軟、疎、塊・下部で陶磁器
	I1	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色真砂土 10%	中～軟、中、塊、焼土塊

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物	
2号a土坑跡	a1	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 3%	中～疎、中、塊
2号b土坑跡	a1	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土塊 10%	中、中、塊、鉄製品
2号c土坑跡	a1	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土塊 2%	中、中～密、塊、
2号d土坑跡	a1	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土塊 10% (No.13D)	
2号e土坑跡	a1	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 1%	中～固、中、塊、鉄製品

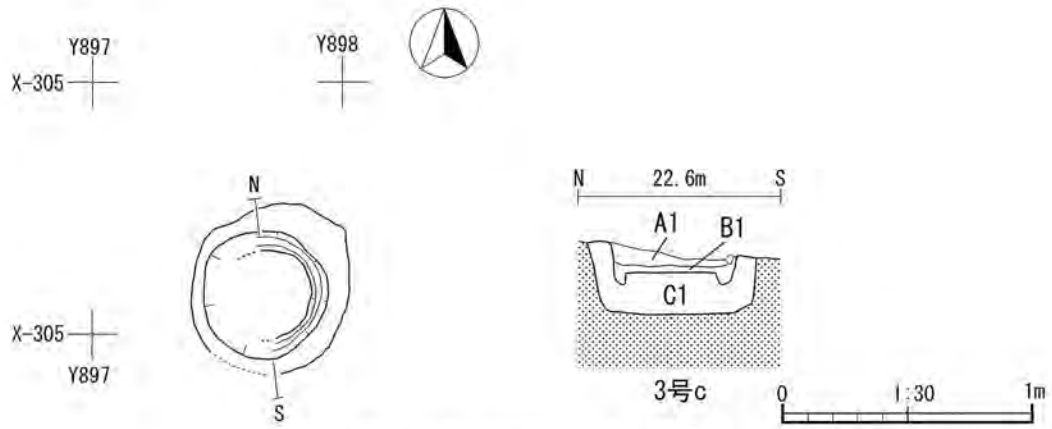


第12図 3号a溝跡、3号b土坑跡 平・断面図

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
3号a溝跡 a1	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土塊 2%	中～固、中～密、塊
3号b土坑跡 a1	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土塊 10%	中、中、塊



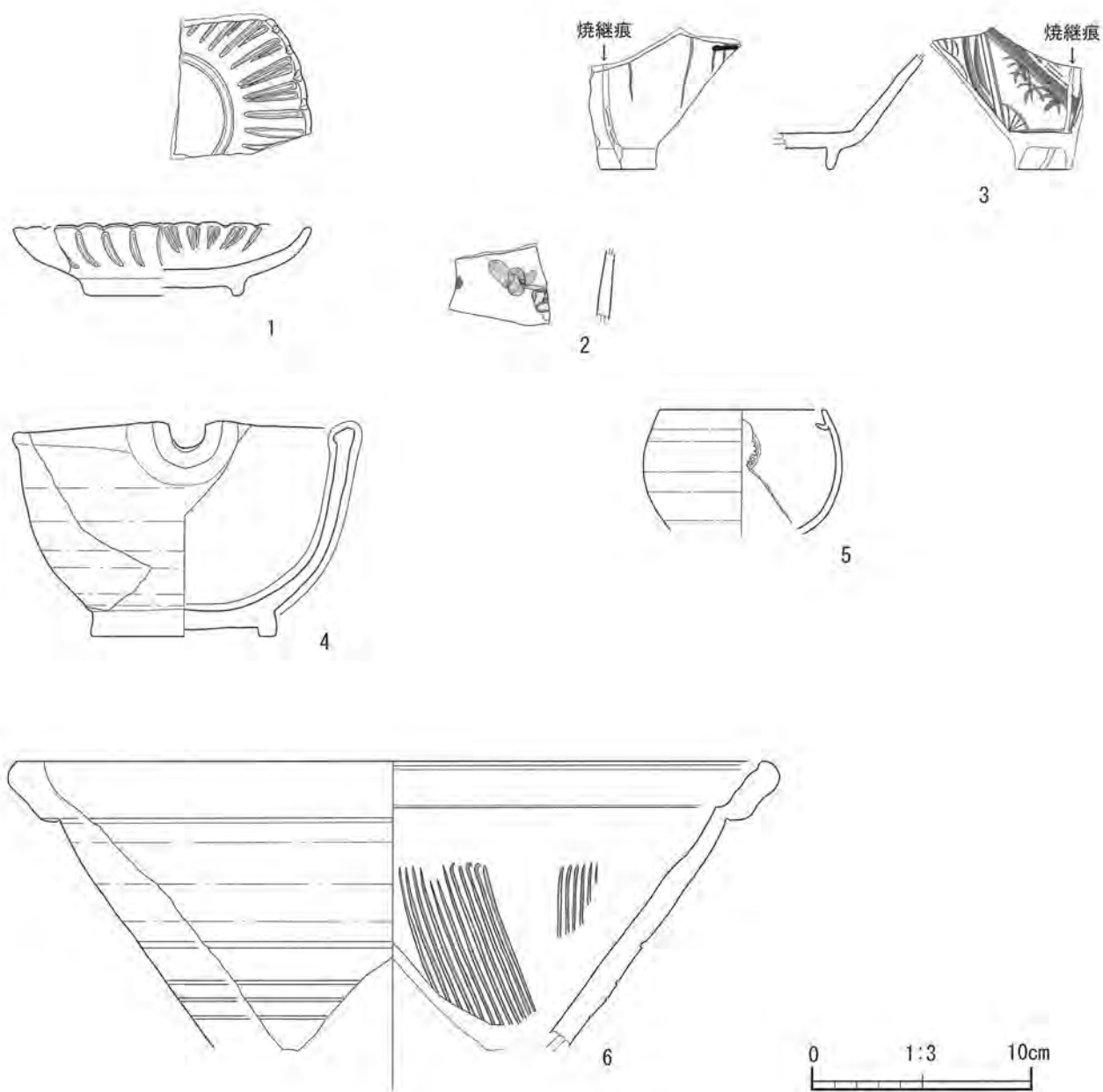
第13図 3号d、e 炉跡、3号f焼土遺構 平・断面図



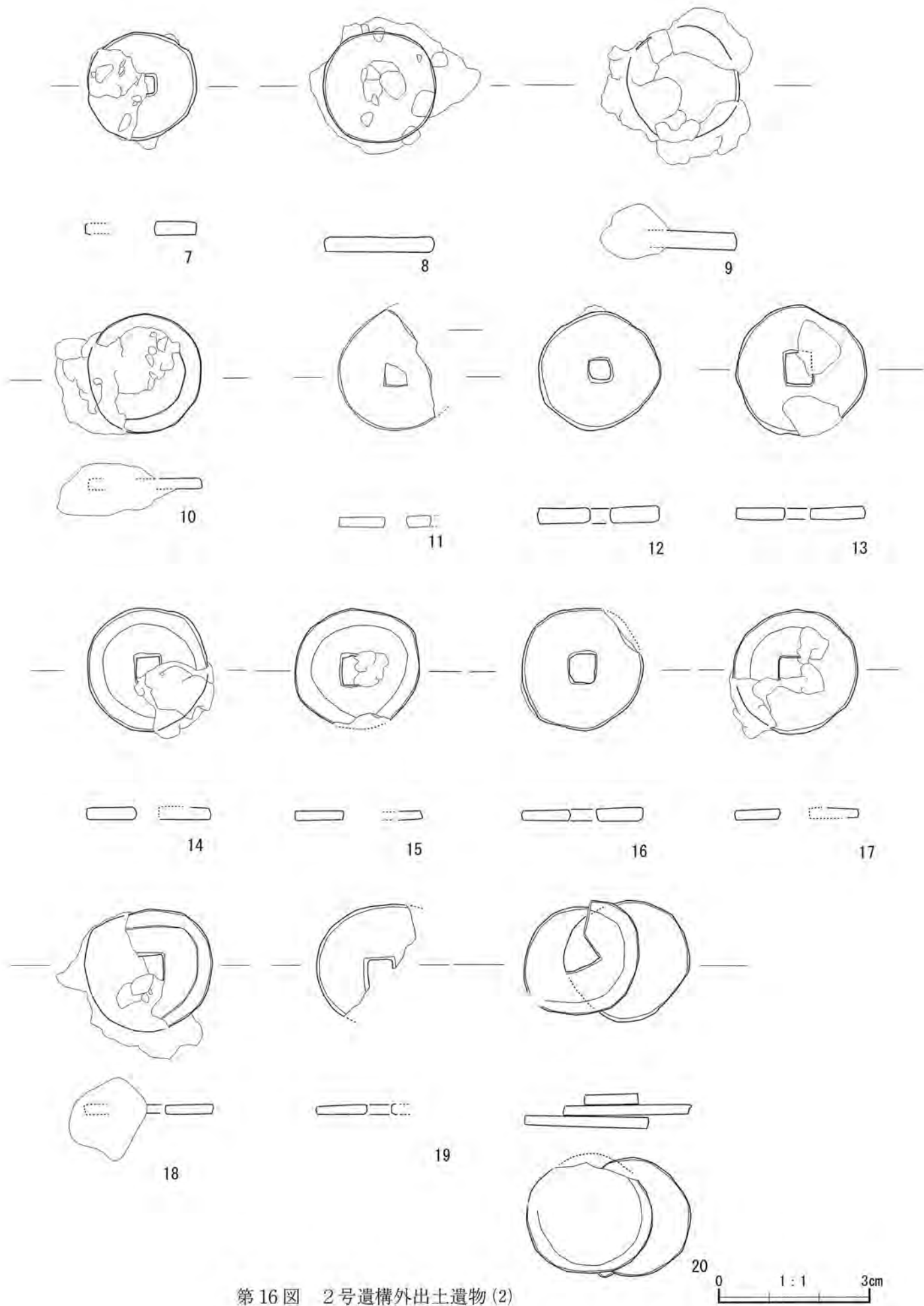
第14図 3号c土坑跡 平・断面図

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物	
3号d 炉跡	A1	10YR5/4 にぶい黄褐色	10YR4/4 褐色砂壤土塊 3%	固、密、塊
	A1	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 10%	中～固、中、塊
	B1	5YR4/6 赤褐色砂壤土	5YR3/4 暗赤褐色砂壤土 15%	固、密、塊
	C1	10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 10%	中～固、中～密、塊
	D1	5YR4/6 赤褐色砂壤土	5YR3/4 暗赤褐色砂壤土	固、密、塊
	E1	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色粘土 5%	中～固、中～密、塊
	F1	7.5YR4/3 褐色砂壤土	7.5YR4/6 褐色砂壤土塊 10%	固、密、塊
3号e 炉跡	G1	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10YR6/4 にぶい黄橙色粘土 2% 7.5 Y R 5/6 明褐色粘土 1%	固、密、塊
	H1	5YR4/6 赤褐色砂壤土	10YR2/2 黒褐砂壤土層状 10%	固、密、塊

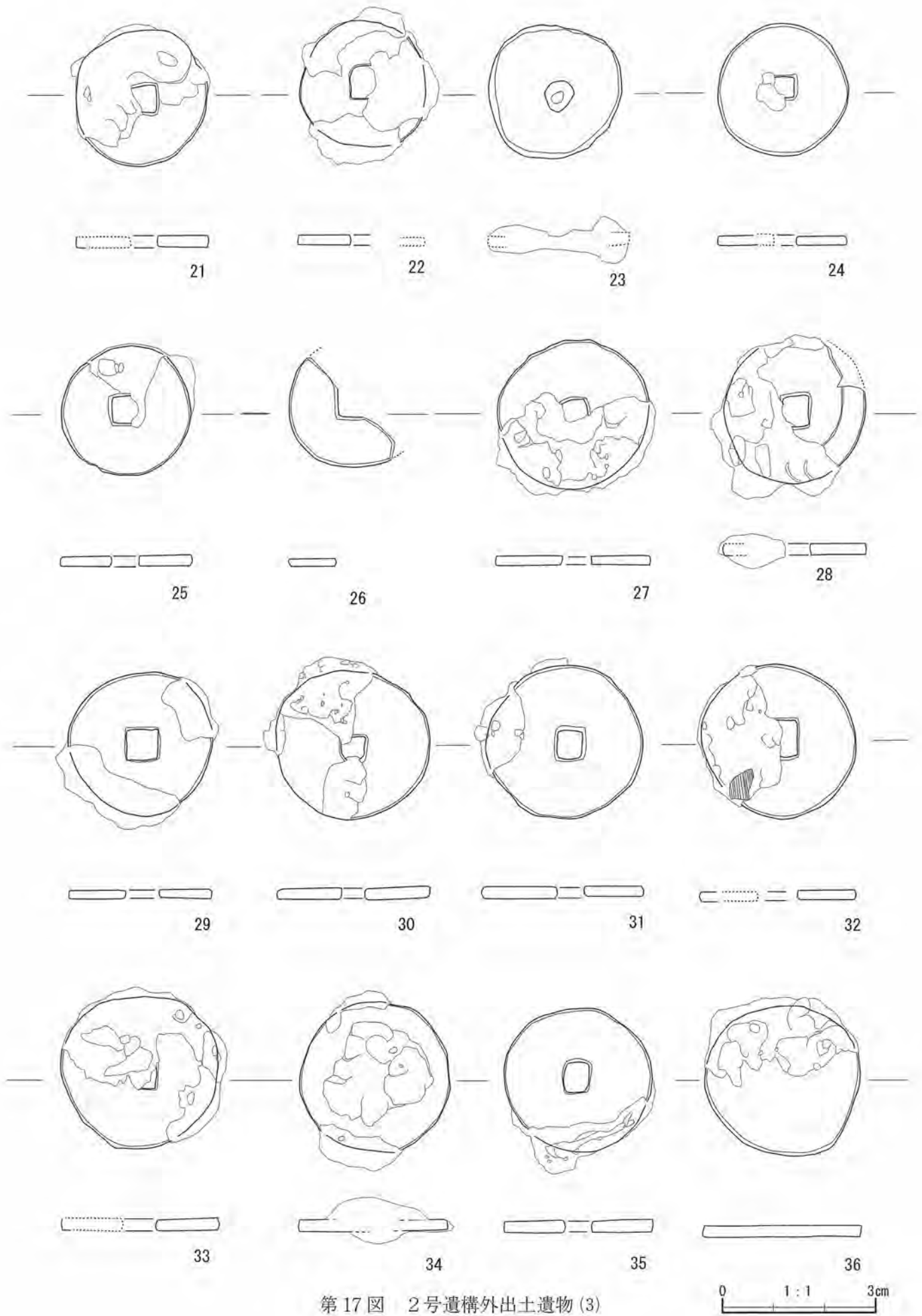
層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物	
3号c 土坑跡	A1	10YR4/4 褐色粘土	10YR5/6 黄褐色粘土 10%	固、密、塊、鉄製品(多)
	B1	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR2/3 黒褐色砂壤土塊 10%	固、中、塊、鉄板?
	C1	10YR5/6 黄褐色粘土	10YR6/6 明黄褐色粘土	固、密、塊



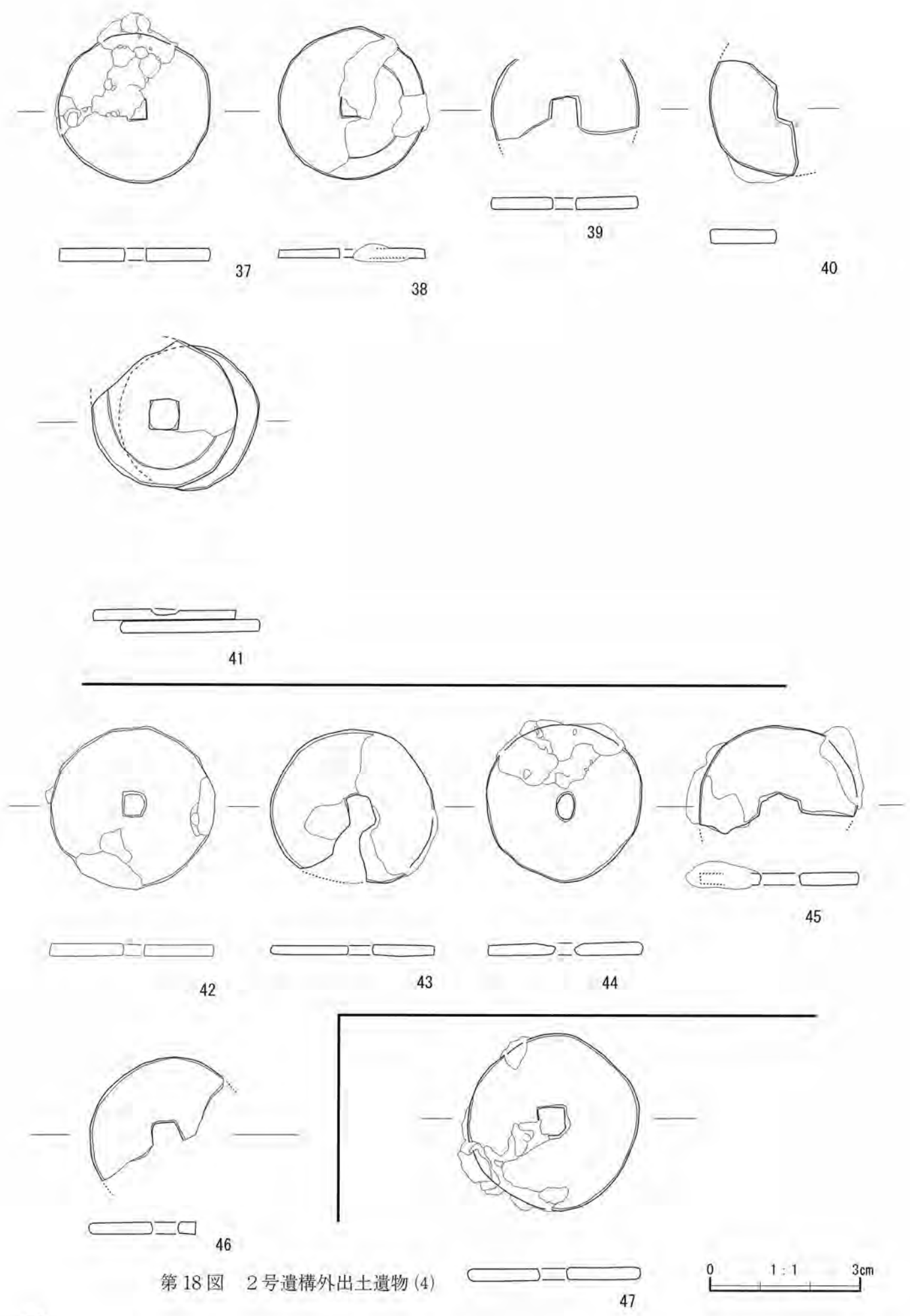
第15図 2号遺構外出土遺物(1)



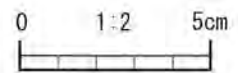
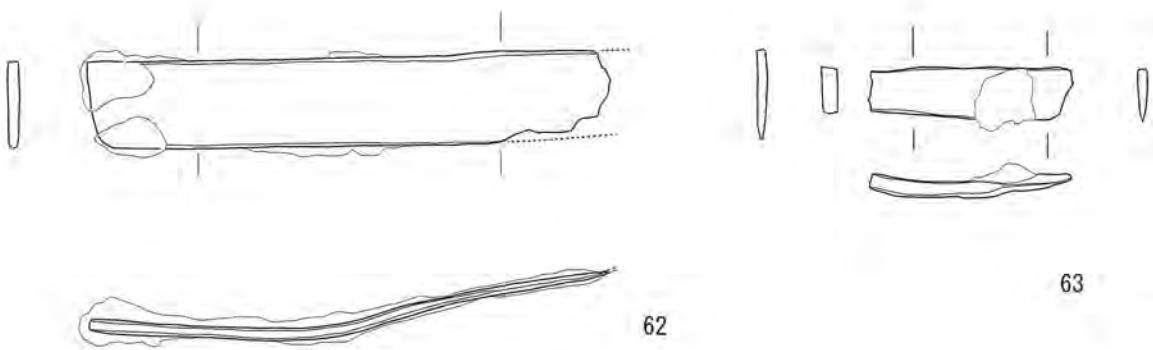
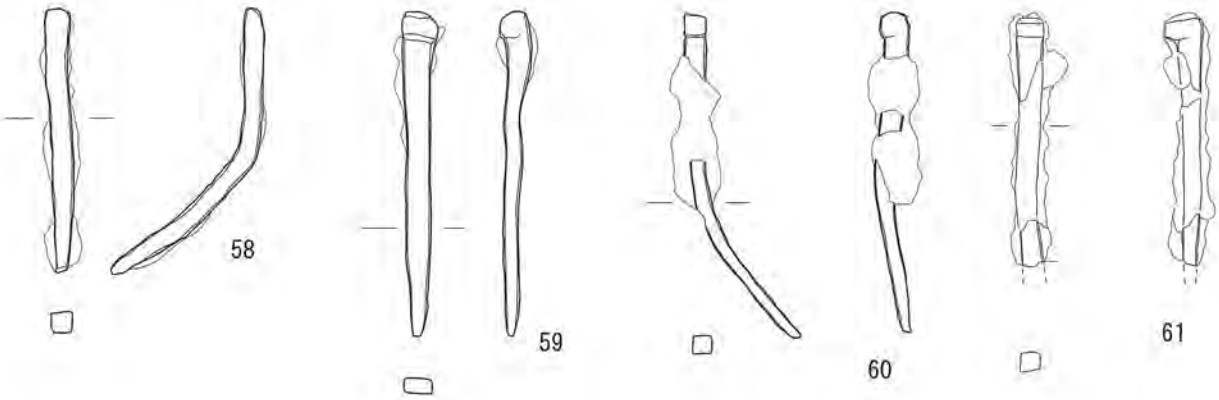
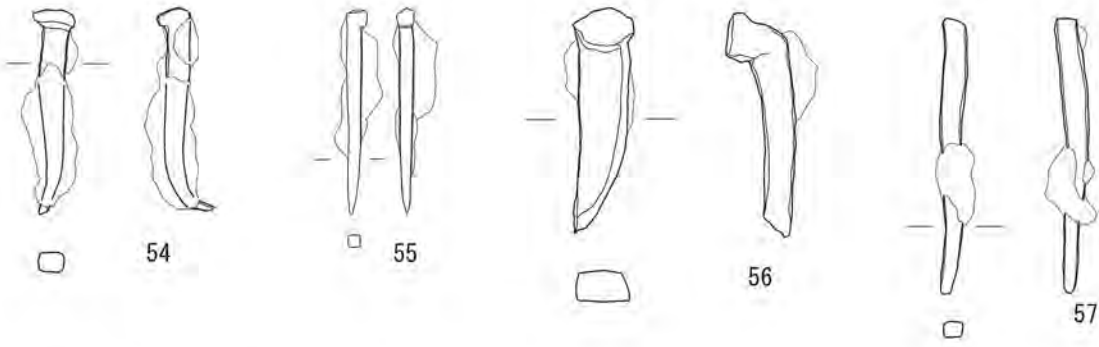
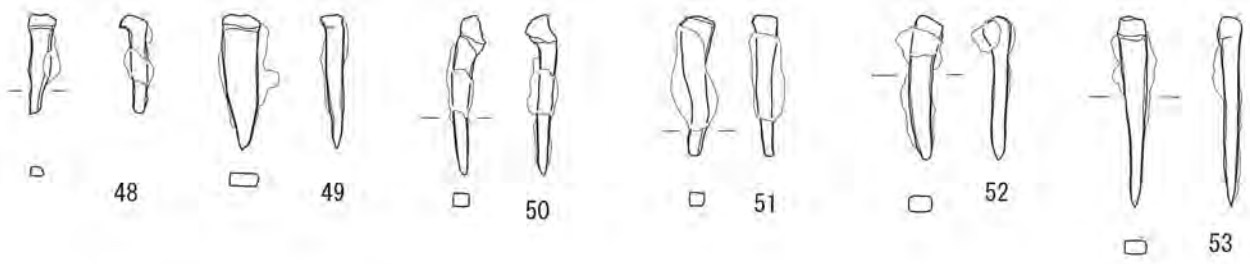
第16图 2号遺構外出土遺物(2)



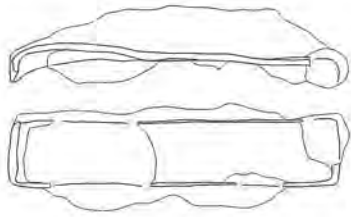
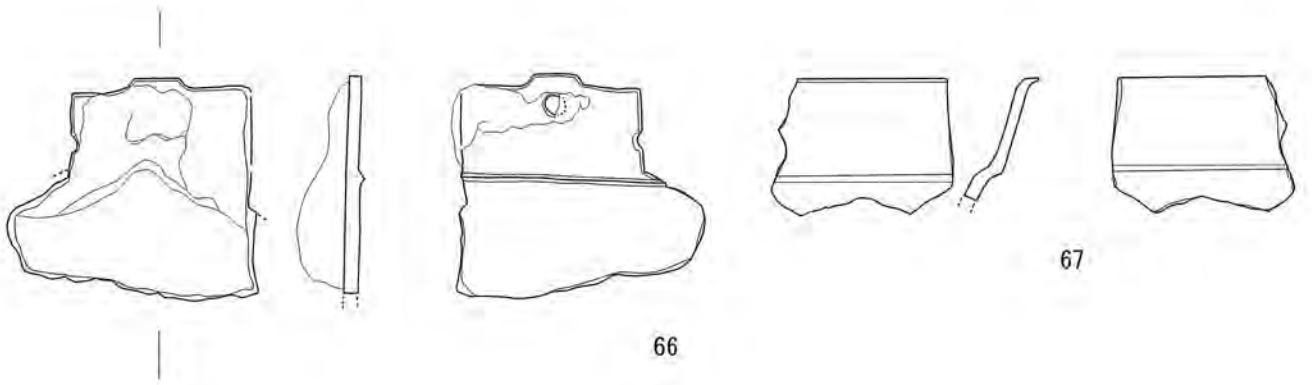
第17图 2号遺構外出土遺物(3)



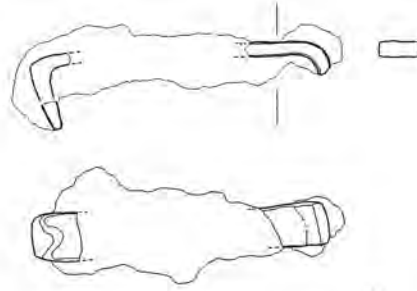
第 18 图 2 号遺構外出土遺物 (4)



第19图 2号遺構外出土遺物(5)



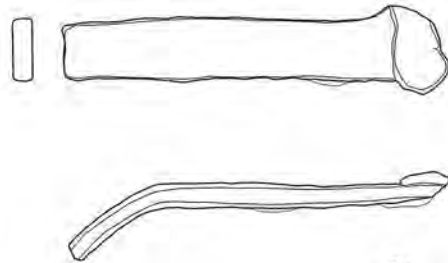
68



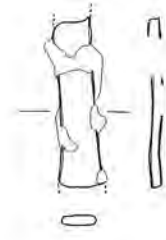
69



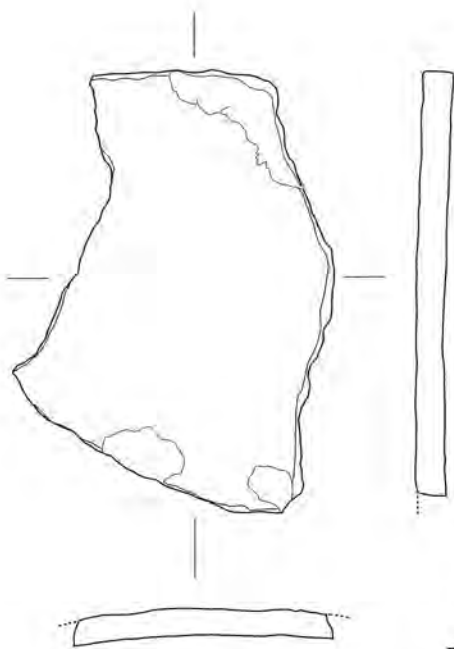
70



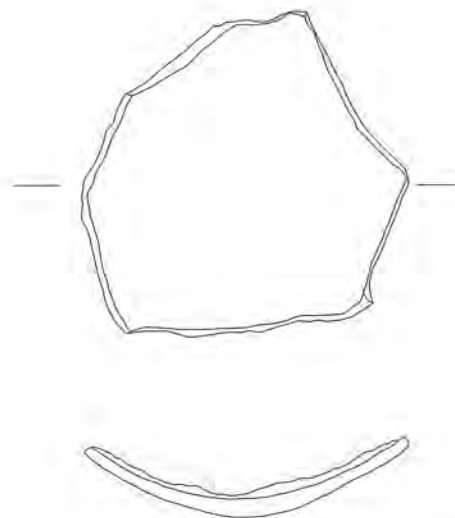
71



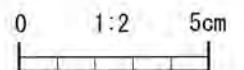
72



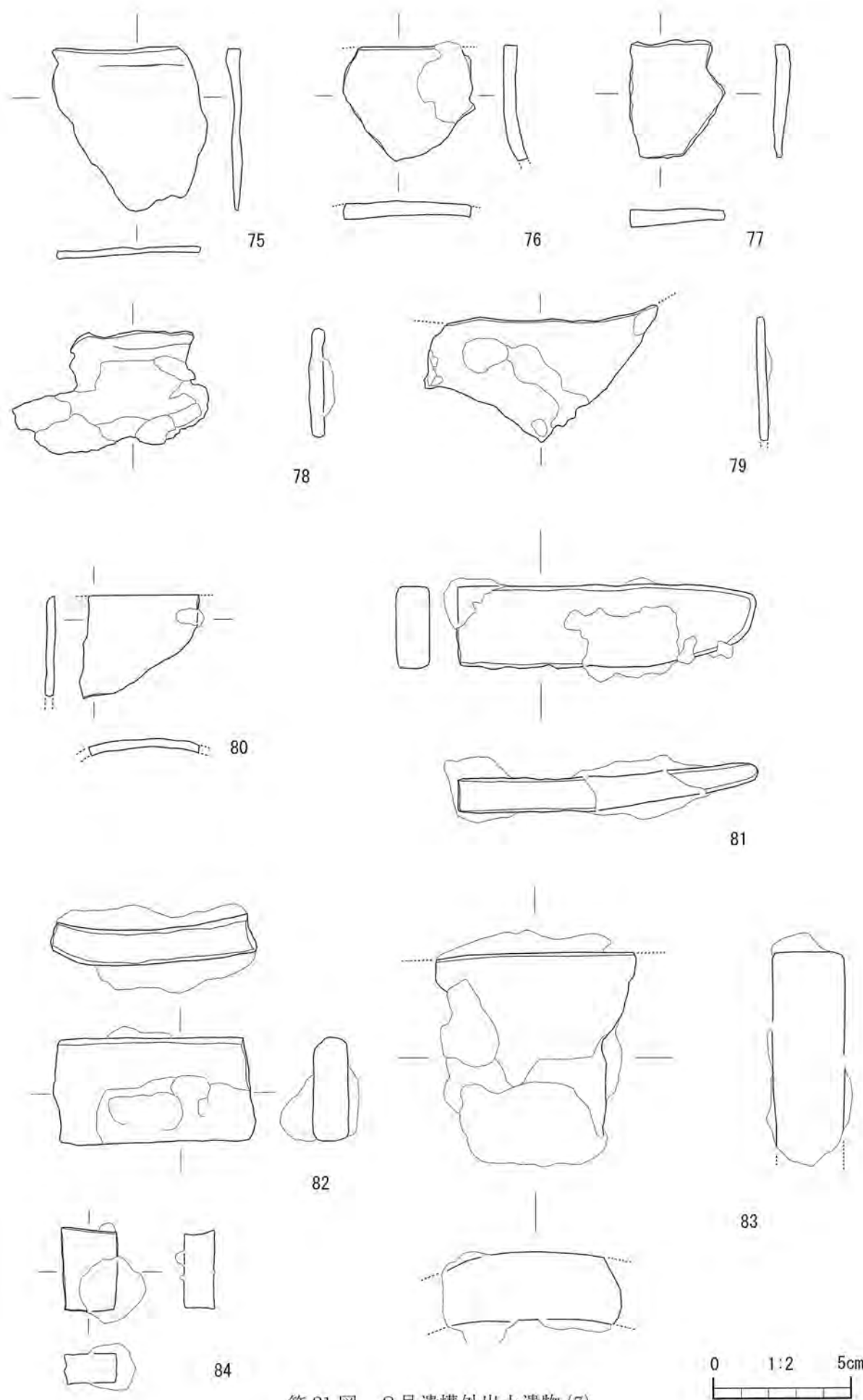
73



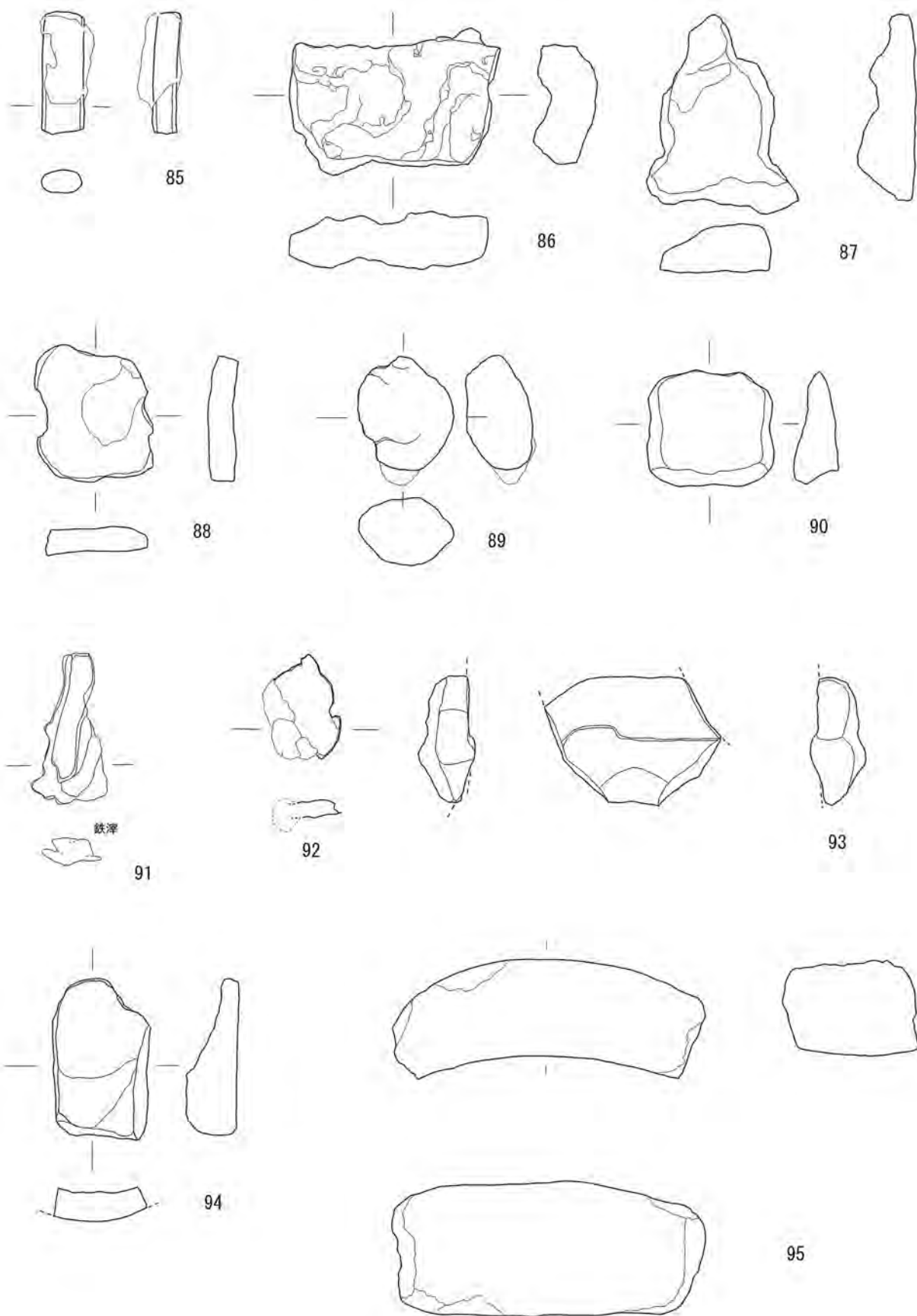
74



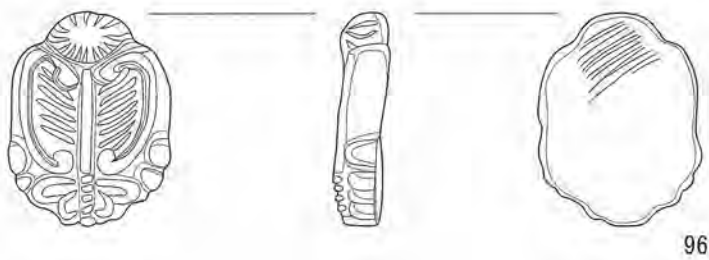
第20図 2号遺構外出土遺物(6)



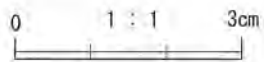
第 21 图 2号遺構外出土遺物(7)



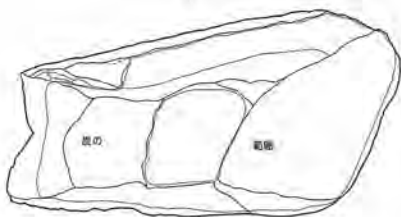
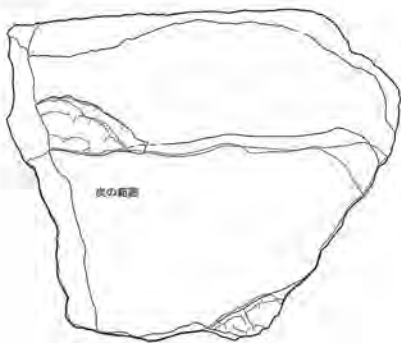
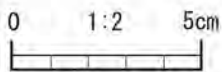
第22図 2号遺構外出土遺物(8)



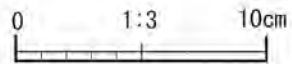
96



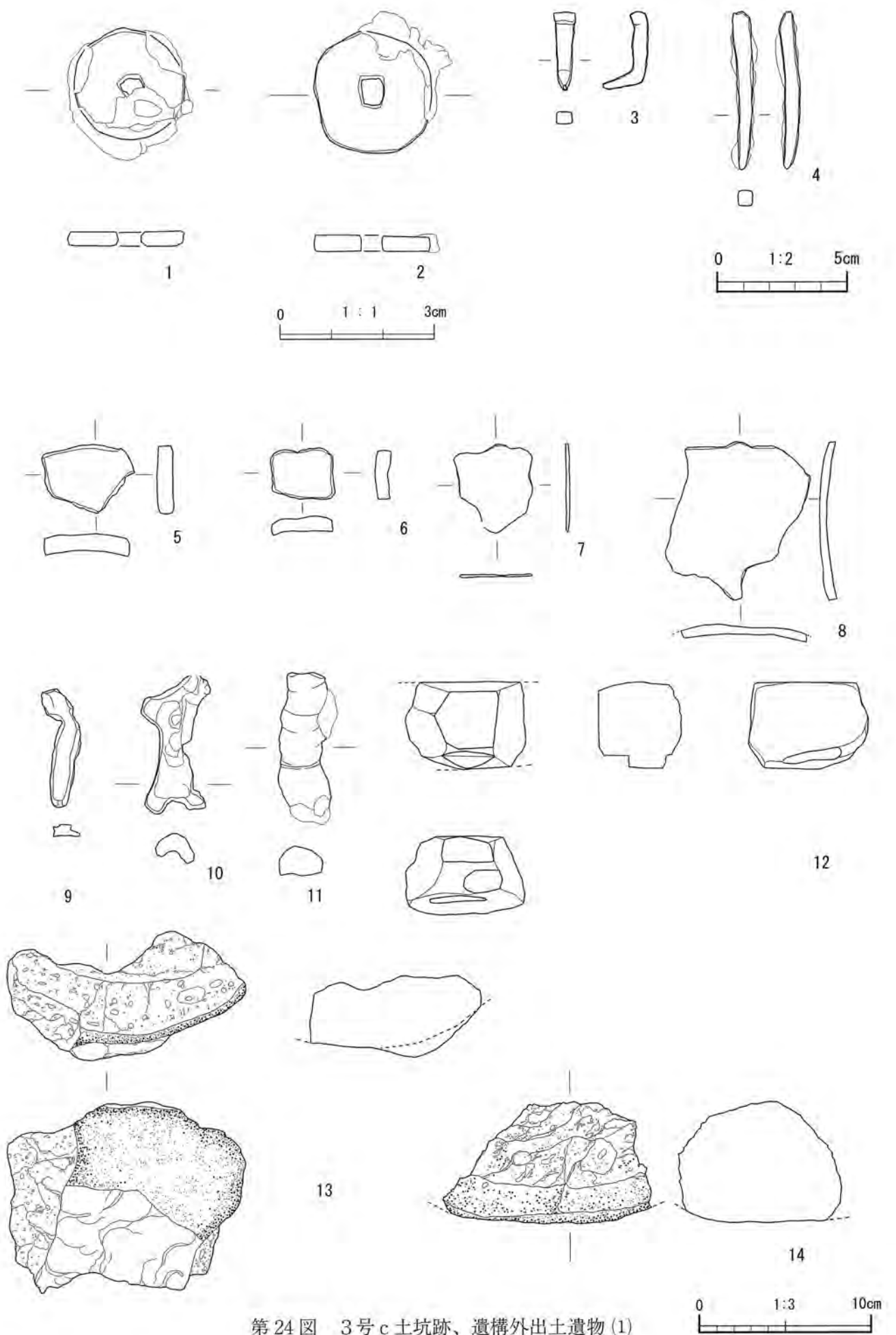
97



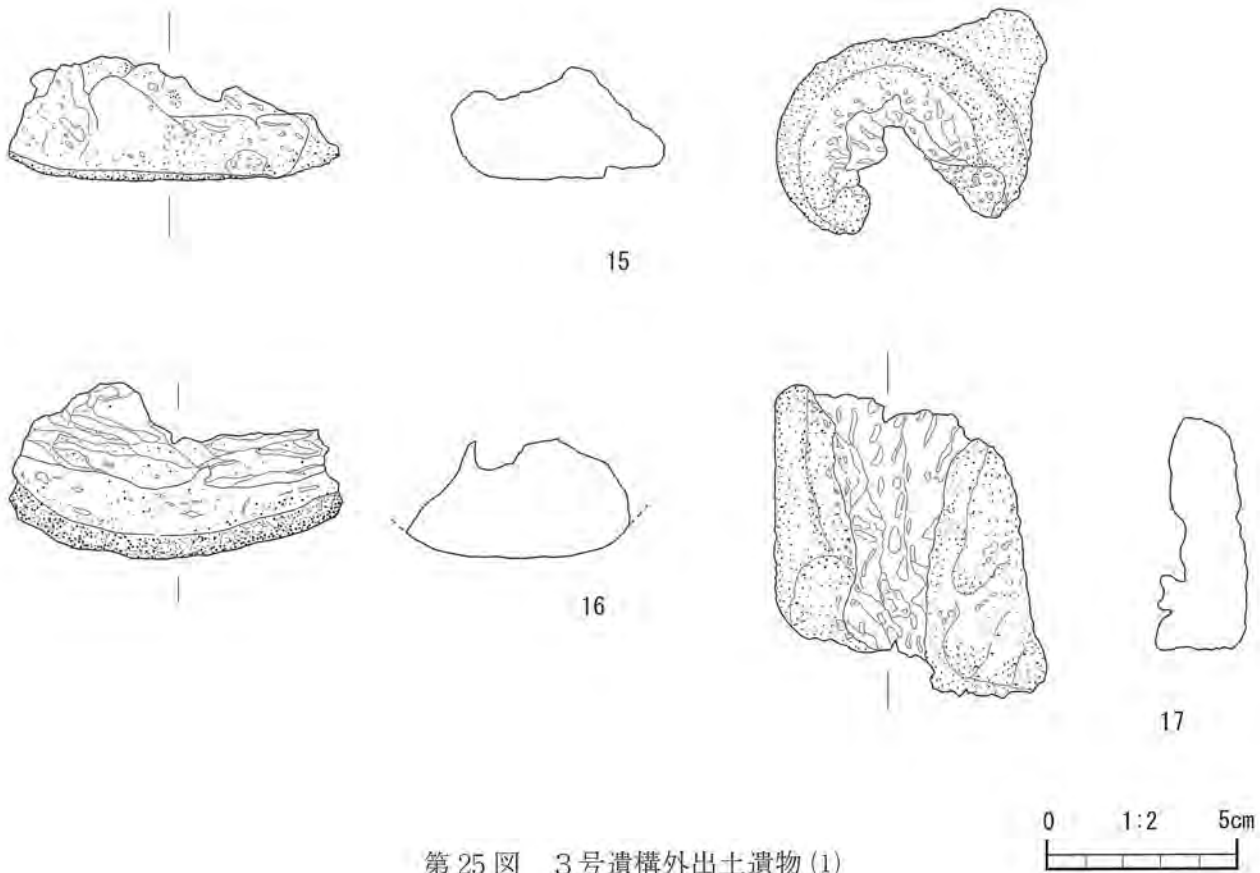
98



第23図 2号遺構外出土遺物(9)



第24图 3号c土坑迹、遺構外出土遺物(1)



第25図 3号遺構外出土遺物(1)

4号遺構群 (第26図)

調査区西部南寄りに位置する。検出面は盛土5層である。1号遺構に切られる。遺構群は東西に延びる黒色土硬化面、焼土遺構、土坑跡などから構成される。

黒色土硬化面は東西方向に帯状に延びる。規模は幅1.3m、延長6.0mである。B1層が断面形状である。厚くはないが、細かな鉄滓が固まってできたような面である。

4号c焼土遺構 (第27図)

西壁際に位置する。検出面は前述の黒色硬化面である。平面形状は隅丸の方形である。規模は幅50cm、長さ1.2mである。南側の溝跡は、特に明瞭な堀方をもたない。埋土は砂質の黄褐色土である。

4号a土坑跡 (第26図)

焼土遺構の北に位置する。検出面は盛土5層である。平面形は楕円形と思われる。規模は南北約1.5m、深さ約30cmである。埋土には多量の粘土が含まれている。

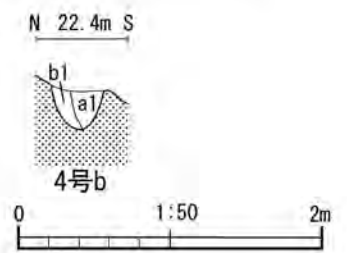
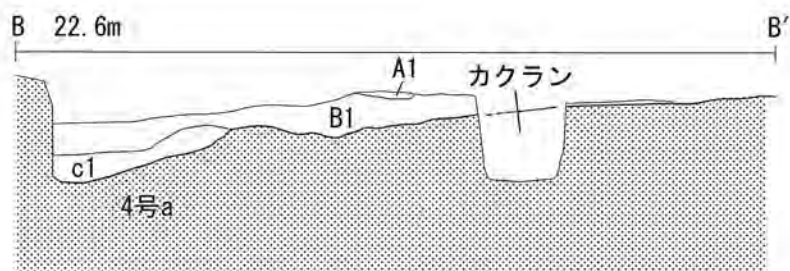
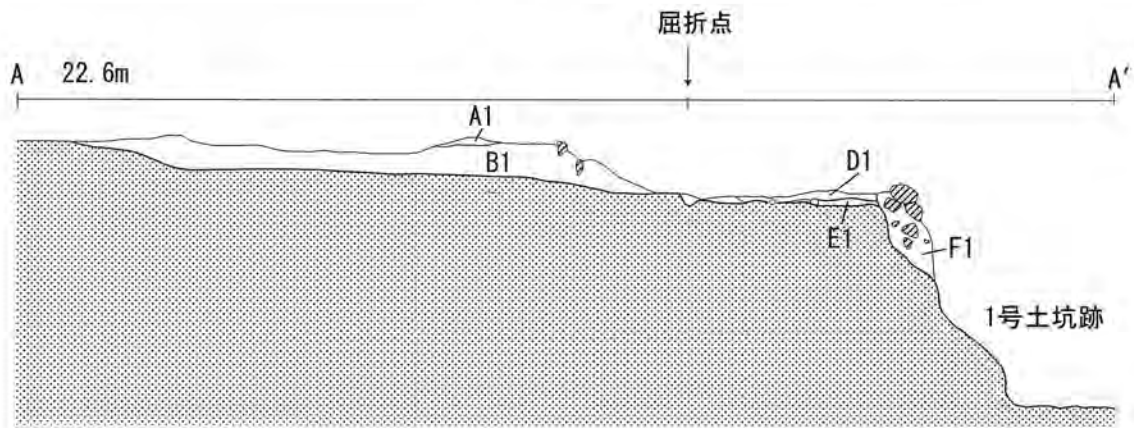
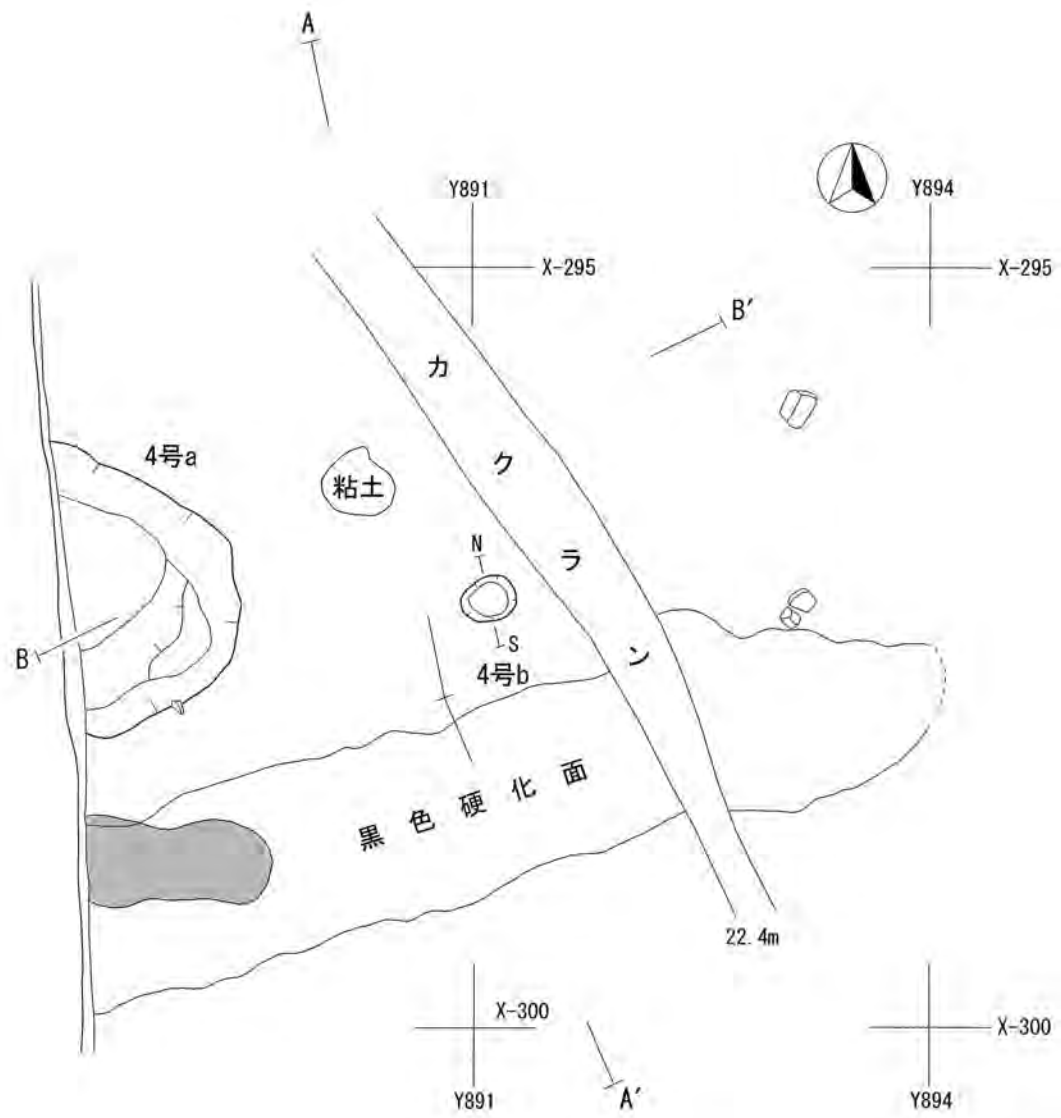
出土遺物 (第28図)

遺物はすべて遺構検出面から出土したものである。

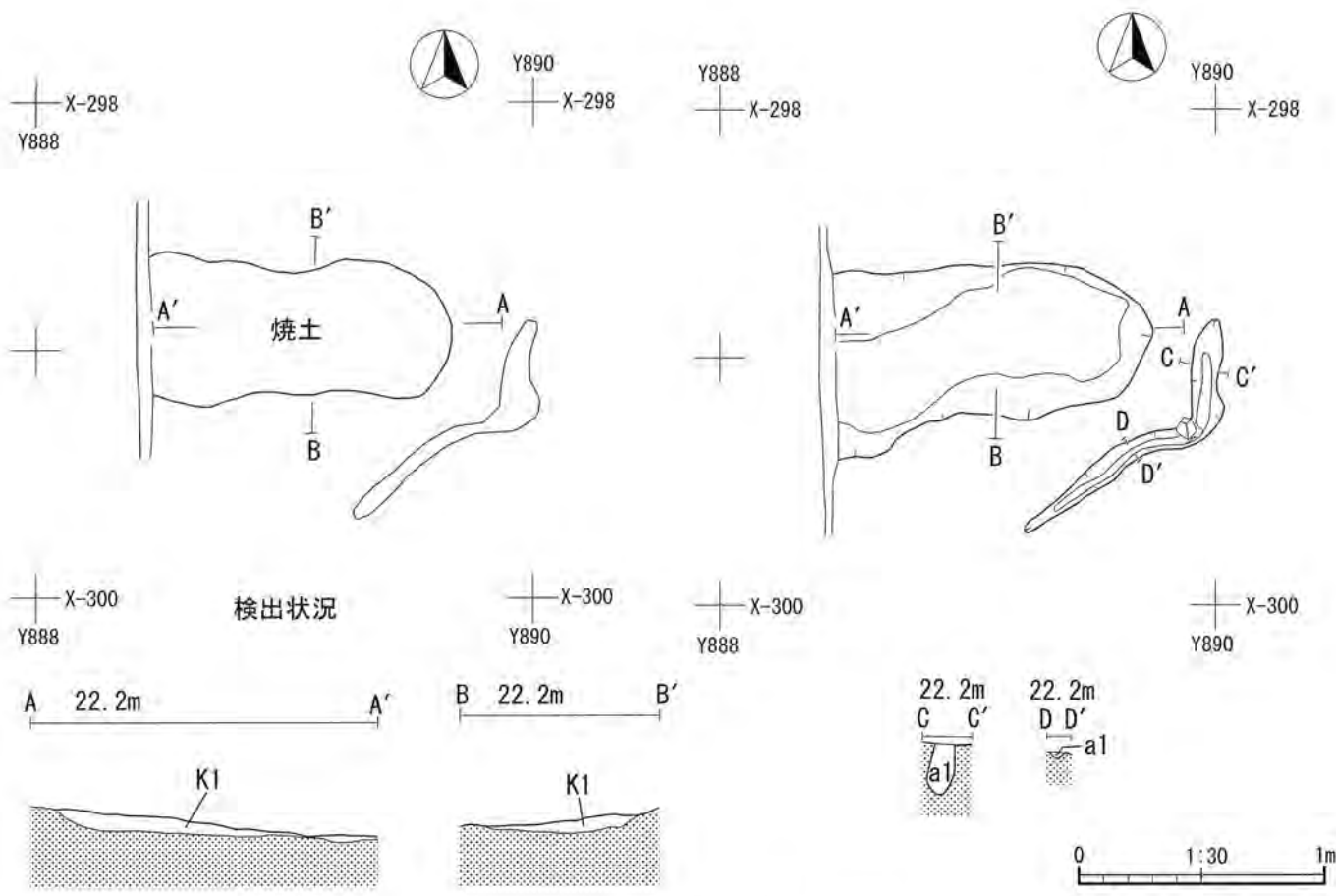
1、2は染付磁器碗である。1は外面に梅文、2は二重網目文を施している。いずれも肥前産、18世紀に伴う。

3～13は鉄製品である。3、4は鉄銭である。5～9は角釘である。10は刃物と思われる。11～13は細長い板状の製品である。14～16は不定形の鉄塊である。

4号遺構群は出土遺物から江戸時代後期に伴う。



第26図 4号遺構群 平・断面図

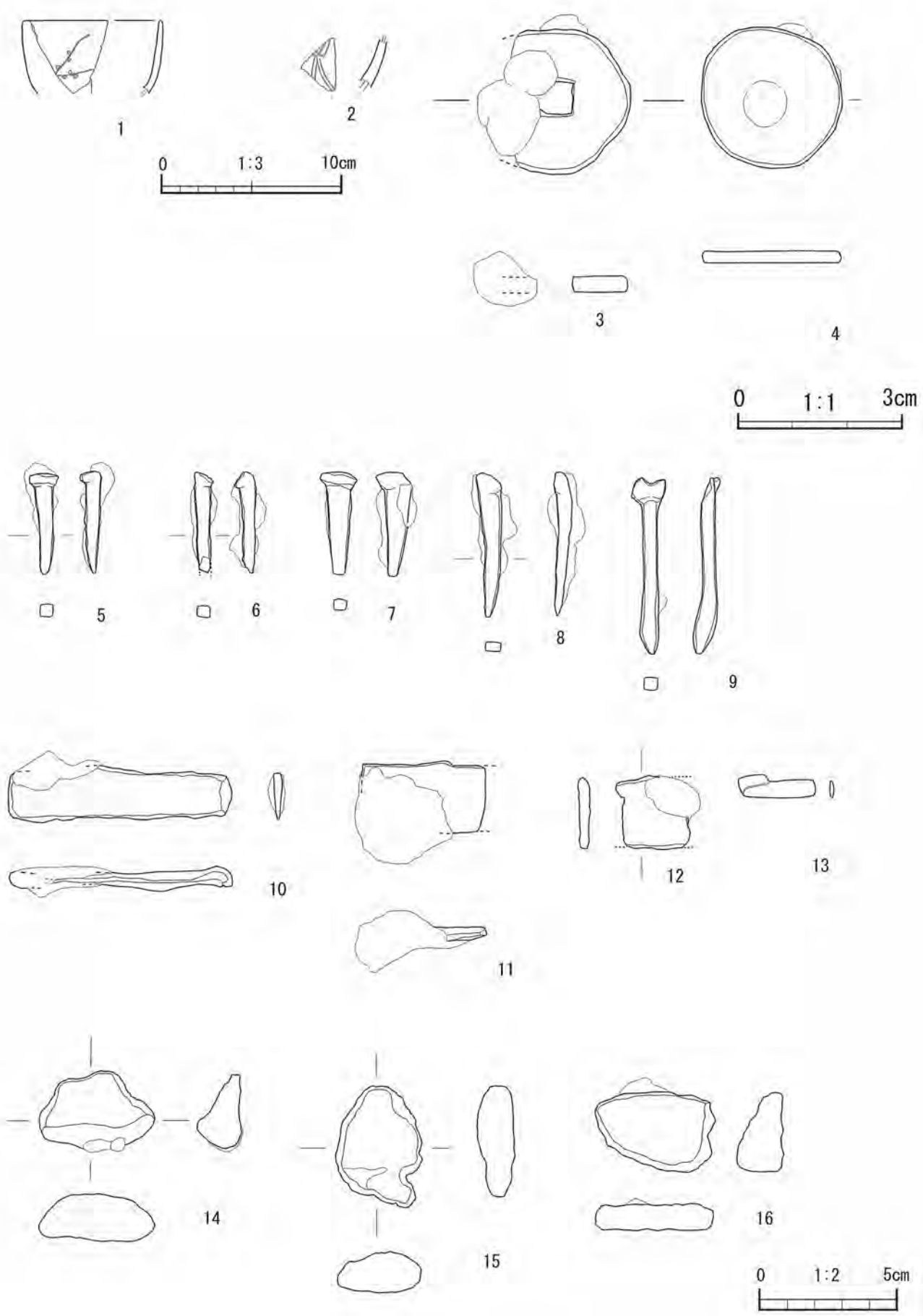


第27図 4号c焼土遺構 平・断面図

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物	
4号遺構群	A 粘土	10YR4/6 褐色粘土	10YR4/3 にぶい黄褐色粘土塊 10%	固、密、塊
	B1	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色真砂土塊 2%	固、中～密、塊、鉄滓
	C1	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR4/4 褐色粘土塊 15%	軟、中～密、塊
			10YR5/6 黄褐色真砂土塊 10%	
	D1	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土塊 10%	固、密、塊、鉄滓
	E1	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 10%	固、密、塊、鉄滓(多)
10YR4/6 褐色粘土 2%				
F1	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色真砂土 10%	中、中、塊、礫、貝	

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物	
4号b 土坑跡	a1	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色粘土塊 15%	固、中、塊
	b1	10YR4/2 灰黄褐色砂壤土	10YR6/4 にぶい黄褐色真砂土塊 50%	中～固程度、中程度、塊

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物	
4号c焼土遺構	K1	5YR3/4 暗赤褐色砂壤土	5YR4/6 赤褐色砂壤土 2%	固、密、塊
溝跡	A1	10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土 1%	中～固、中～密、塊



第28图 4号遺構群出土遺物

5号土坑跡 (第29図)

調査区中央やや東寄りに位置する。検出面は盛土5層である。7号土坑跡を切る。北西部に黄褐色粘土の広がりがあるが、当初炉跡などを想定して進めたが、粘土塊を切っていることが判明した。平面形は正方形にちかく、1.3 m × 1.2 m、深さは、最深部で70cmである。床面は中央部が段になって東西方向にやや盛り上がる。埋土は褐色土～暗褐色土と堆積するが、いずれの層からも鉄製品、陶磁器などが出土しているが図化できるものはなかった。

出土遺物 (第31図4)

4は黄粘土塊 (B1層) から出土した釘である。

黄色粘土塊は、ここの他に2箇所で見つかった (第36図)。

5号土坑跡の年代は遺物から明治時代以降に伴う。

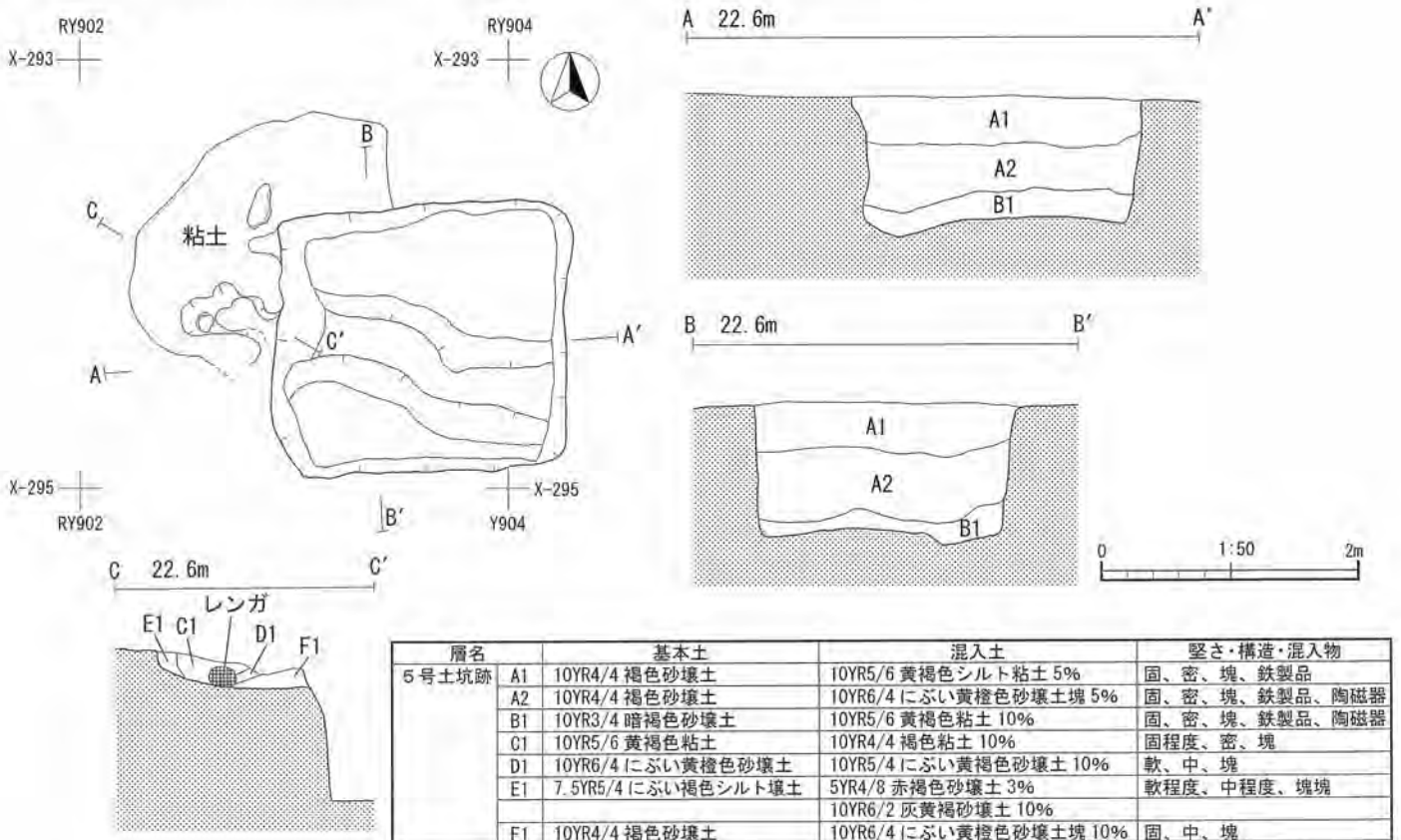
6号土坑跡 (第30図)

5号土坑の南に位置する。検出面は盛土5層である。7号土坑跡を切る。平面形は長方形、規模は2.4 m × 1.4 m、深さ90cmである。南北と東の壁が厚い粘土で構築されていること、ほぼ垂直に壁が立ち上がっている事などが大きな特徴である。床面は平らで、北西の壁際に段が設けてあり、北東隅に礫が散乱していた。埋土は明褐色の砂壤土で、人為的に一気に埋められたものと思われる。

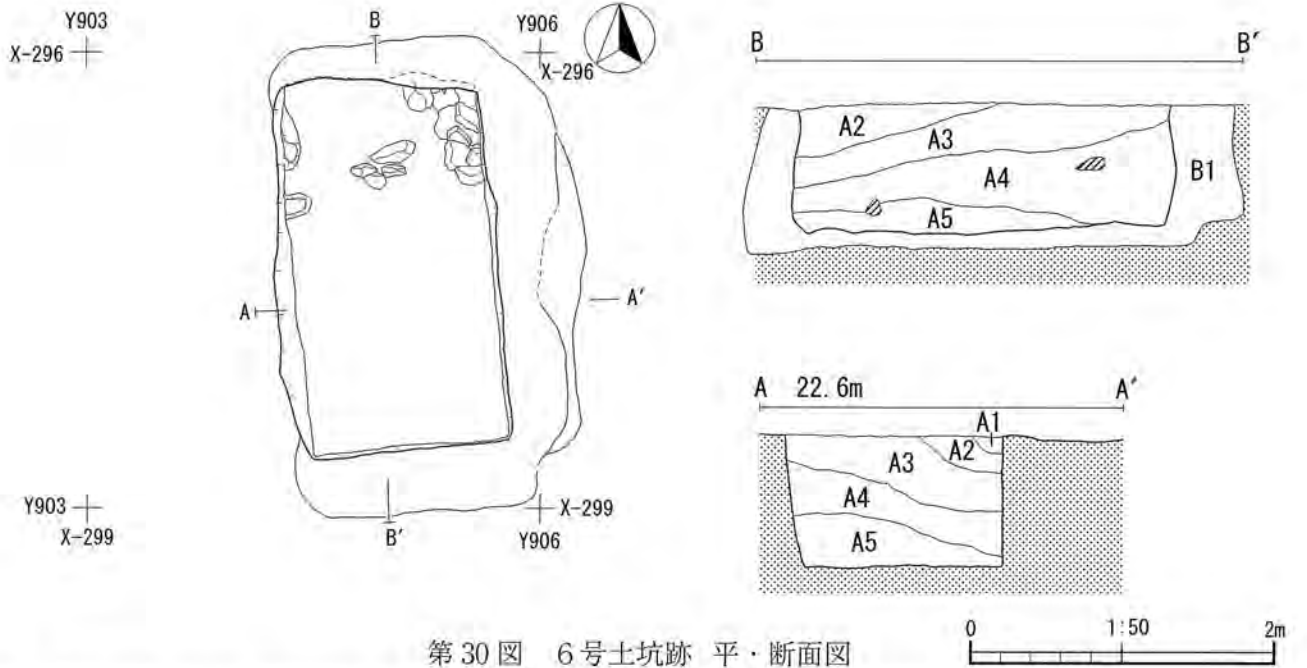
出土遺物 (第31図)

1～4は陶磁器である。1は磁器の蓋である。表に「登録商標」の文字が印刷してある。練り歯磨きの容器の蓋である。2は陶器碗の底部である。内面は灰釉、高台が鉄釉の塗分け茶碗である。瀬戸美濃産と思われる。3は土師器に似た陶器の鉢である。外面は無釉で、胴部には短い条痕が横に並ぶ。内面胴部から見込みにかけて透明釉が施される。胎土は薄く焼き締まる。産地、年代は不明である。5は鉄製品の釘である。木質を残す。6は砥石である。磨面は一面で、条痕を残す。

6号土坑跡の年代は遺物から明治以降に伴う。

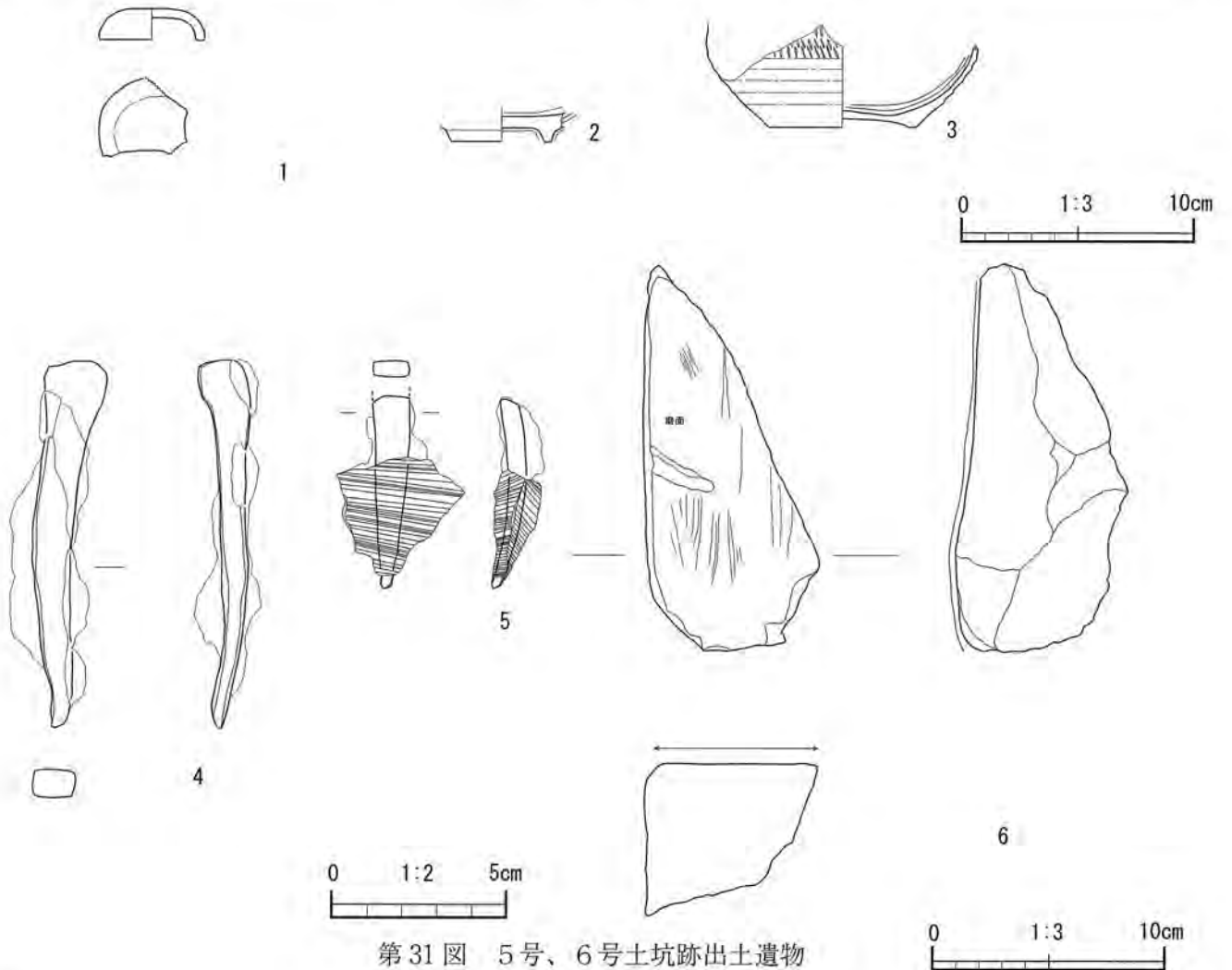


第29図 5号土坑跡 平・断面図



第30図 6号土坑跡 平・断面図

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
6号土坑跡 A1	10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR6/6 明黄褐色砂壤土塊 2%	中～固、中～密、塊
A2	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 10%	中～固、中～密、塊
A3	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10YR6/4 にぶい黄橙色砂壤土塊 3%	中～軟、中、塊
A4	10YR5/6 黄褐色砂壤土	10YR6/4 にぶい黄橙色砂壤土塊 10%	中～軟、中、塊
A5	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 10%	中～軟、中、塊、炭(中)
B1	10YR4/6 褐色粘土	10YR4/3 にぶい黄褐色粘土 10%	固、密、塊



第31図 5号、6号土坑跡出土遺物

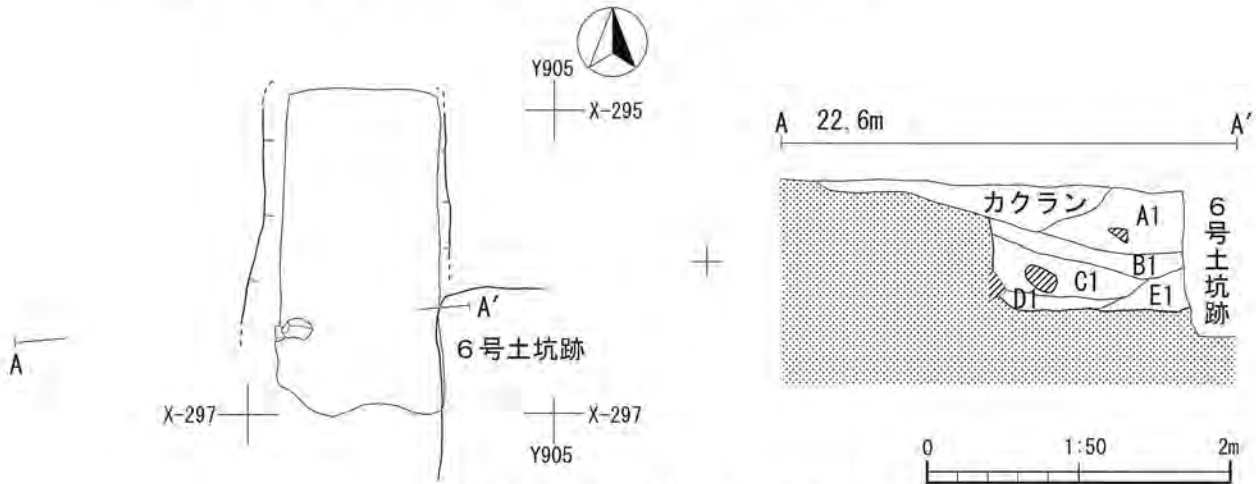
7号土坑跡 (第32図)

5号土坑跡と6号土坑跡の間に位置し、この二つの土坑跡に切られている。検出面は盛土5層である。平面形は長方形である。規模は、南北の上場は確認できなかったが、東西で1.3mである。床面の規模は南北2.0m、東西1.0mで、深さ80cmである。埋土は暗褐色土、褐色土が層をなし、人為的な堆積と思われる。

出土遺物 (第33図)

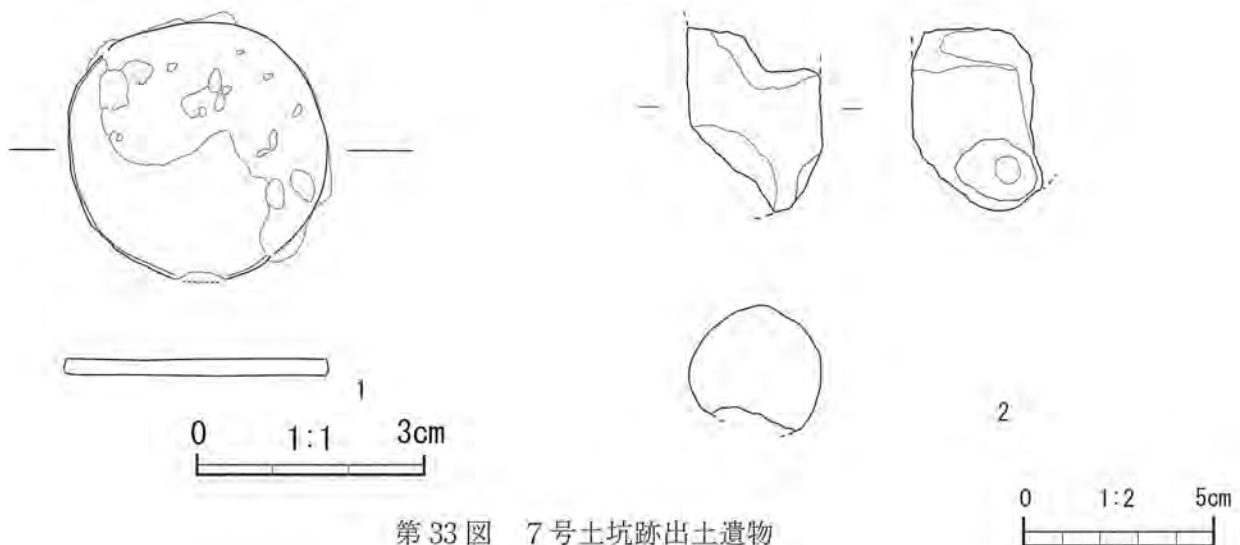
1は鉄製品である。形状から鉄銭と思われる。径は34mmである。2は土製品である。丸い棒状で、先端の一部が凹む。外面は灰色に焼ける。用途は不明である。

7号土坑跡の年代は、切り合い、出土遺物から江戸時代後期に伴う。



第32図 7号土坑跡 平・断面図

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
7号土坑跡	カケラン	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 10YR4/4 褐色砂壤土塊 10% 10YR6/4 にぶい黄橙色粘土 2%	中、中～?、塊、鉄塊
	A1	10YR3/4 暗褐色砂壤土 10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土塊 10% 10YR6/4 にぶい黄橙色砂壤土塊 5%	中、中、塊
	B1	10YR5/3 にぶい黄褐色砂壤土 10YR4/4 褐層状 5%	中～固、中、塊
	C1	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土 10YR5/6 黄褐色粘土塊 10%	中～軟、中、塊
	D1	10YR4/4 褐色砂壤土 10YR5/6 黄褐色粘土塊 20%	中～固、中、塊、鉄塊、銭貨
	E1	10YR5/3 にぶい黄褐色砂壤土 10YR5/6 黄褐色粘土 10%	中～固、中、塊



第33図 7号土坑跡出土遺物

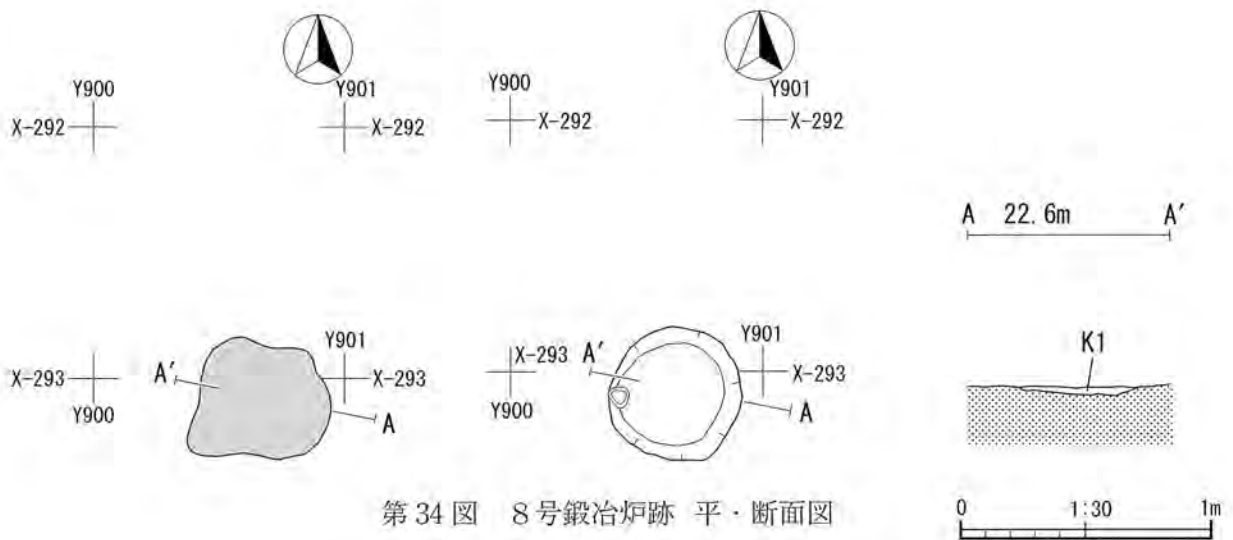
8号鍛冶炉跡（第34図）

調査区中央、やや東寄りに位置する。検出面は6層である。平面形は円形、径50cmである。焼土層(k1)焼き締まっていたが、多量の鍛造剥片を確認している。下部構造などは設けていない。遺物は検出面から出土したものである。

出土遺物（第35図）

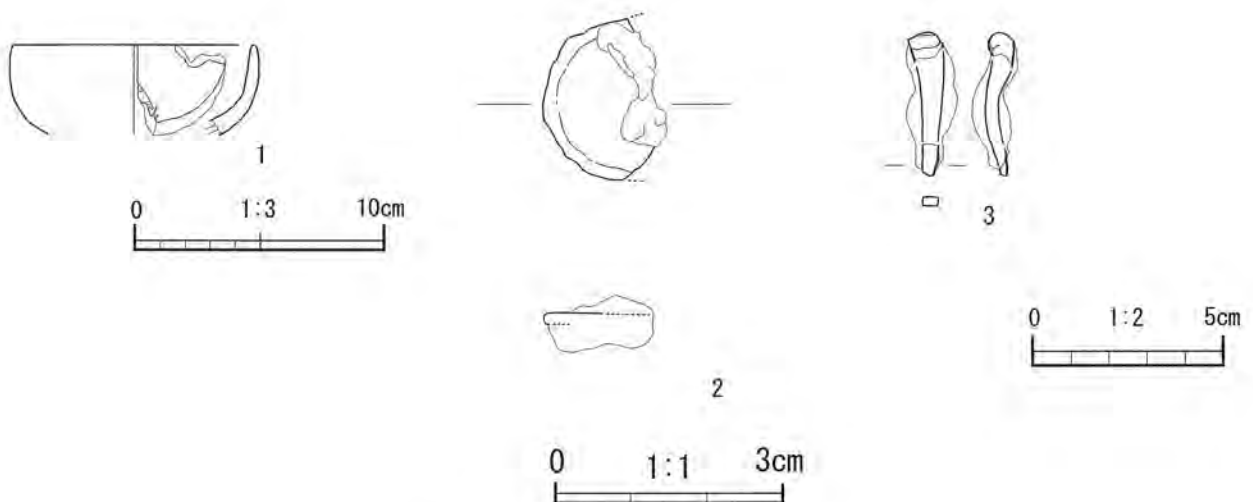
1は染付磁器の碗である。施文模様は不明であるが、形状は肥前産「くらわんか手」と思われる。18世紀代に伴う。2、3は鉄製品である。2は鉄銭である。3は角釘である。

8号鍛冶炉跡の年代は、検出面、出土遺物から江戸時代後期に伴う。



第34図 8号鍛冶炉跡 平・断面図

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
8号鍛冶炉跡 K1	10YR2/3 黒褐色砂壤土	7.5YR4/4 褐色砂壤土塊 3%	軟、疎、塊、炭、焼土（少）、ハンマースケール多



第35図 8号鍛冶炉跡出土遺物

9号、10号黄褐色粘土の広がり (第36図)

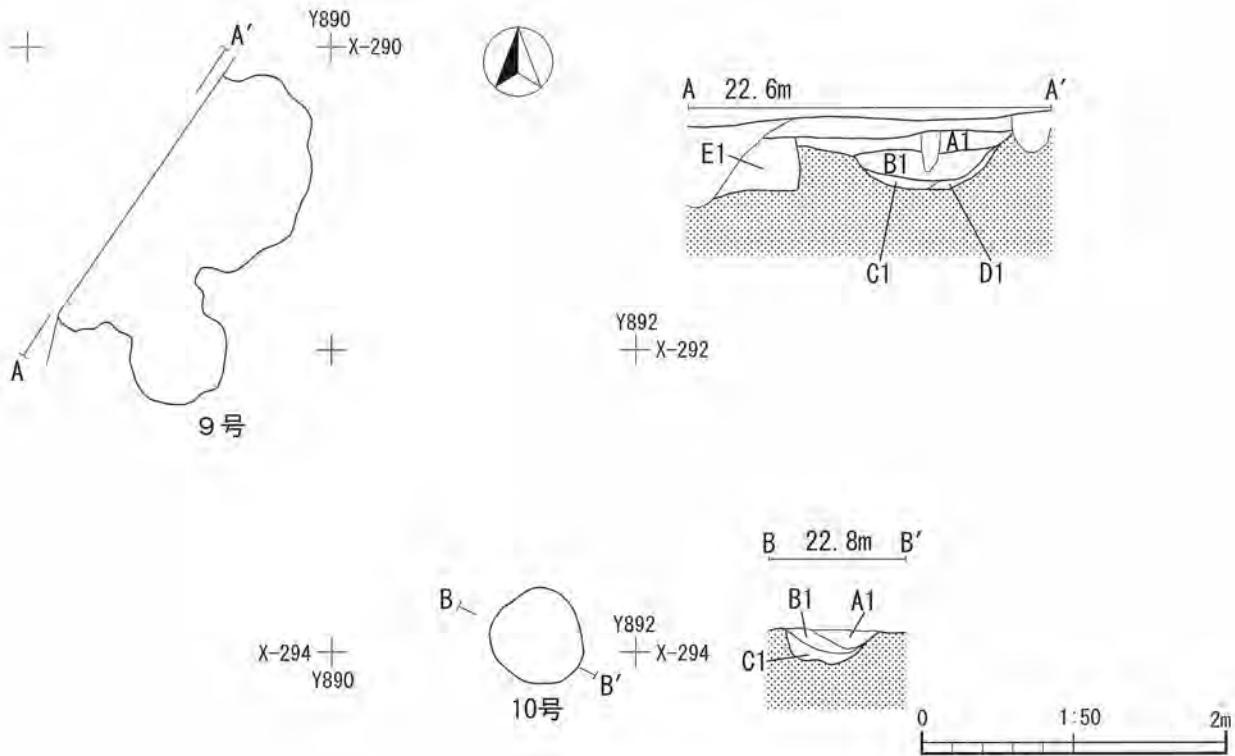
9号黄褐色粘土の広がり

調査区の北西部に位置する。検出面は地山面である。不定形のやや規模の大きい広がりである。10号と同様に、土坑を掘り込み、粘土置き場にしていたことを確認した。遺物は出土していない。

10号黄褐色粘土の広がり

調査区の北西部に位置する。検出面は5層である。平面形状は不整形円形で、規模は径約60cmである。粘土層の厚さは約20cmである。土坑を掘り込んで粘土置き場にしていたものと思われる。遺物は出土していない。

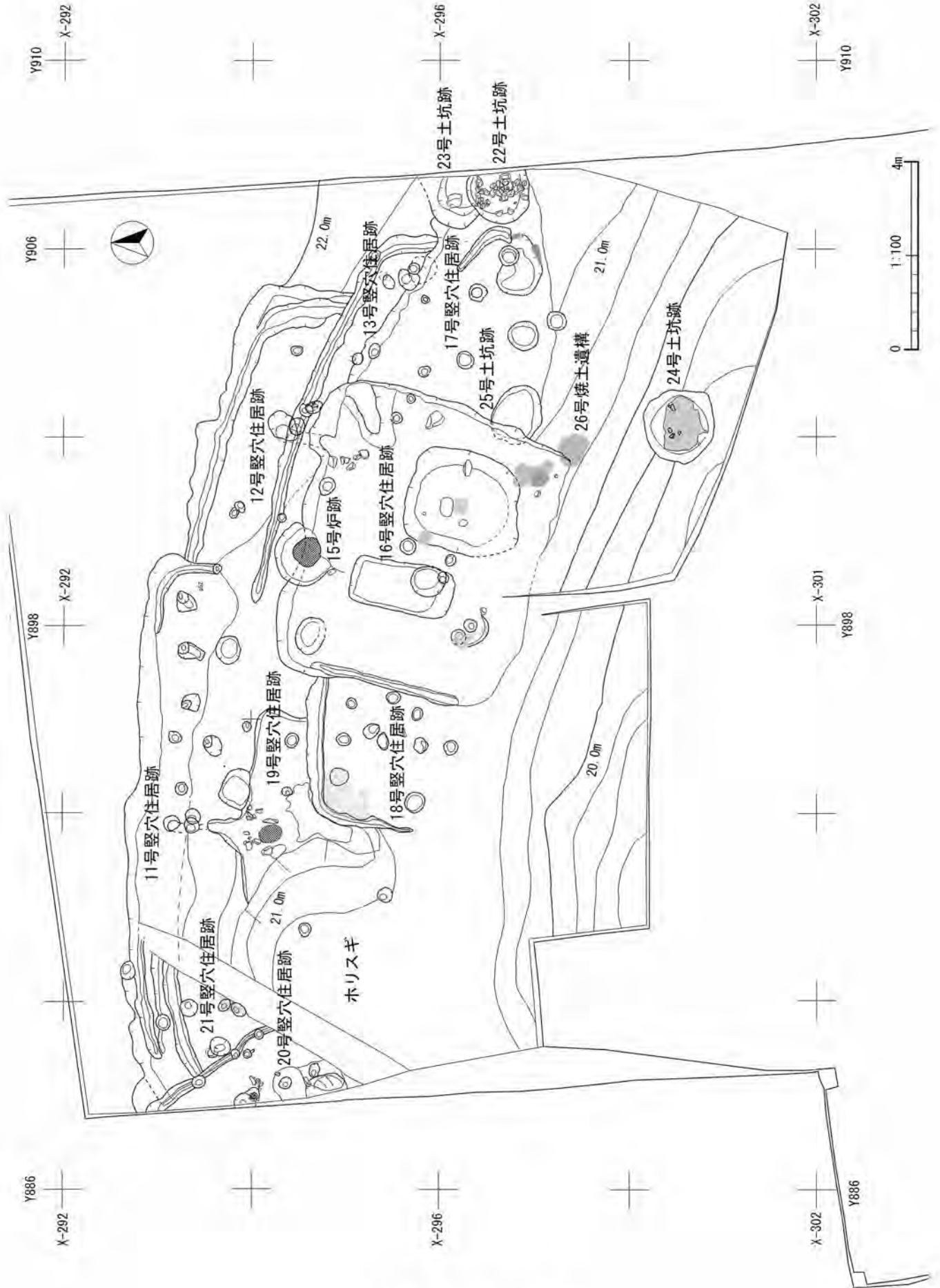
遺構の年代は、いずれも江戸時代後期から明治時代まで考えられる。



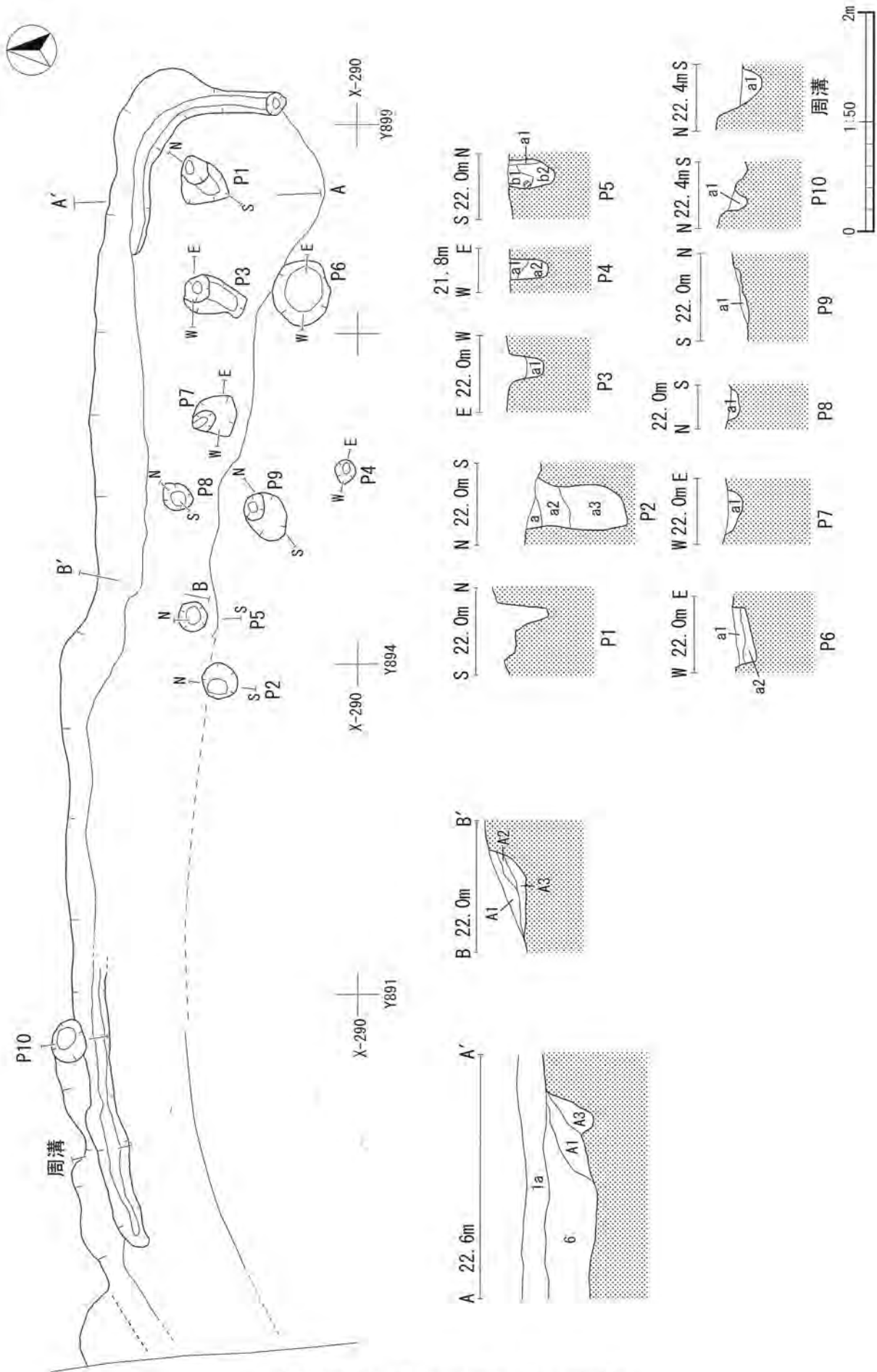
第36図 9号、10号黄褐色粘土の広がり 平・断面図

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
9号 黄褐色粘土	A1	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色粘土塊 10%
	B1	10YR5/6 黄褐色粘土	10YR5/4 にぶい黄褐色粘土 5%
	C1	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色粘土 5%
	D1	10YR5/4 にぶい黄褐色真砂土	10YR4/3 にぶい黄褐色真砂土 5%
	E1	10YR4/3 にぶい黄褐色真砂土	10YR5/6 黄褐色粘土塊 10%

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
10号 黄褐色粘土	A1	10YR4/4 褐色シルト質埴土	2.5YR6/3 にぶい橙シルト質埴土 10% 10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質埴土塊 5%
	B1	10YR5/6 黄褐色埴土	10YR4/4 褐色職土塊 15%
	C1	10YR3/4 暗褐色シルト質埴土	10YR5/4 にぶい黄褐色シルト質埴土塊 10%



第37図 II期遺構配置図



第38图 11号竖穴住居跡 平·断面图

Ⅱ期 平安時代の遺構群（第 37 図）

平安時代の遺構群は、近世の盛土層を剥いだ斜面から出土し、北側斜面のほぼ全域に分布する。

11 号竪穴住居跡（第 38 図）

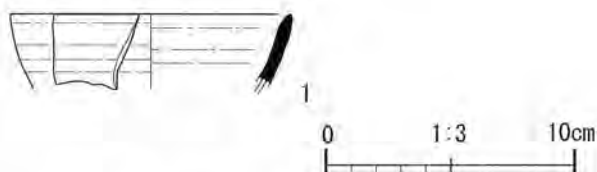
調査区北西部に位置する。検出面は地山面である。12 号、19 号、20 号、21 号の各竪穴住居跡を切っている。等高線方向に東西に長く延びる竪穴住居跡である。竪穴は西側の調査区外まで延びていることが確認している。平面形は隅丸方形と思われる。規模は、確認できた東西方向で約 11.5m、南北約 2.0m である。西側と東側の壁際で周溝を検出した。埋土は 3 層に分層される。カマド、焼土遺構などは出土していない。柱穴状のピットは東側で 10 基検出している。

遺物は埋土最上層から須恵器片が出土している。

出土遺物（第 39 図）

1 は須恵器の坏である。やや内湾する口縁部である。

11 号竪穴住居跡の年代は、遺物から平安時代である。



第 39 図 11 号竪穴住居跡出土遺物

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
11 号 竪穴住居跡	A1	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/2 黒褐色埴壤土 10%塊状 中、中
	A2	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR3/4 暗褐色埴壤土 20%塊状 中、中 5mm 大の焼土粒少量
	A3	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土 5%塊状 中、中 3mm 大の炭化物少量

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
P2	a1	10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土 20%塊状 中～軟、中～疎
	a2	10YR3/3 暗褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 10%塊状 中～軟、疎～中 5mm 大の小礫多量
	a3	10YR3/3 暗褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土 20%塊状 軟～中、疎～中 3mm 大の小礫
P3	a1	10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土 10%塊状 中、疎～中 1cm 大の炭化物少量
P4	a1	10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土 10%塊状 中、疎～中 1cm 大の炭化物少量
	a2	10YR3/3 暗褐色埴壤土	10YR3/4 暗褐色埴壤土 5%塊状 中、中
P5	a1	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR3/4 暗褐色埴壤土 10%塊状 中、中
	b1	10YR3/3 暗褐色埴壤土	10YR3/4 暗褐色埴壤土 10%塊状 軟～中、疎～中 5mm 大の小礫
	b2	10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/4 褐色埴壤土 20%塊状 中、中 5mm 大の地山ブロック少量
P6	a1	10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土 10%塊状 中、疎～中 1cm 大の炭化物少量
	a2	10YR3/3 暗褐色埴壤土	10YR3/4 暗褐色埴壤土 5%塊状 中、中
P7	a1	10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土 10%塊状 中、疎～中 1cm 大の炭化物少量
P8	a1	10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/4 褐色埴壤土 10%塊状 中、中
P9	a1	10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土 10%塊状 中、疎～中 1cm 大の炭化物少量
P10	a1	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土塊 2% 中～軟、中～疎、塊
周溝	a1	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土塊 2% 中～軟、中、塊

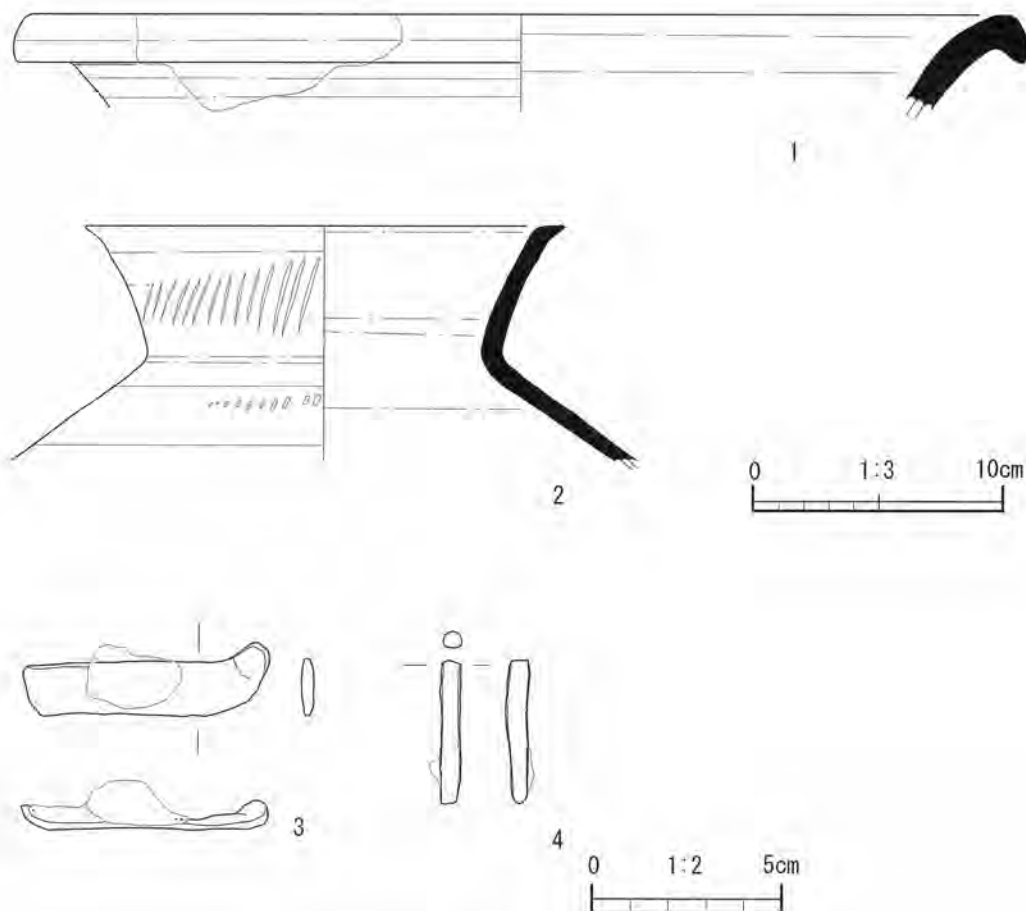
12号竪穴住居跡（第41図）

11号住居跡の東側に位置する。検出面は地山面である。11号住居跡に切られ、13号住居跡を切る。11号住居跡と同じように等高線方向に東西に長く延びる住居跡である。平面形は隅丸方形と思われる。規模は東西6m、南北3mである。壁際に周溝をめぐらし、床面からは5基の小ピットを検出した。カマドなどの施設は検出していない。埋土は2層に分層される。

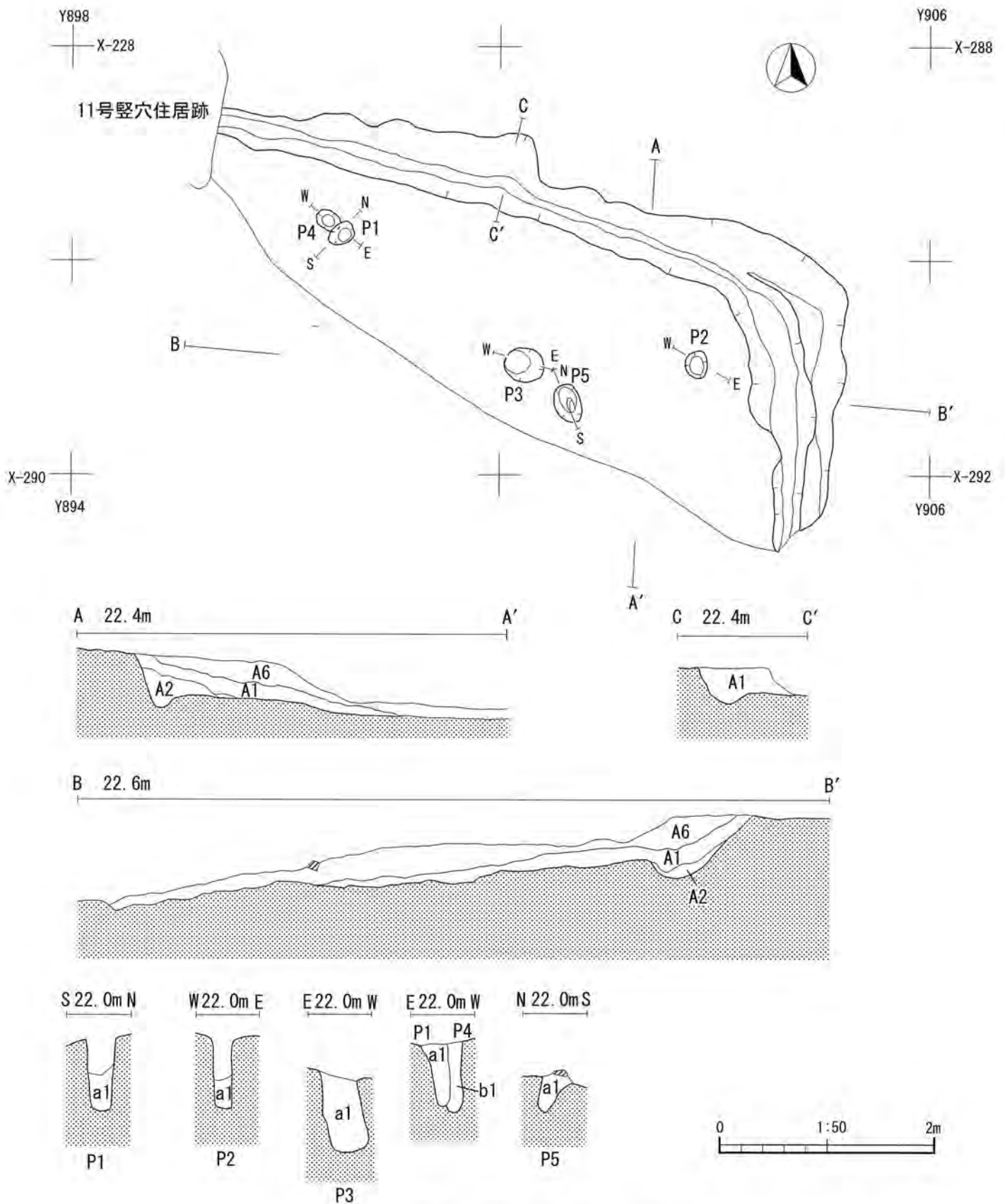
出土遺物（第40図）

1、2は須恵器である。1は甕の口縁部と思われる。大きく外反し、口唇部は外側へ折り曲げる。2は壺の口縁部から頸部である。口縁部は外反しながら立ち上がり、口唇部は尖り、水平に成形される。頸部にヘラ痕と思われる条痕が斜めに入る。12号竪穴住居跡の年代は、切り合い、出土遺物から平安時代である。焼成は良好である。3、4は鉄製品である。3は薄い板状、4は細い棒状である。

12号竪穴住居跡の年代は、切り合い、出土遺物から平安時代に伴う。



第40図 12号竪穴住居跡出土遺物



第41図 12号竪穴住居跡 平・断面図

層名		基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
12号	A1	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色真砂土 1%	中、中、塊
竪穴住居跡	A2	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色真砂土 15%	中～固、中、塊
	P1	a1 10YR5/3 にぶい黄褐	10YR5/1 褐灰 塊状 5% 砂質	疎 しまりなし
	P2	a1 10YR4/1 褐灰	10YR5/3 にぶい黄褐 塊状 1% 砂質	疎 しまりなし
	P3	a1 10YR5/3 にぶい黄褐	10YR4/1 褐灰 塊状 5% 砂質	疎 しまりなし

13号竪穴住居跡（第43図）

12号住居跡の南側に位置する。検出面は地山面である。12号住居跡に切られ、16号、17号住居跡を切っている。平面形は隅丸方形で、東西に長く延びる。前述の11号、12号竪穴住居跡と同形である。壁際に周溝をめぐるしている。床面と壁から6基のピットを検出した。カマドは検出していないが、西側で炉跡（15号）を検出している。埋土は2層に分かれる。また埋土B層上面で焼土遺構を検出している。（14号）

出土遺物（第42図）

1は土師器甕の口縁部である。外反しながらまっすぐに立ち上がり、くびれを持たない。2は土製品である。内湾しており、筒状の製品かと思われる。胎土は赤褐色である。

13号竪穴住居跡の年代は、切合い、出土遺物から平安時代である。

14号炉跡（第44図）

竪穴の東側に位置するこの焼土遺構（点線で示した）は、13号竪穴に伴うものではなく、埋土B1層上面で検出したものである。平面形は円形で、径約60cmである。焼土K1層は焼き締まてはいないが、底面は還元炎焼成を受けている。遺物は出土していない。

14号炉跡の年代は切合いから平安時代である。

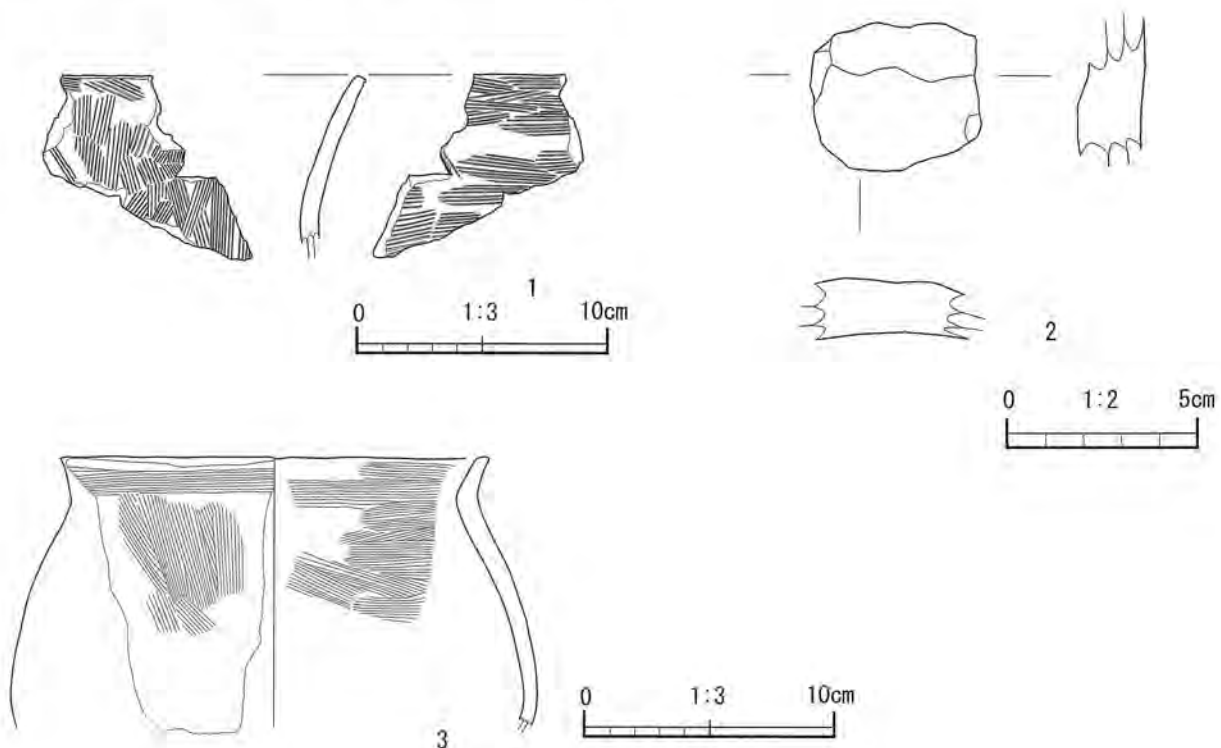
15号炉跡（第44図）

13号竪穴跡の西側に位置する。検出面は地山面である。半円形の土坑で、中心が円形に焼けている。土坑の規模は1.3m×1mである。焼土は径約60cmの円形をなし、層厚は10cmで固く焼き締まてはいない。

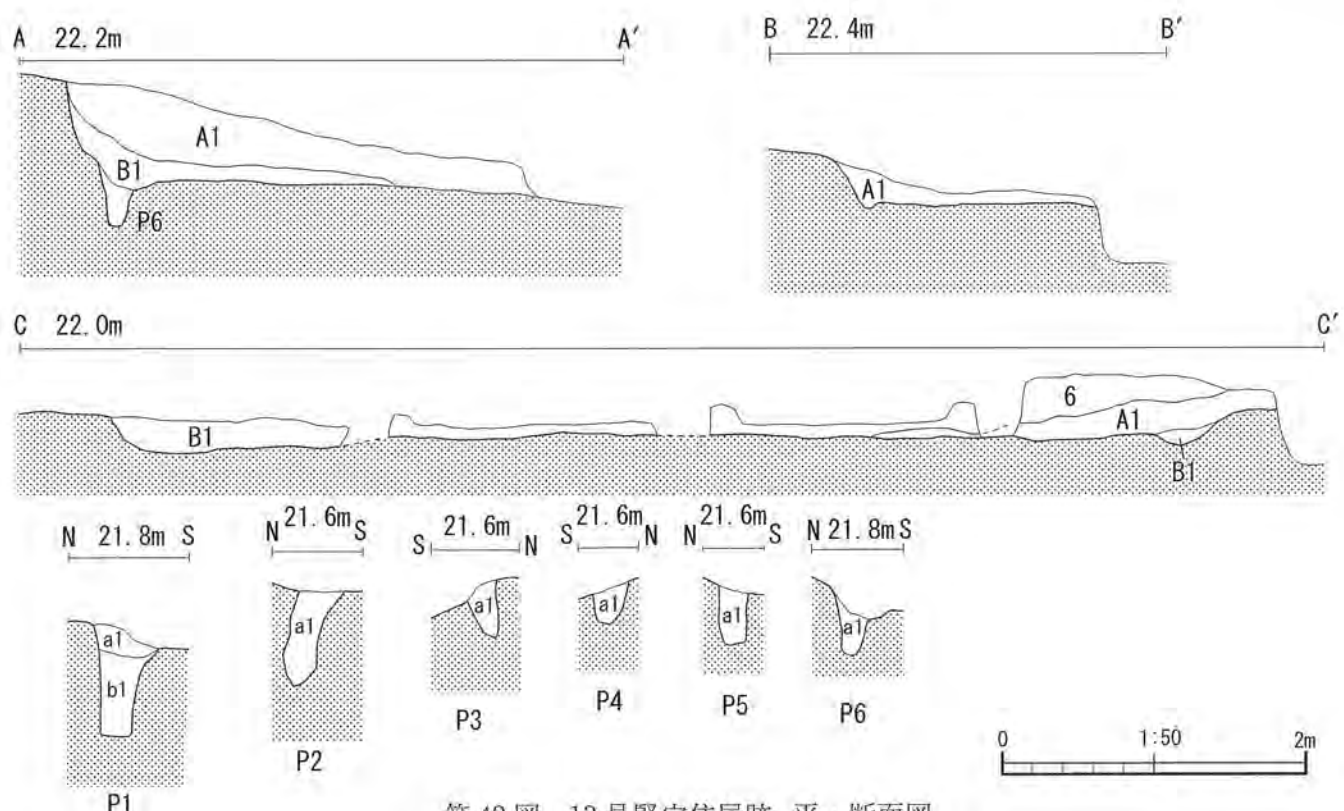
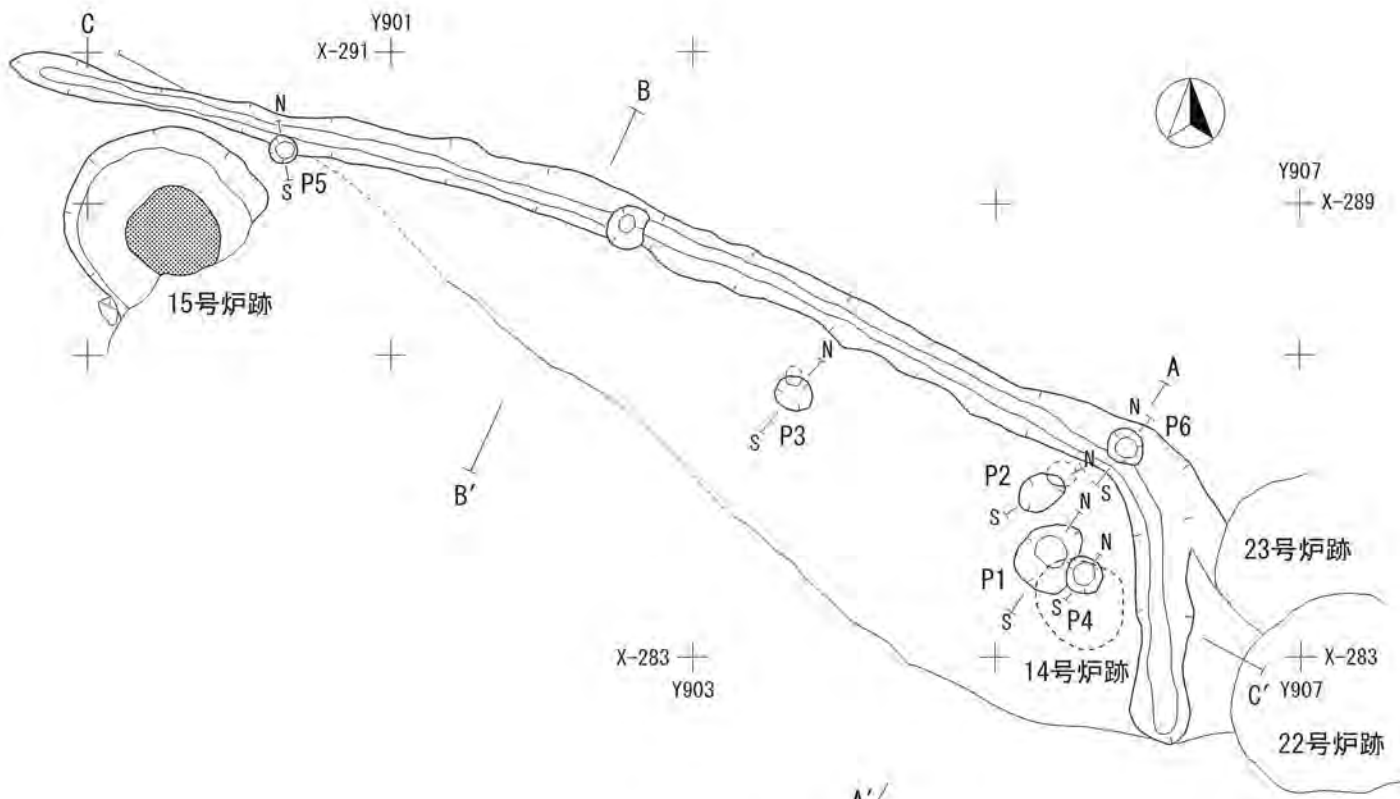
出土遺物（第42図）

3は土師器の甕である。口縁部は短くわずかに外反する。

15号炉跡の年代は、切合い、出土遺物から平安時代に伴う。

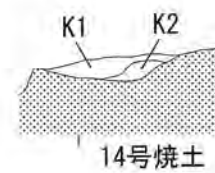
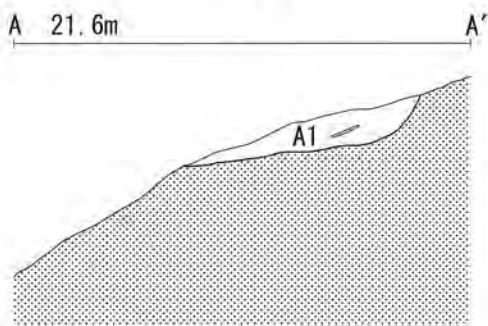
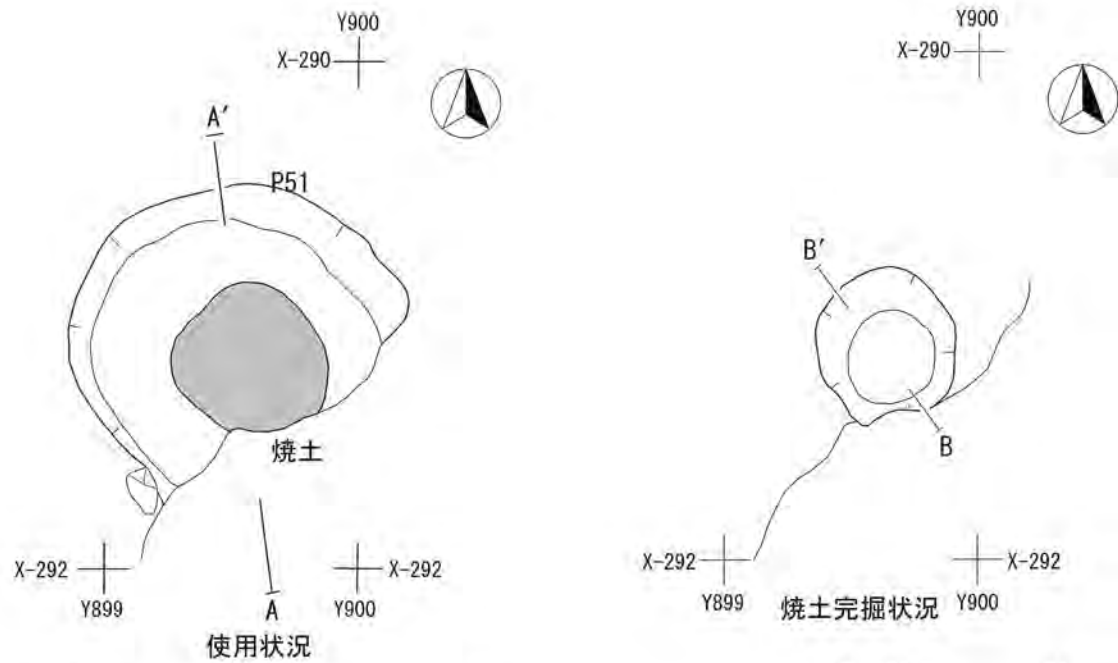


第42図 13号竪穴住居跡、15号炉跡出土遺物



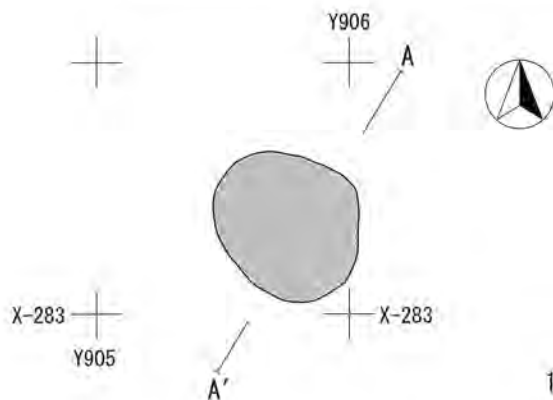
第43图 13号竖穴住居跡 平・断面図

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
13号 竖穴住居跡	b	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土? 10%
	a1	10YR5/4 にぶい黄褐色真砂土	10YR3/3 暗褐色砂壤土塊 10%
	b1	10YR3/2 黒褐色砂壤土	10YR4/4 褐色真砂土 1%
P1	a1	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 5%
	b1	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土塊
P2	a1	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR2/2 黒褐色砂壤土塊 10% 10YR5/6 黄褐色粘土 3%
P3	a1	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色粘土塊 5%
P4	a1	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土 10%
P5	a1	10YR3/2 黒褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 3%

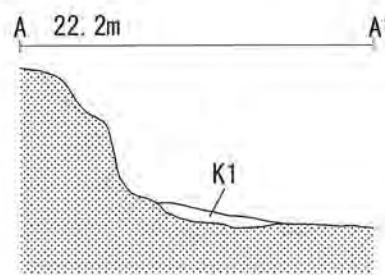


15号炉跡

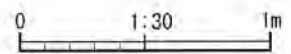
14号烧土



14号炉跡



42号



第44图 14号、15号炉跡 平・断面图

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
15号炉跡	a1 10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土塊 10%	中、中、塊、土師器
	K1 7.5YR3/3 暗褐色砂壤土	5YR4/6 赤褐色砂壤土塊 10% 5YR2/2 黒褐色砂壤土塊 10%	中〜軟、中、塊、炭(少)
	K2 5YR4/3 にぶい赤褐色砂壤土	7.5YR4/4 にぶい赤褐色砂壤土塊 10%	中、中、塊
14号炉跡	K1 10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土 10% 2.5YR3/3 暗赤褐色砂土塊 10%	軟、密、塊、炭多
	床面 7.5YR4/3 褐色 還元炎焼成		軟

16号竪穴住居跡（第45図）

調査区の中央に位置する。検出面は地山面である。13号竪穴住居跡、15号炉跡に切れ、17号竪穴住居跡、18号竪穴住居跡を切る。平面形は隅丸方形である。規模は東西6.5m、南北5mである。北側壁の東寄りにカマドを設けている。周溝は西側の壁際で検出した。床面からは大小の土坑跡、炉跡、焼土遺構などが出土している。また北東隅の壁際で盛土検出している。埋土は8層に分かれる。

16号b1土坑跡（第45、46図）

16号b1土坑跡は床面のほぼ中央に位置する。b2号土坑跡と重複し、b2号土坑跡を切っている。平面形は円形で、径約70cmである。深さ10cmの浅い土坑で、遺物は出土していない。

16号b2土坑跡（第45、46図）

床面の中央、やや西寄りに位置する。B1号土坑跡に切られている。平面形は長方形である。規模は2.2m×1m、深さ70cmである。埋土は4層に大別されるが、A1層から角棒状の鉄製品が出土している（第60図8）。

16号c土坑跡（第47図）

b2号土坑跡の東側に位置する。平面形は正方形に近い隅丸方形である。規模は2.3m×2.2m、深さ約10cmである。埋土は2層に分かれる。

床面中央に大きめの礫が置かれ、その南側で円形の炭の広がりを検出している。また西側の壁で円形の焼土遺構が見つかった（16号c炉跡）。

16号c炉跡（第48図）

土坑の西壁で検出した焼土である。平面形は円形、径30cmである。焼土層厚は約2cmで、あまり焼き締まってははいない。B1層はシルト質の褐色土である。遺物は出土していない。

16号e炉跡（第48図）

この焼土遺構は、16号c土坑跡の南東隅と接している。炭の広がりを伴っている。焼土の平面形は円形で、径約30cmである。焼土はやや固く焼き締まっている。炉跡のように掘くぼめてはなくて、床面より少し浮いた面が焼土面になっている。

16号d炭の広がり（第48図）

16号b2土坑の南側に位置する。炭塊を伴った広がりである。炭の層には焼土は含まれていない。炭の下からは土坑2基、その西側で小規模な段差を設けた半円形の遺構が出土した。

16号a北東部壁際の堆積土（第45、46図）

カマドの東側、壁際に盛られた土である。形状、堆積状況などから、竪穴を廃棄した直後に埋められた土で、特に意図的な盛土ではないと思われる。

16号竪穴住居カマド（第49図）

カマドは北壁の東寄りに設けられている。くり貫式である。火床部の中央に支脚が遺されていた。煙道は短く、水平に掘られ、煙出しはやや外傾して立ち上がる。火床部は掘り窪められて、両側に袖石を据える小土坑が掘られている。規模は、火床部は60cm×50cm、焼土層厚は4cmである。煙道は径35cm、煙出しの径40cmである。

出土遺物（第50図～第55図）

1、2は「アカヤキ土器」の坏である。1は底部から直線的に立ち上がる。2はわずかに内湾しながら立ち上がる口縁部である。

3～6は須恵器である。3、4は坏である。3の口縁部は直線的に立ち上がる。4の底部はケズリ調整を施される。5は壺の口縁部である。強く外反させ、口唇部は上下に短く引き出す。6は壺の肩部である。自然釉がかかる。

7～11は内黒の坏である。7～9はわずかに内湾しながら立ち上がり、10は直線的に立ち上がる。12～27は土師器の甕である。12～14はロクロ成形の口縁部である。1は口縁部を強く外反させ、口唇部を上を短く引き出す。2、3はわずかに外反しながら直線的に立ち上がる。15はカマドの東側の床面から出土した小形の甕である。口縁部はやや長めで、外反してまっすぐ立ち上がる。底部は張出しを持ち、底面に木葉痕を残す。16～18の口縁部はいずれも短く、外反してまっすぐに立ち上がる。19は外面にケズリ調整痕を施された体部である。20、21の胴部片は、内外面にタタキメ調整痕を残す。

22～27は底部である。22～24は張出しを持たない。底部はケズリ調整を施されたもの（22、23、25）と木葉痕を残すもの（24、27）に分かれる。

28は縄文土器である。口唇部に刻みが入り、口縁部は二重沈線の間に円形刺突文を施す。縄文晩期に伴う。

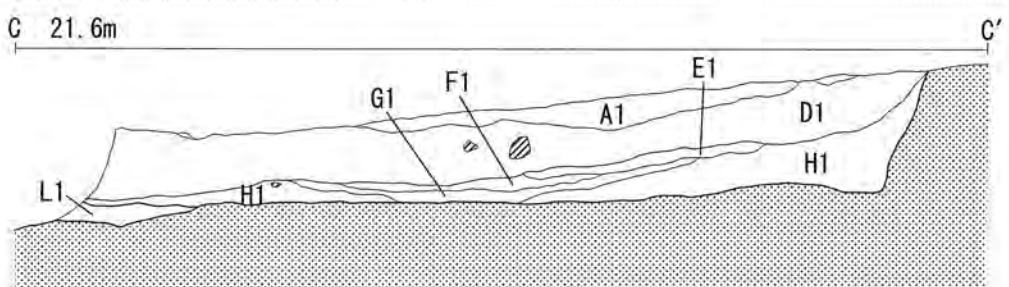
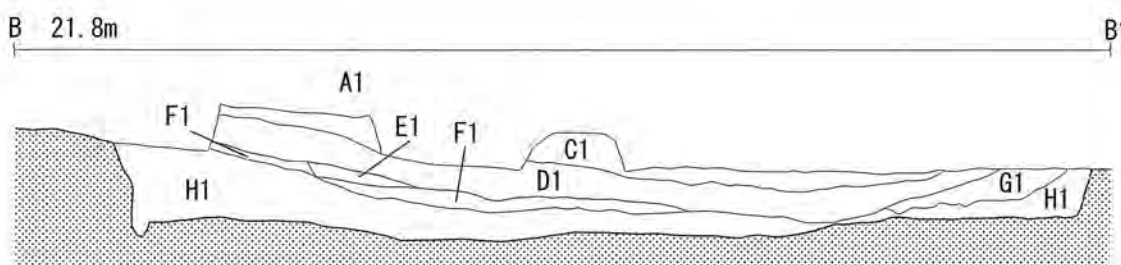
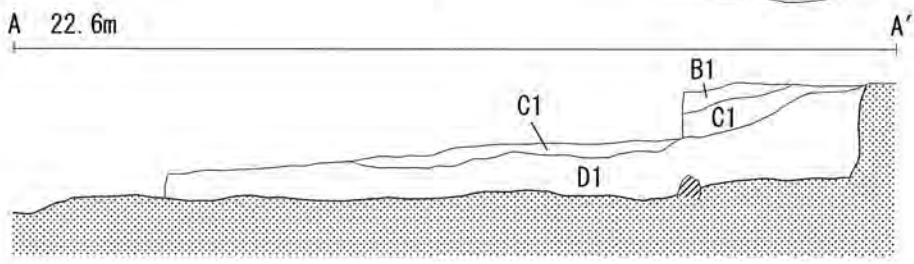
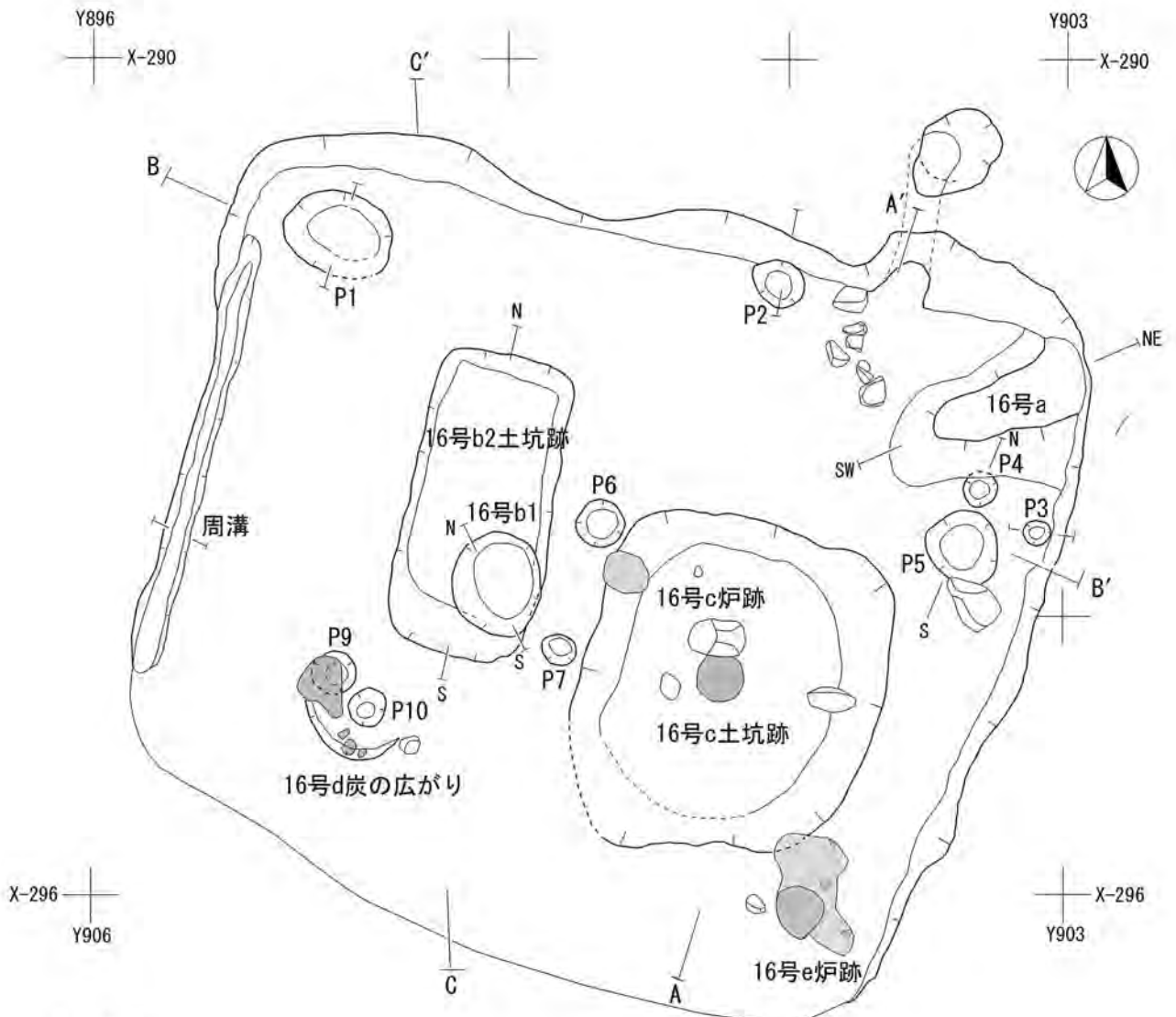
29～32は鉄製品である。

29は炉跡eに伴って出土した鋤先の完形品である。寸法は長さ190mm、幅171mm、厚さ21mmである。市内では細越I遺跡で鋤先の完形品が出土している。寸法を比較してみると、幅は同寸、長さは当遺跡の出土品が20mm長い。30は刀子の刃部である。31は土坑Cの床面から出土した鉄鏃である。32は角棒状の製品である。同様の製品が西側の18号竪穴住居跡から出土している（第60図8）。これはこのままが製品というよりも、製品を作るための「材」の形状と考えることができる。

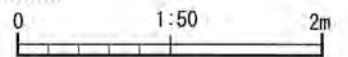
33～38は土製品である。33、34は支脚である。33はカマドの炉床部から出土したものである。いずれも成形の際に使用した芯材の痕跡を中心部に残している。35、36は湾曲する板状の製品である。筒状の製品が考えられる。37、38は羽口片である。

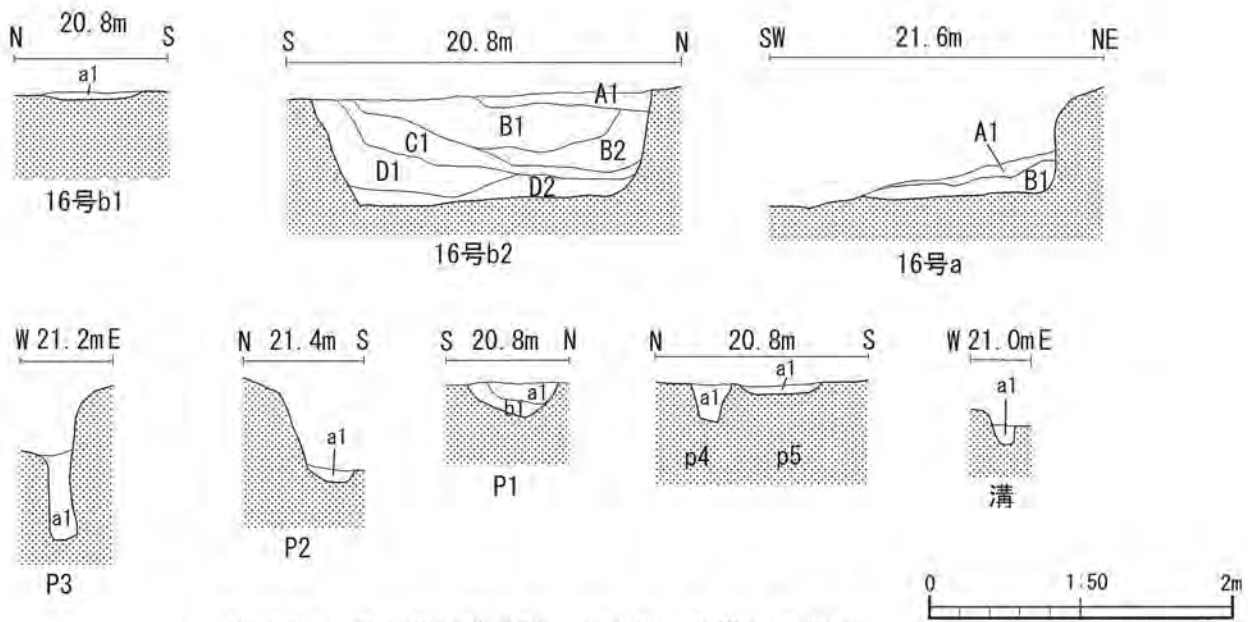
39は砥石である。16号e炉跡に伴って出土したものと、床面から出土したものを接合したものである。5面の磨面をもつ。

16号竪穴住居跡の年代は、切合い、出土遺物から平安時代に伴う。



第45図 16号竪穴住居跡 平・断面図



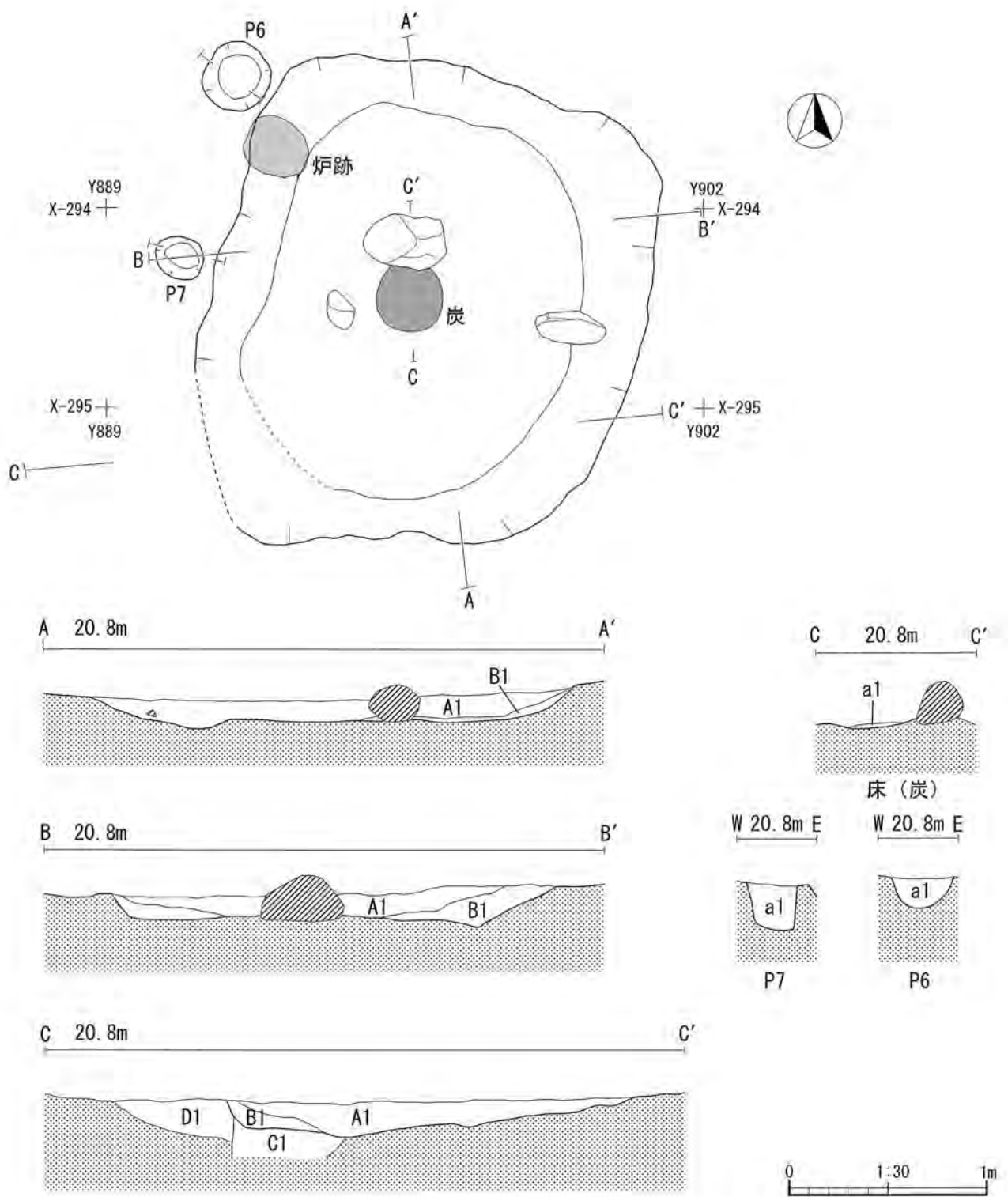


第46図 16号竪穴住居跡、土坑跡、堆積土断面図

層名		基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
16号 竪穴住居跡	A1	10YR4/6 褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 10%	中～固、中、塊
	B1	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 10%	中、中、塊
	C1	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土塊 10%	中、中、塊
	D1	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土塊 10%	中～軟、中、塊
	E1	10YR3/3 暗褐色砂土 粗い	10YR4/4 褐色砂 5%	中～軟、中、塊
	F1	10YR2/3 黒褐色砂壤土(粘りあり)	10YR3/3 暗褐色砂壤土 2%	中～軟、密、塊
	G1	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR3/3 暗褐色砂壤土塊 10%	中、中、塊
	H1	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 3%	中、中、塊
	I1	10YR4/2 灰黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 2%	中、中、塊
	J1	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 5%	軟、疎、塊
	L1	10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色砂壤土 2% 10YR3/4 暗褐色砂壤土 10%	中～固、中～密、塊

層名		基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
16号 a	A1	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 (粘りあり)	10YR4/4 褐色砂壤土シルト質壤土 10%	中、中、塊、炭、焼土粒多
	B1	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 (粘りあり)	10YR4/4 褐色砂壤土シルト質壤土 5%	中、中～密、塊
16号 b1 土坑跡	a1	10YR2/2 黒褐色シルト質壤土 (粘りあり)	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土塊 5%	中～軟、中～密、塊、炭、焼土少
16号 b2 土坑跡	A1	10YR4/3 にぶい黄褐色砂土	10YR4/6 褐色砂壤土塊 15%	中、中、塊
	B1	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 5%	中、中～密、塊、焼土粒少
	B2	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 20%	中、中～密、塊
	C1	10YR4/3 にぶい黄褐色砂土	10YR4/6 褐色砂壤土塊 10%	中、中、塊
	D1	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 10%	中、中、塊
	D2	10YR4/5 褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土塊 20%	中、中、塊
16号 c 土坑跡	A1	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土	10YR2/3 黒褐色シルト質壤土 3%	中、中～密、塊、炭、土師器、須恵器
	B1	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土塊 10%	中、中～密、塊
	C1	10YR4/3 にぶい黄褐色シルト質壤土 (粘りあり)	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土 5%	軟、中、塊
	D1	10YR3/2 黒褐色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土塊 5%	中、中、塊

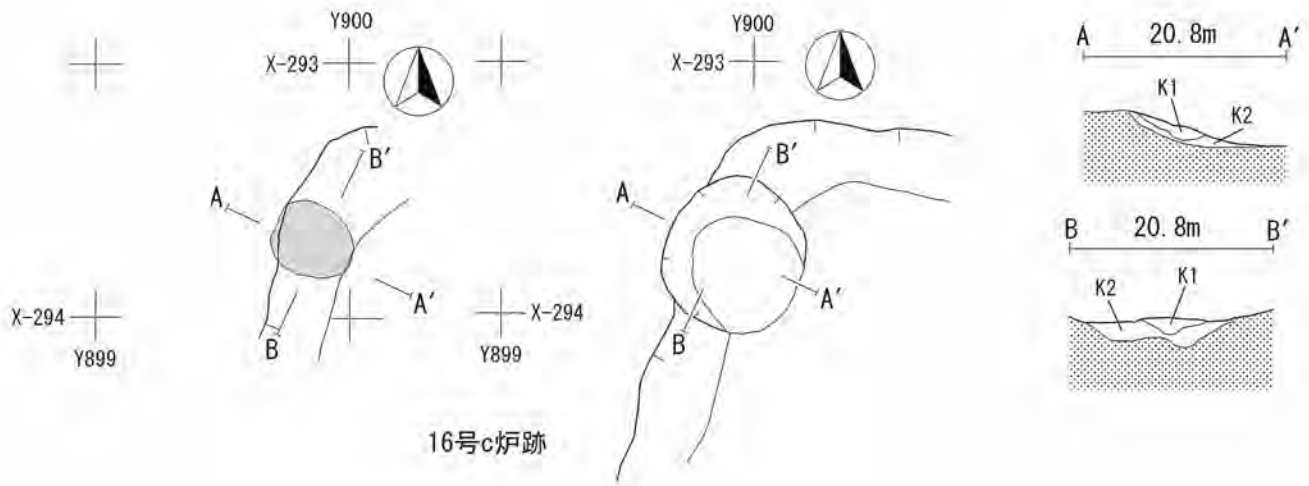
層名		基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
P1	a1	10YR4/4 褐色シルト質壤土?	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 10%	中～軟、中、塊
	b1	10YR3/3 暗褐色シルト質壤土 (やや粘性あり)	10YR4/4 褐色砂壤土砂壤土 10%	中～軟、中、塊
P2	a1	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土塊 2%	中、中、塊、炭、焼土粒微
P3	a1	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR4/3 褐シルト質壤土 10%	中、中～密、塊
P4	a1	10YR4/4 褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂土塊 10%	中～固、中、塊、炭(微)
P5	a1	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/6 褐色真砂土 2%	中、中、塊、炭粒少
P6	a1	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土塊 2%	中、中～密、塊
P7	a1	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 3%	中～固、中、塊
周溝	a1	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 2%	中、中、塊



第47図 16号c土坑跡、炉跡 平・断面図

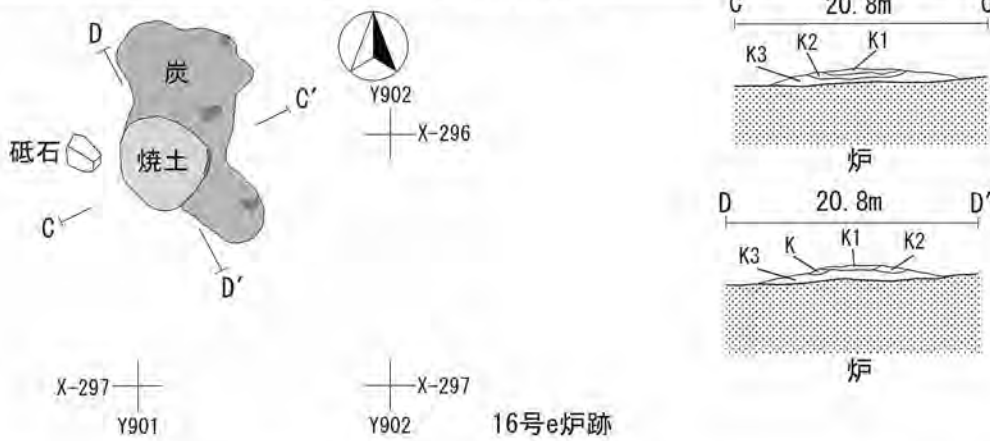
層名		基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
16号d炭の広がり	a1	10YR4/4 褐色砂壤土	10 Y R 5/6 黄褐砂壤土 3%	中、中・塊・炭多
P 9	a1	10YR3/4 暗褐色壤土	10YR4/6 褐色壤土 粉状 6%	中程度 少ない 炭化物(木炭)
	b1	10YR3/3 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色壤土 粉状 5%	中程度 ややあり
P10	a1	10YR2/2 暗褐色壤土	10YR4/4 褐色壤土 粉状 8%	少ない 多 炭化物
	b1	10YR3/3 暗褐色壤土	10YR4/4 褐色壤土	少ない ややあり 粗砂粒

層名		基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
16号C床面炭	a1	10YR2/1 黒色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 5%	軟、密、塊



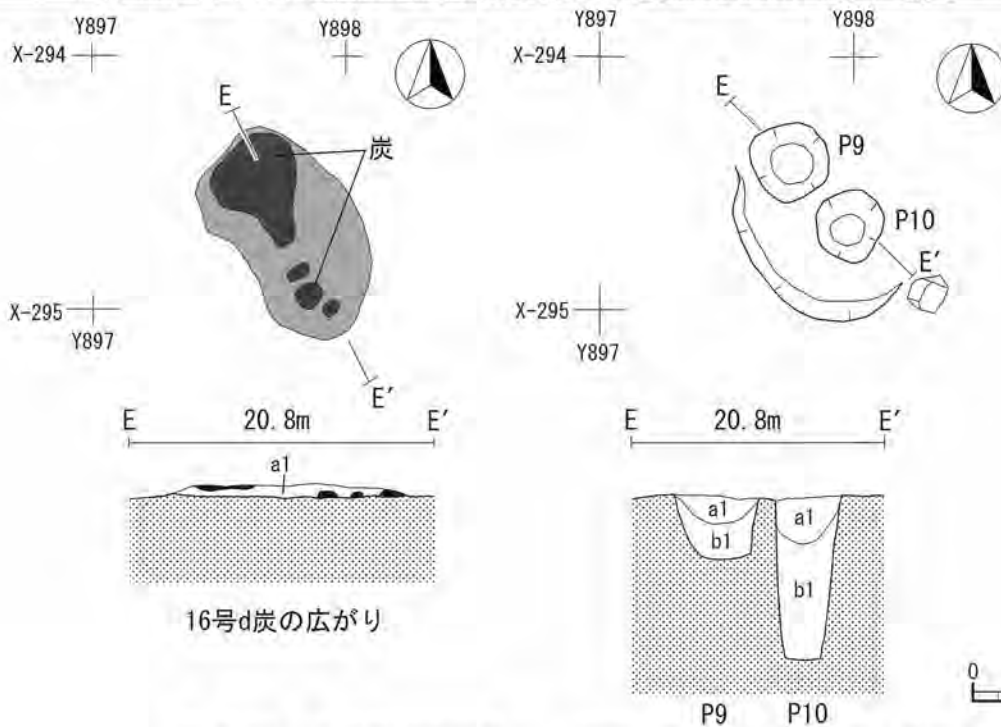
16号c炉跡

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
16号c炉跡	K 5YR5/6 明赤褐色砂壤土	7.5YR4/4 褐色砂壤土塊 10%	中、中、塊
	K1 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 3%	中～軟、中、塊



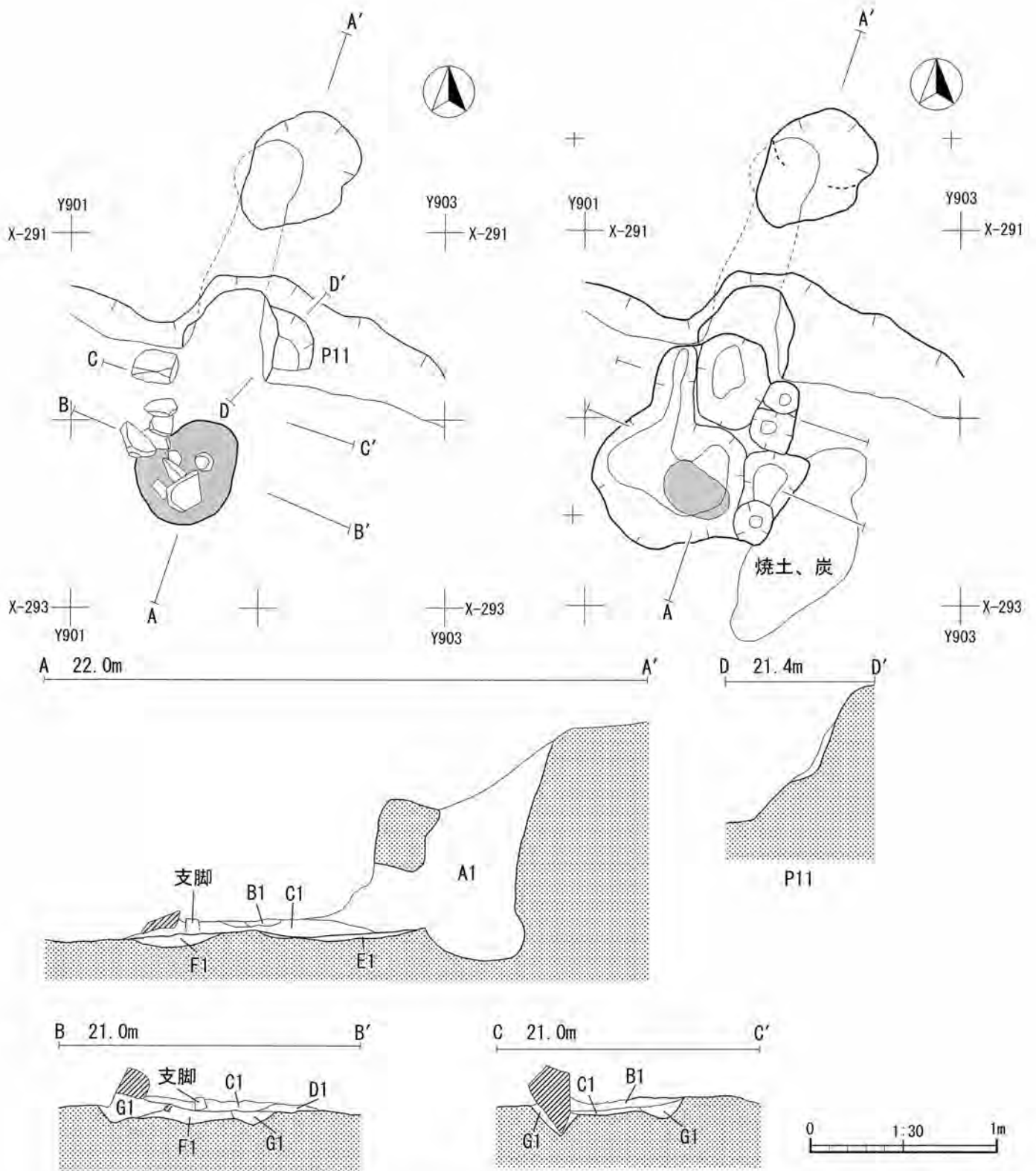
16号e炉跡

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
16号e炉跡	K1 5YR4/6 赤褐色砂壤土砂壤土	5YR3/4 暗赤褐色砂壤土塊 10% 7.5YR3/4 暗褐色砂壤土 3%	中～固、密、塊
	K2 炭 10YR2/1 黒色シルト質壤土		中、密・層
	K3 7.5YR3/3 暗褐色シルト質壤土（粘りあり）	5YR3/4 暗赤褐色シルト質壤土 3%	固、中～密、塊



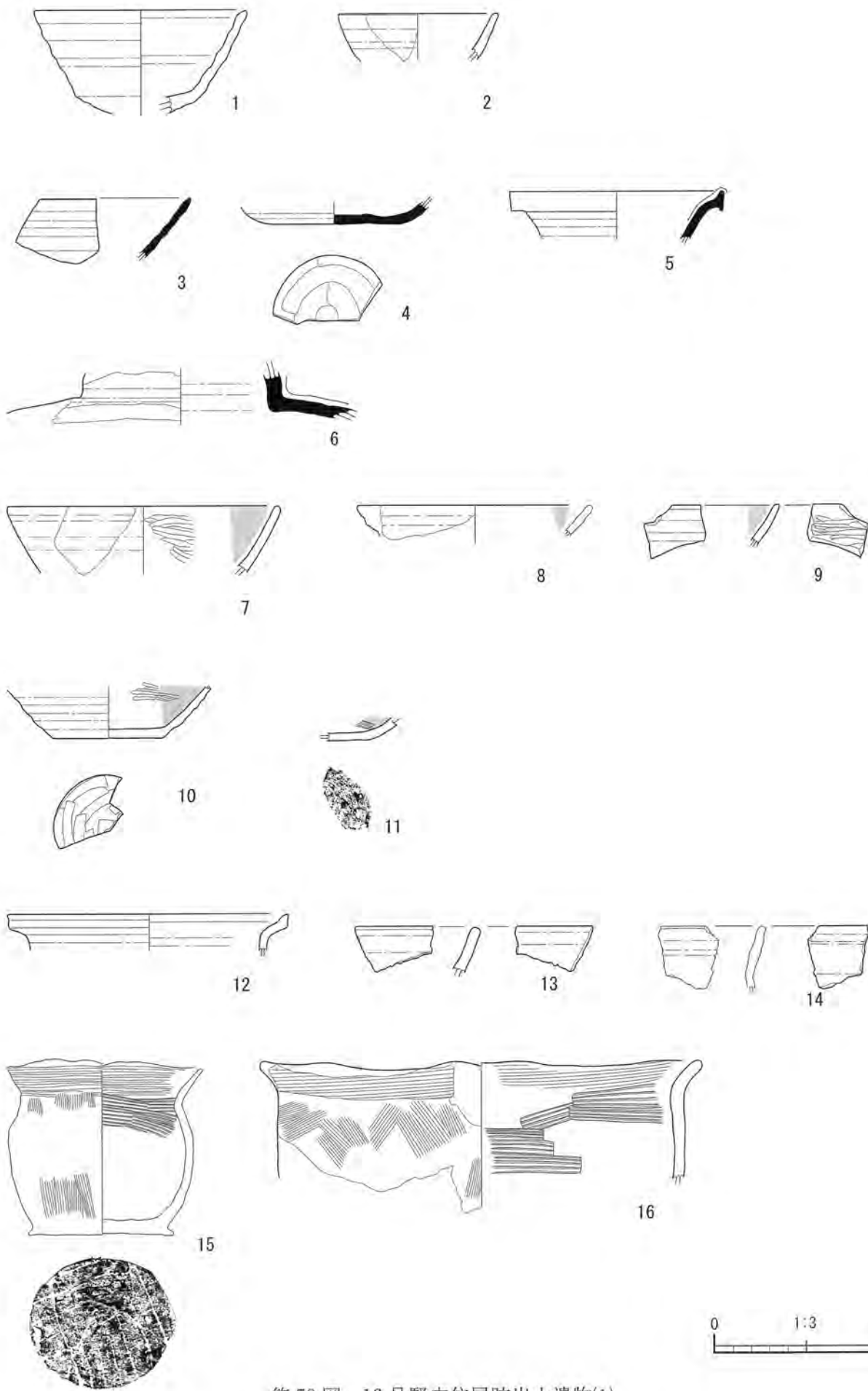
16号d炭の広がり

第48図 16号竪穴住居跡c、e炉跡、d炭の広がり 平・断面図

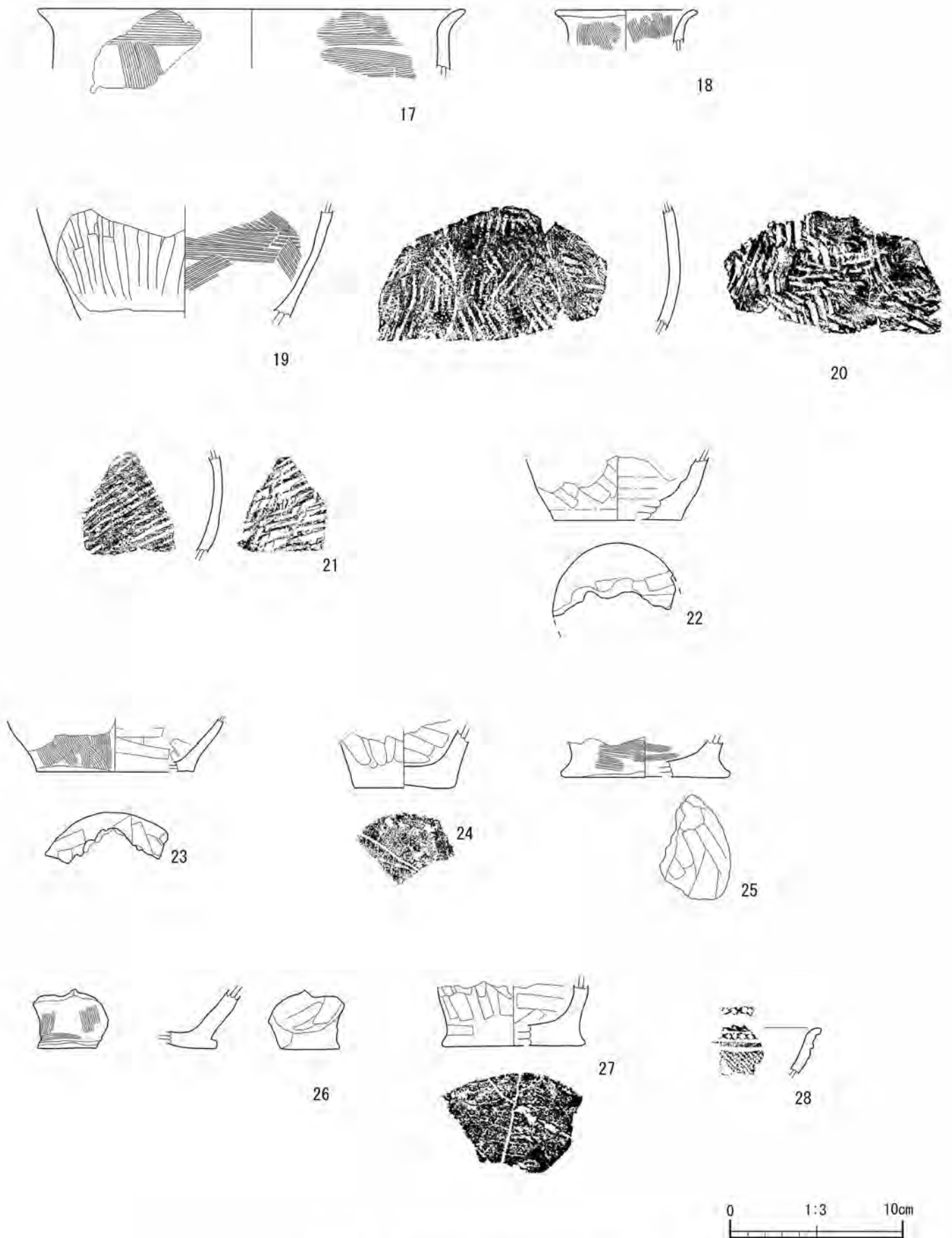


第49図 16号竪穴住居跡カマド 平・断面図

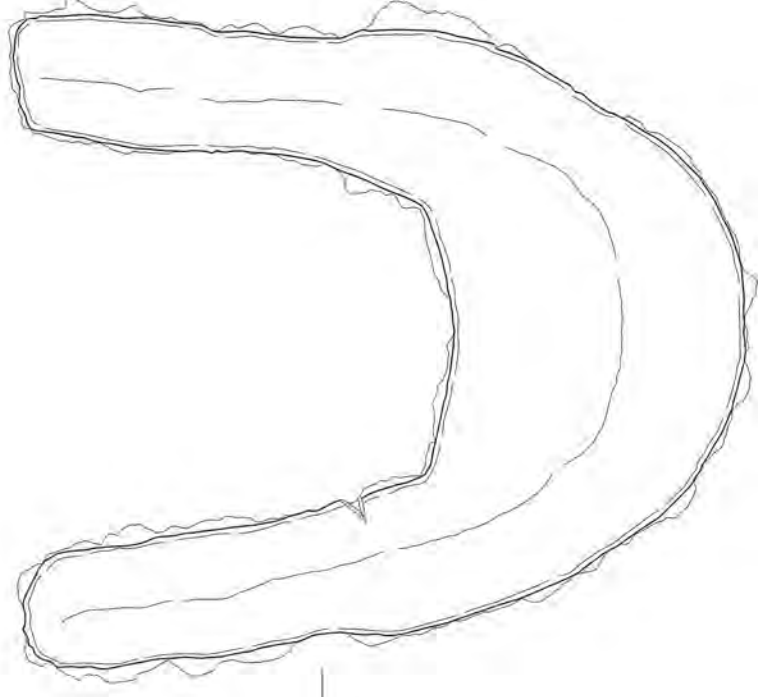
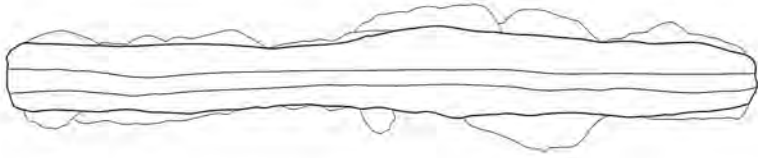
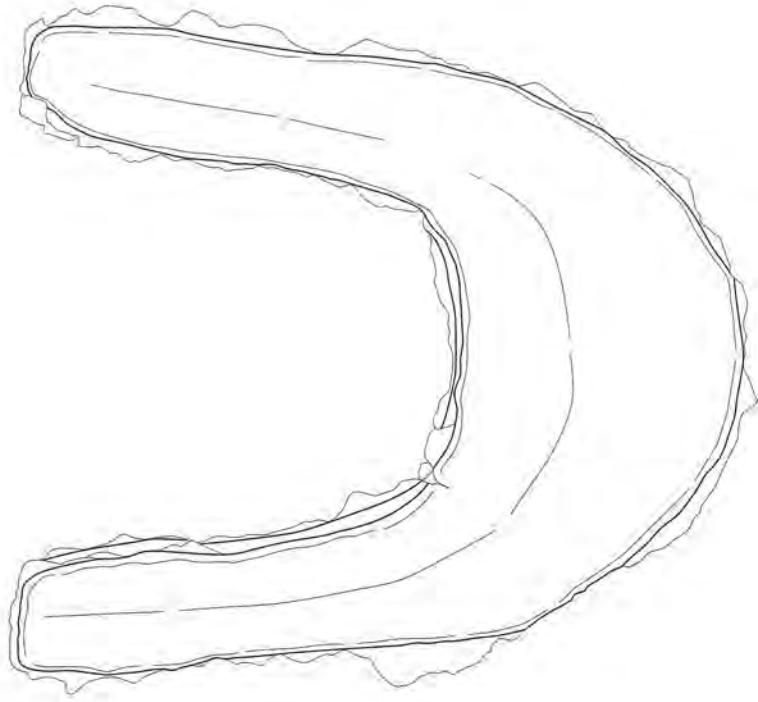
層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物	
15号カマド	A1	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 5%	軟、疎、塊
	B1	10YR5/8 黄褐色砂壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土	中～軟、中、塊
	C1	10YR3/3 暗褐色砂土	7.5YR3/3 暗褐色砂壤土塊 10%	中、中、塊、粘土塊、粘土、焼土粒多
	D1	10YR2/2 黒褐色シルト質壤土	10YR4/6 褐色シルト質壤土 10%	中、密、塊、炭、焼土、土器
	E1	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 10%	中～軟、中、塊、炭
	F1 焼土	5YR4/6 赤褐色砂壤土	7.5YR5/4 にぶい褐色シルト質壤土 10%	
	G1	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 10%	中～固、密・塊



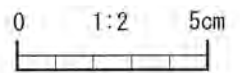
第50图 16号竖穴住居跡出土遺物(1)



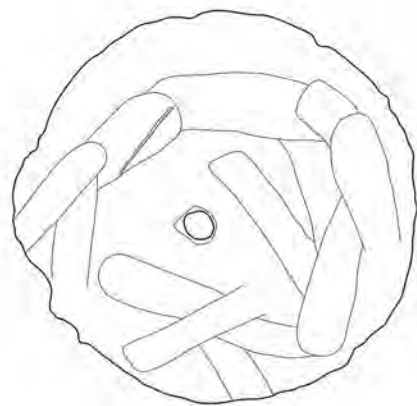
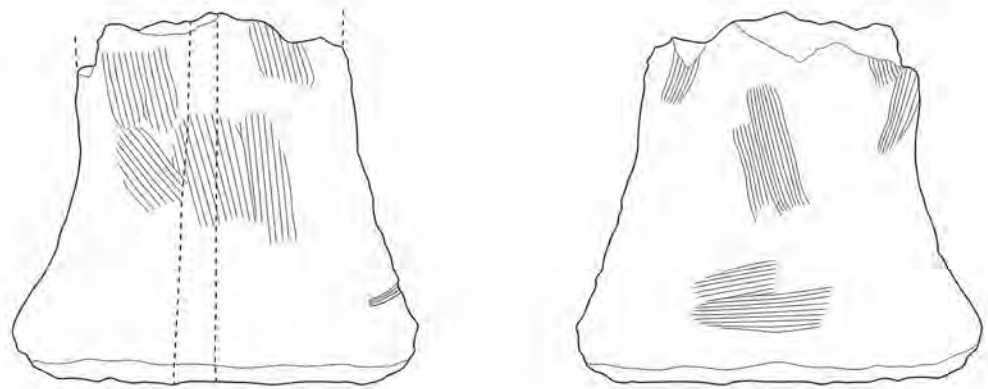
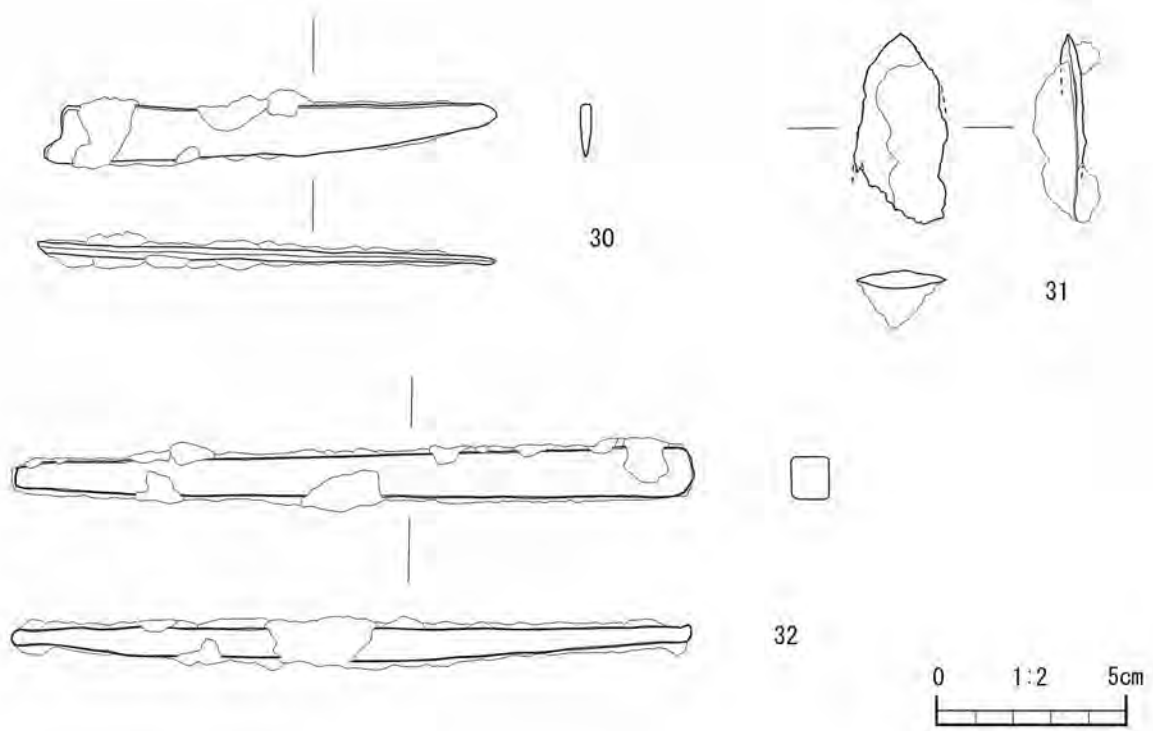
第 51 图 16 号竖穴住居跡出土遺物(2)



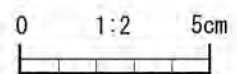
29



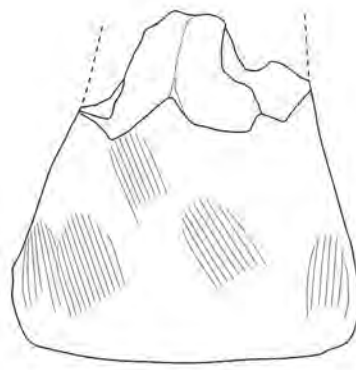
第 52 図 16 号竖穴住居跡出土遺物(3)



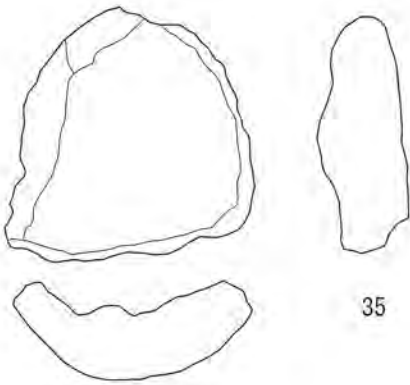
33



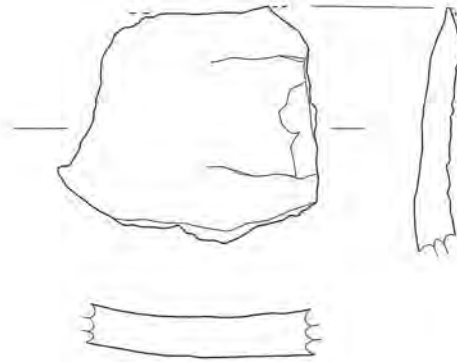
第 53 图 16 号竖穴住居跡出土遺物(4)



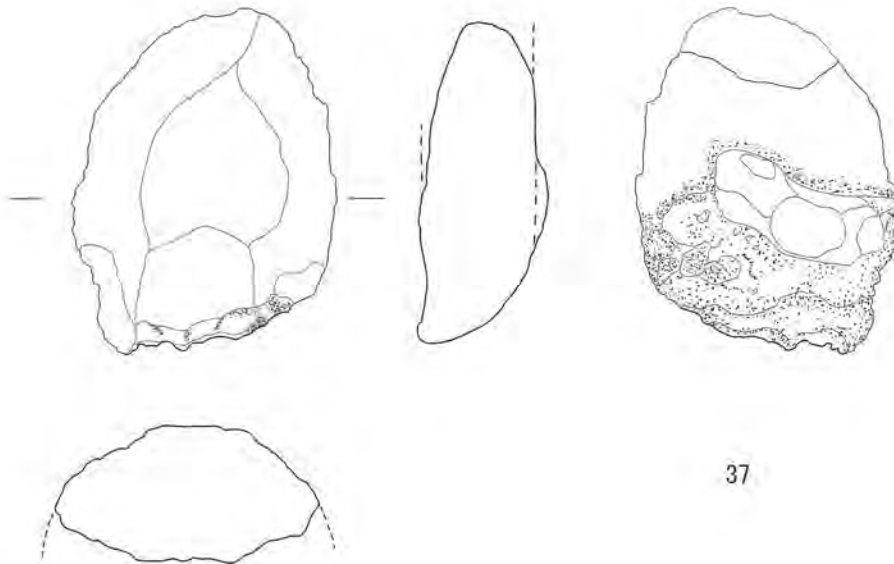
34



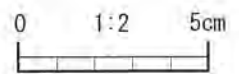
35



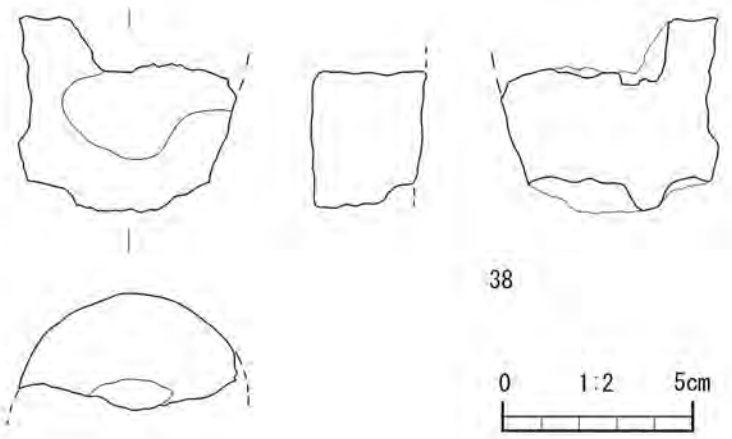
36



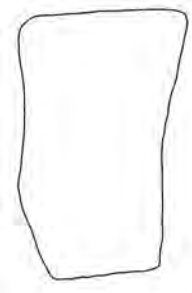
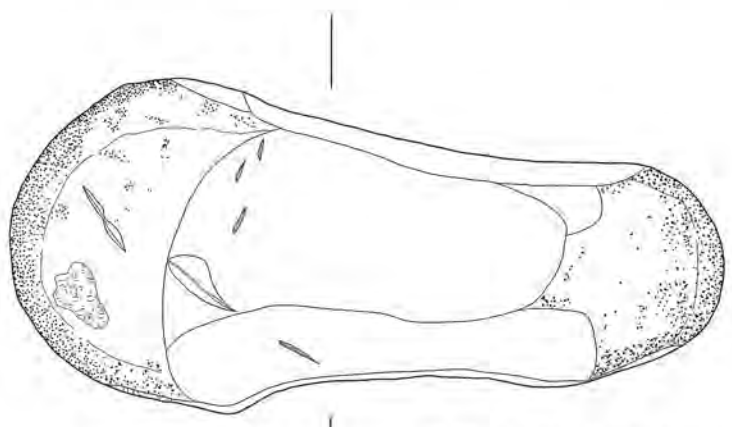
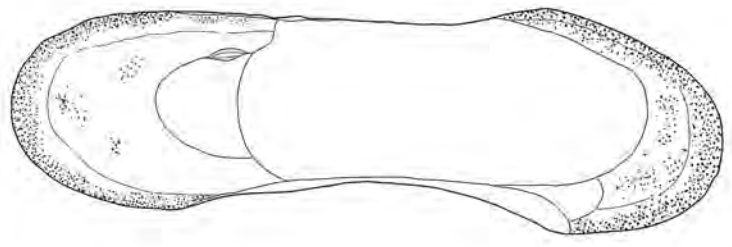
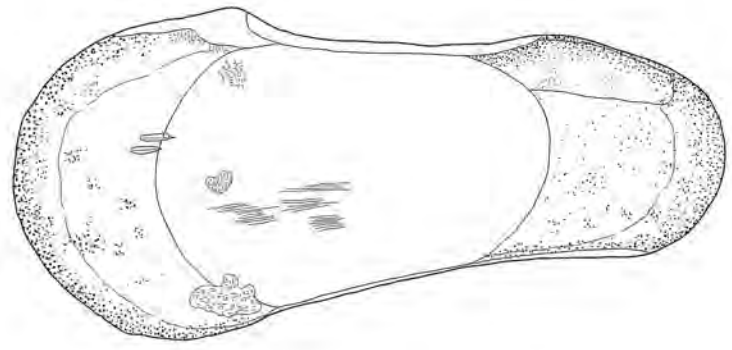
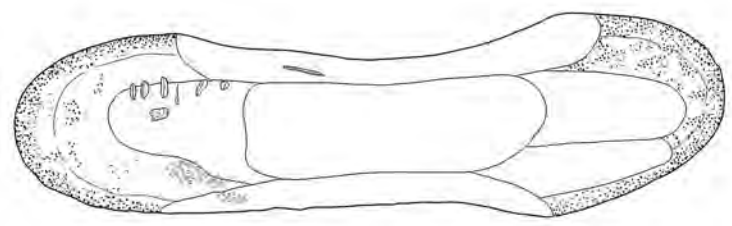
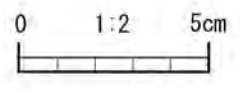
37



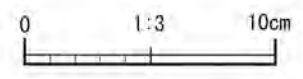
第54图 16号竖穴住居跡出土遺物(5)



38



39



第 55 图 16 号竖穴住居跡出土遺物(6)

17号竪穴住居跡（第56図）

16号住居跡の東側に位置する。検出面は地山面である。16号住居跡と22号、23号土坑跡に切られている。北側の壁と床面の一部を検出しただけなので規模はつかめないが、4m×4mの床面は確認できた。埋土2層に分かれる。床面から9基の小ピット、1基の溝跡が出土している。カマドなどの施設は検出していない。P9の上場に沿って細長い焼土遺構を検出した。焼土は焼き締まっておらず、焼け方も一様であり、二次的な堆積と判断した。

出土遺物（第57、58図）

1、2は内黒の坏である。いずれも内湾して立ち上がる。

3～6は須恵器である。3はわずかに内湾しながら立ち上がり、口縁部で外反する。外面は明灰色に焼け、内面は酸化炎焼成を受けている。底面は回転糸切り痕を残す。4はほぼ直線的に立ち上がる。5は広口壺の口縁部と思われる。6は甕の体部である。外面にケズリ調整痕を残す。7は土師器である。ロクロ成形の甕の口縁部である。胴部は直に立ち上がり、頸部で外反し、口縁部は直に立ち上がる。

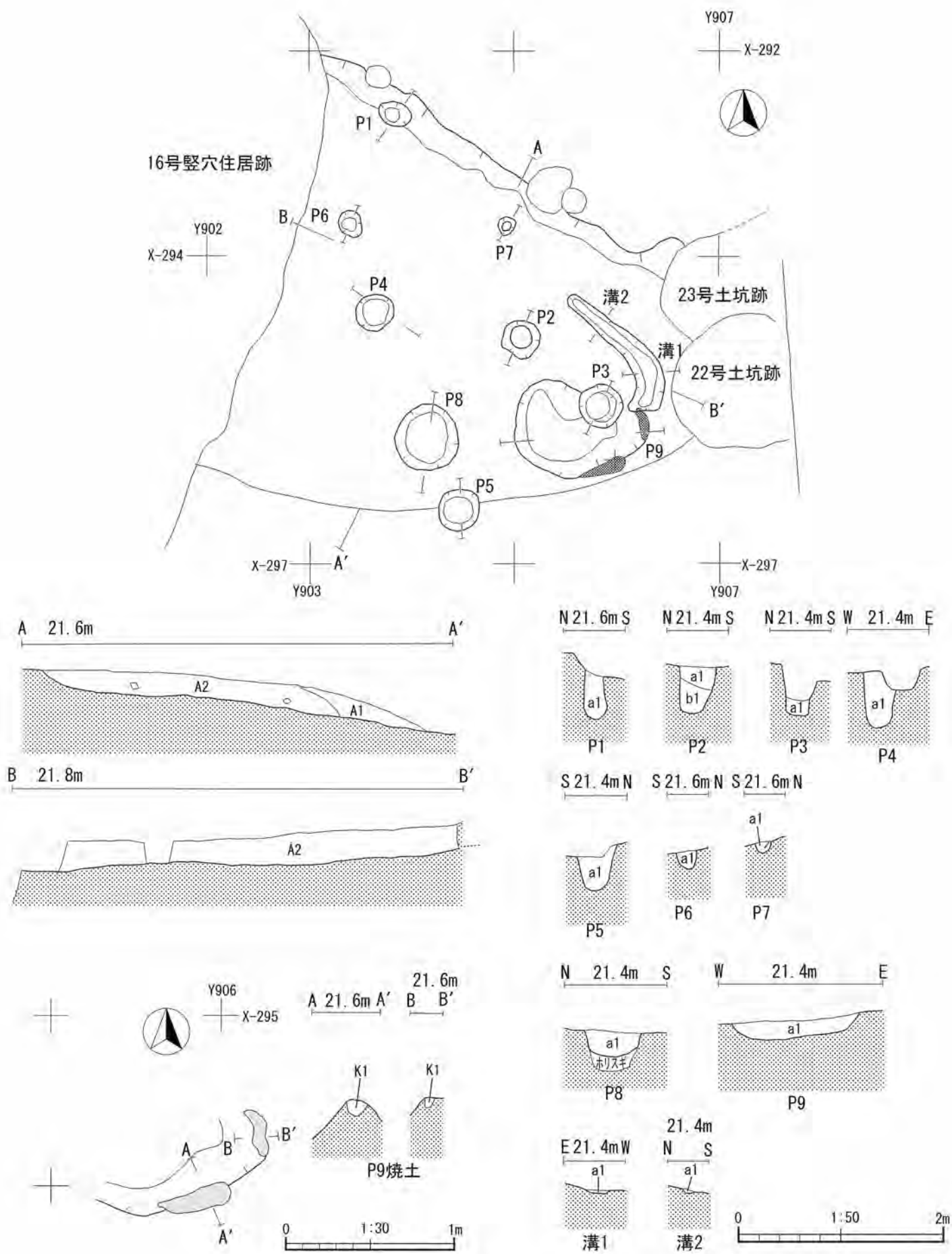
8は鉄製品である。先細りする角棒状の製品である。刀子の中子と思われる。

9は石製品である。角礫の首に断面V字形の溝を巡らす。長い三角の突起をもつ面では、その突起に刻みを入れている。

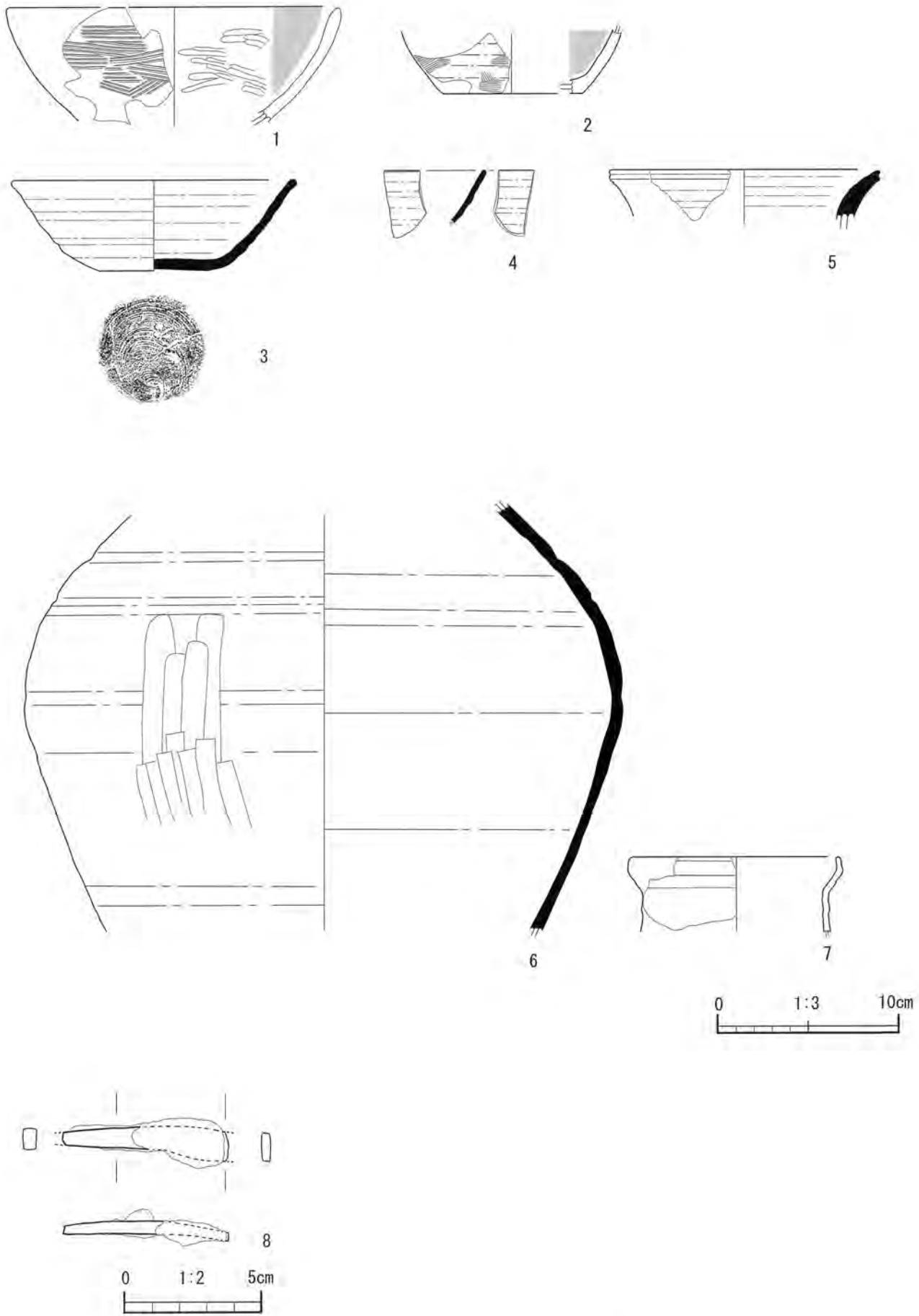
17号竪穴住居跡の年代は、切合い、出土遺物から平安時代に伴う。

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
17号	A1 10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂土塊 3%	中、中、塊
竪穴住居跡	A2 10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土、真砂土塊 5%	中、中、塊

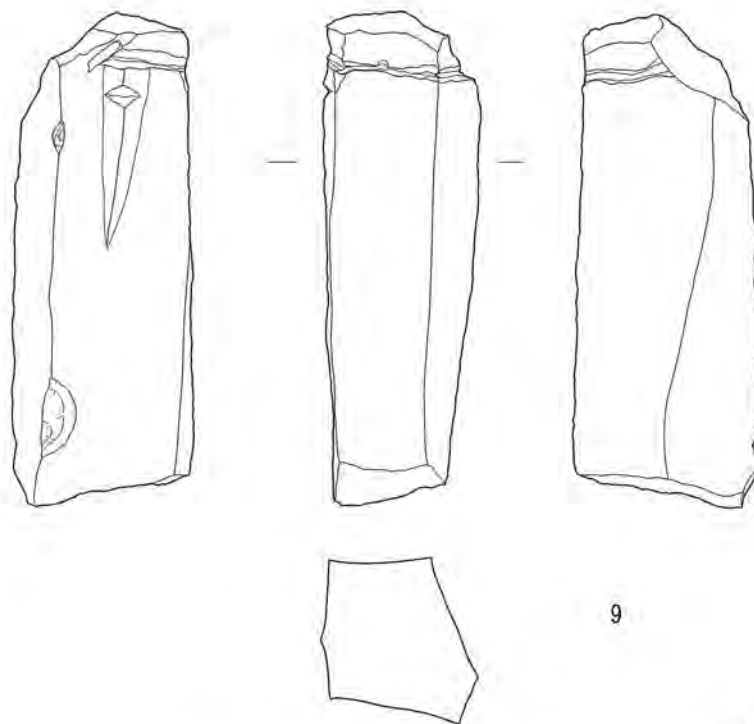
層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
P1	a1 10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土塊 3%	軟、？、塊
P2	a1 10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土塊 10%	中、中、塊
	b1 10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土塊 2%	中、中、塊
P4	a1 10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 3%	軟、中～疎、塊
P8	a1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土塊 10%	中、中、塊
P9	a1 10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 10%	中、中、塊、須恵器
P3	a1 10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 5%	中、中、塊、土師器
P8	a1 10YR3/4 暗褐色砂壤土(粘土質)	10YR4/6 褐色砂壤土塊 2%	中、中～密、塊
P5	a1 10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 10%	軟、疎、塊
P7	a1 10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 2%	中、中、塊、須恵器片
P6	a1 10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土塊 3%	中、中、塊
溝跡	a1 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土塊 5%	中、中・塊
焼土	K1 7.5YR4/3 褐色シルト質壤土	5YR4/4 にぶい赤褐色砂壤土 2%	中～軟、中、須恵器片



第56图 17号竖穴住居跡 平·断面图



第 57 図 17 号竖穴住居跡出土遺物(1)



第 58 図 17 号竪穴住居跡出土遺物(2)

18 号竪穴住居跡 (第 59 図)

16 号住居跡の西側に位置する。検出面は地山面である。16 号住居跡に切られ、19 号住居跡を切っている。平面形は隅丸方形である。規模は、16 号住居跡の床面に周溝跡が残されていたので、ほぼ正確に全体を把握できる。規模は南北 2.8 m、東西 4.3m である。壁際に周溝を巡らす。床面から 10 基の小ピットを検出している。カマドなどの施設は出土していないが、北西隅で炭の広がりを検出した。埋土は 4 層に分かれる。

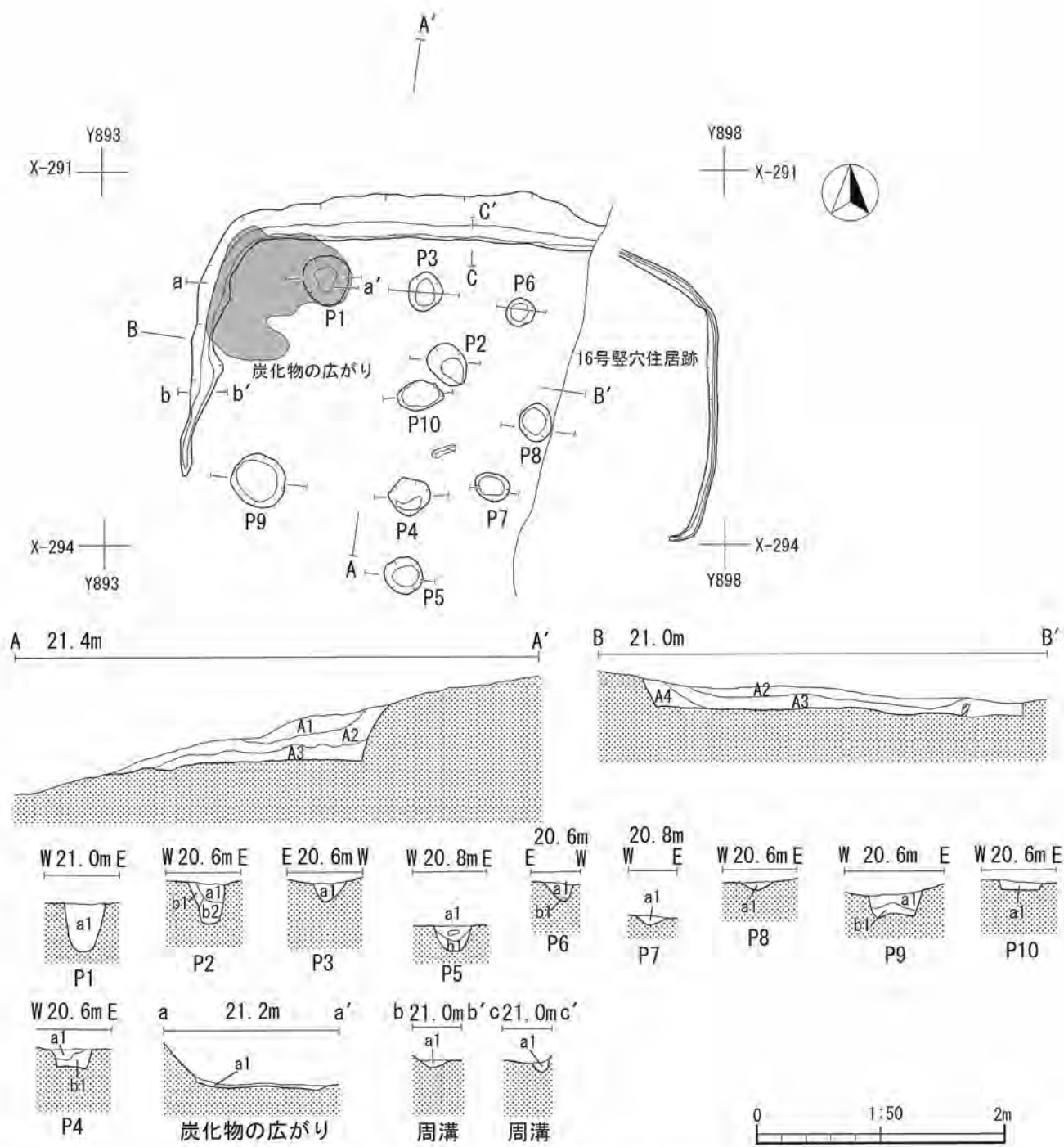
出土遺物 (第 60 図)

1 は須恵器坏の口縁部である。直線的に立ち上がる。2～7 は土師器である。いずれもロクロ成形の甕の短い口縁部である。5、6 は体部片で、いずれも内外面にタタキメを残している。7 は張出しを持つ底部で、底面はケズリ調整されている。

8 は鉄製品である。東隣の 16 号住居跡で出土したものとはほぼ同形の角棒状の製品である。

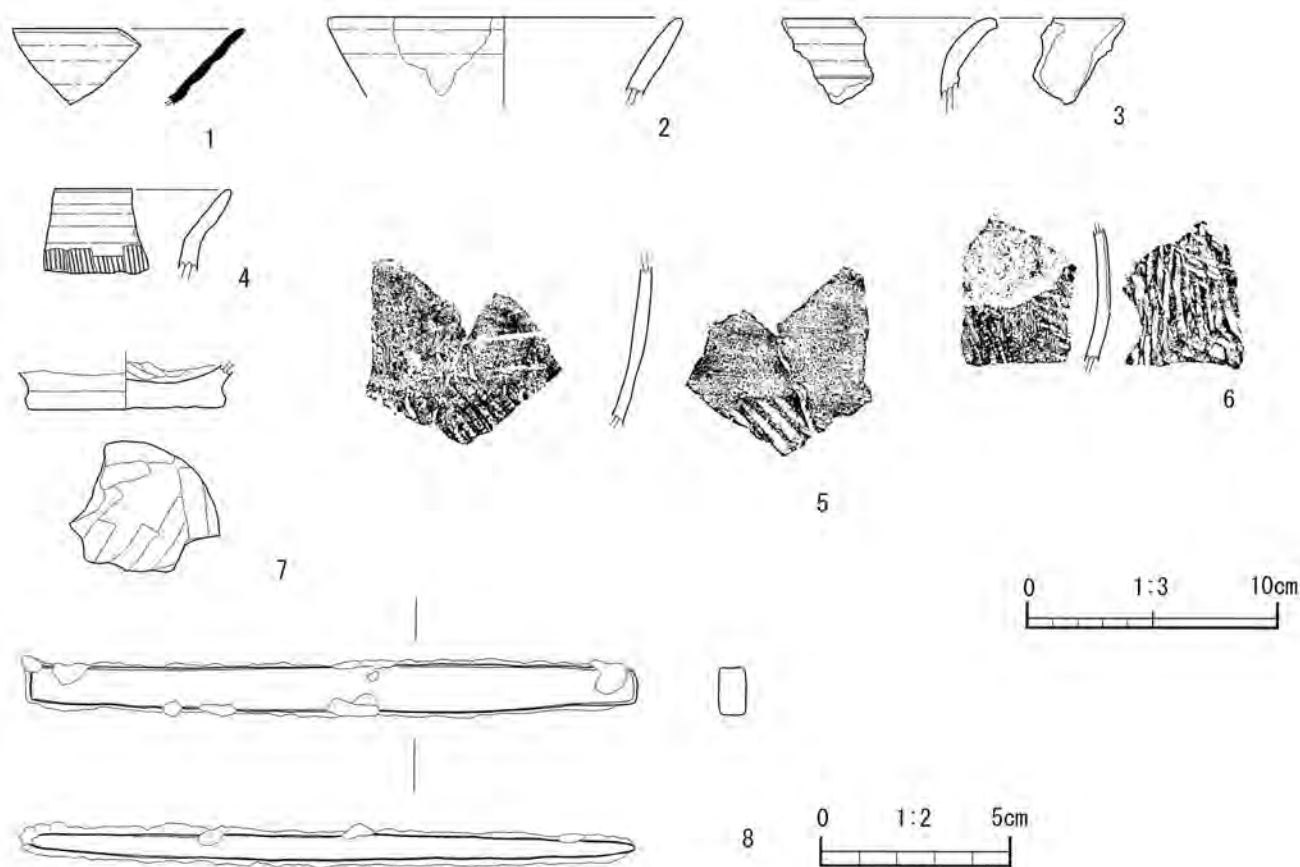
(第 53 図 32)

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
17 号竪穴	A1	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/2 黒褐色埴壤土 10%塊状 中、中・塊
	A2	10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR3/4 暗褐色埴壤土 20%塊状 中、中・5mm 大の焼土少
	A3	10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR2/3 黒褐色埴壤土 5%塊状 中、中・3mm 大の炭化物少



第59図 18号竪穴住居跡 平・断面図

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
P1	a1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 20%塊状	中～軟、中～疎・斑状に混入
	b1 10YR3/3 暗褐色埴壤土	10YR3/4 暗褐色埴壤土 10%塊状	中～軟、中～疎・斑状に混入
P2	a1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 20%塊状	中～軟、中～疎・斑状に混入
	b1 10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土 10%塊状	中～軟、中～疎・斑状に混入
P3	a1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 20%塊状	中～軟、中～疎・斑状に混入
	b2 10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/4 褐色埴壤土 5%塊状	中～軟、中～疎・3cm大の礫
P4	a1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 20%塊状	中～軟、中～疎・斑状に混入
	b1 10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土 10%塊状	中～軟、中～疎・斑状に混入
P5	a1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 20%塊状	中～軟、中～疎・斑状に混入
	b1 10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土 10%塊状	中～軟、中～疎・斑状に混入
P6	a1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 20%塊状	中～軟、中～疎・斑状に混入
	b1 10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/6 褐色埴壤土 10%塊状	中～軟、中～疎・斑状に混入
P7	a1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 20%塊状	中～軟、中～疎・斑状に混入
P8	a1 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 20%塊状	中～軟、中～疎・斑状に混入
P9	a1 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 10%塊状	中、中・塊
	b1 10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 20%塊状	中、中・塊
炭化物の広がり	a1 10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土 10%塊状	中、中・炭化物多、焼土粒多。層厚薄い
	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR5/8 黄褐色埴壤土 10%塊状	
周溝	a1	10YR2/2 黒褐色埴壤土 20%塊状	中～軟、中～疎・2mm. 大の炭化物微量



第60図 18号竪穴住居跡出土遺物

19号竪穴住居跡（第61図）

18号住居跡の北側に位置する。検出面は地山面である。18号住居跡と11号住居跡に切られている。平面形は、北東隅の形状から隅丸方形と推定できる。規模は推定で東西4m、南北は共伴すると思われる土坑P2までを計測すれば3mである。北壁の中央にカマドを設けている。床面から柱穴状の小ピット4基が検出したほか貼床の一部が残されていることを確認した。周溝は設けていない。埋土は3層に分かれる。

19号竪穴住居カマド（第62、63図）

北壁のほぼ中央に設けられたくり貫式のカマドである。カマドは内外を黄褐色、白色粘土などで覆われていて、その中から土器、土製品、骨角器などが出土している。

使用状況では、袖石の一部が原状のまま残されていることが確認できた。煙道は、半ばあたりを土坑跡（11号住居跡）に切られていることが分かった。煙道はやや下向きに傾斜つけて掘り込まれ、煙出しもやや外反して立ち上がる。規模は火床部が50cm×40cm、焼土層厚は3cmである。煙道の径は約25cm、煙出しの径は30cmである。

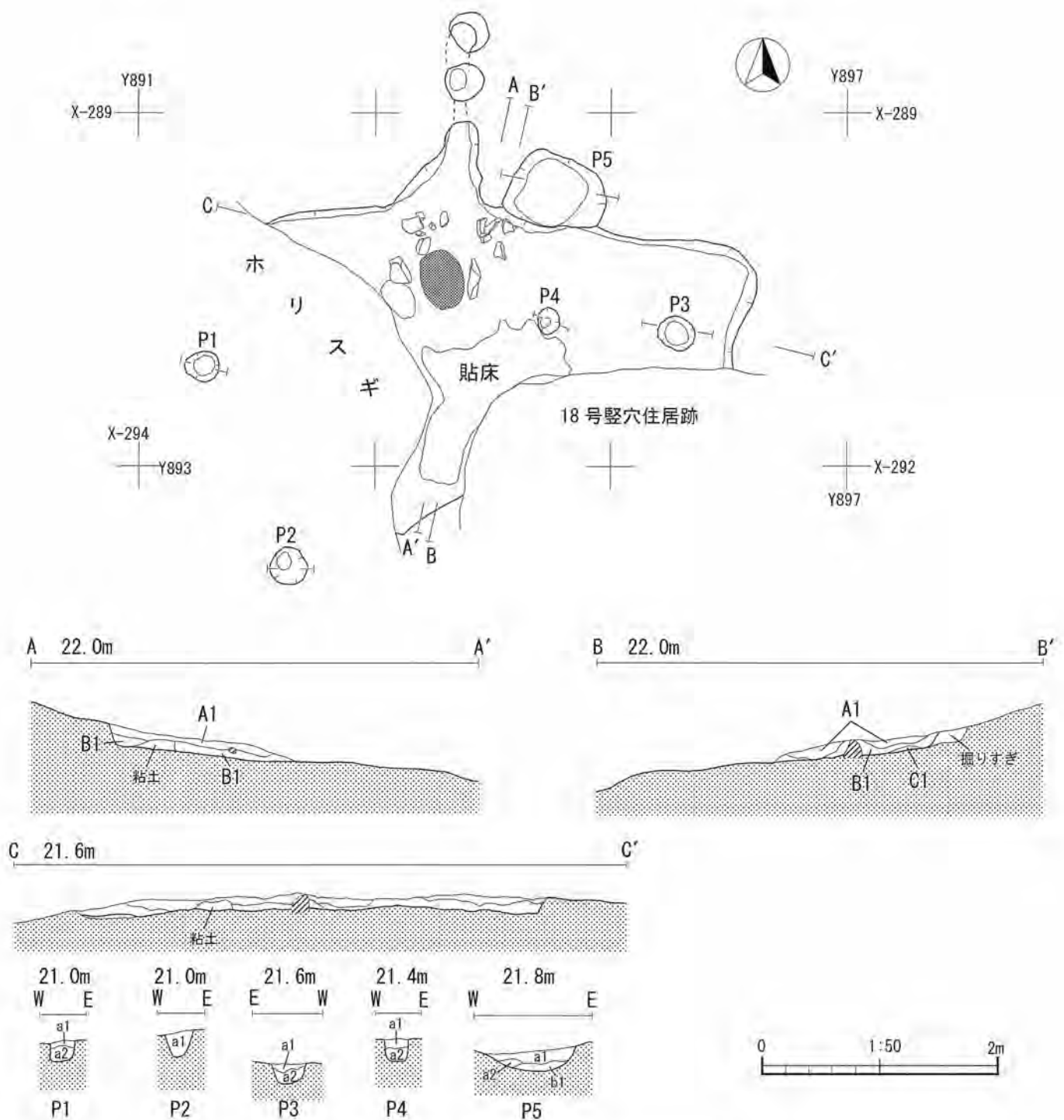
出土遺物（第64図）

1は土師器の甕である。体部の膨らみは小さく、口縁部は短く、外反しながら直線的に立ち上がる。

2は土製品である。支脚の完形品である。中心部に成形に用いた芯材の痕を残す。上下面、体部にケズリ調整を施される。

3はカマド東側の床面から出土した鹿の角である。面取りした面の中央に細長い切り込みをいれる。

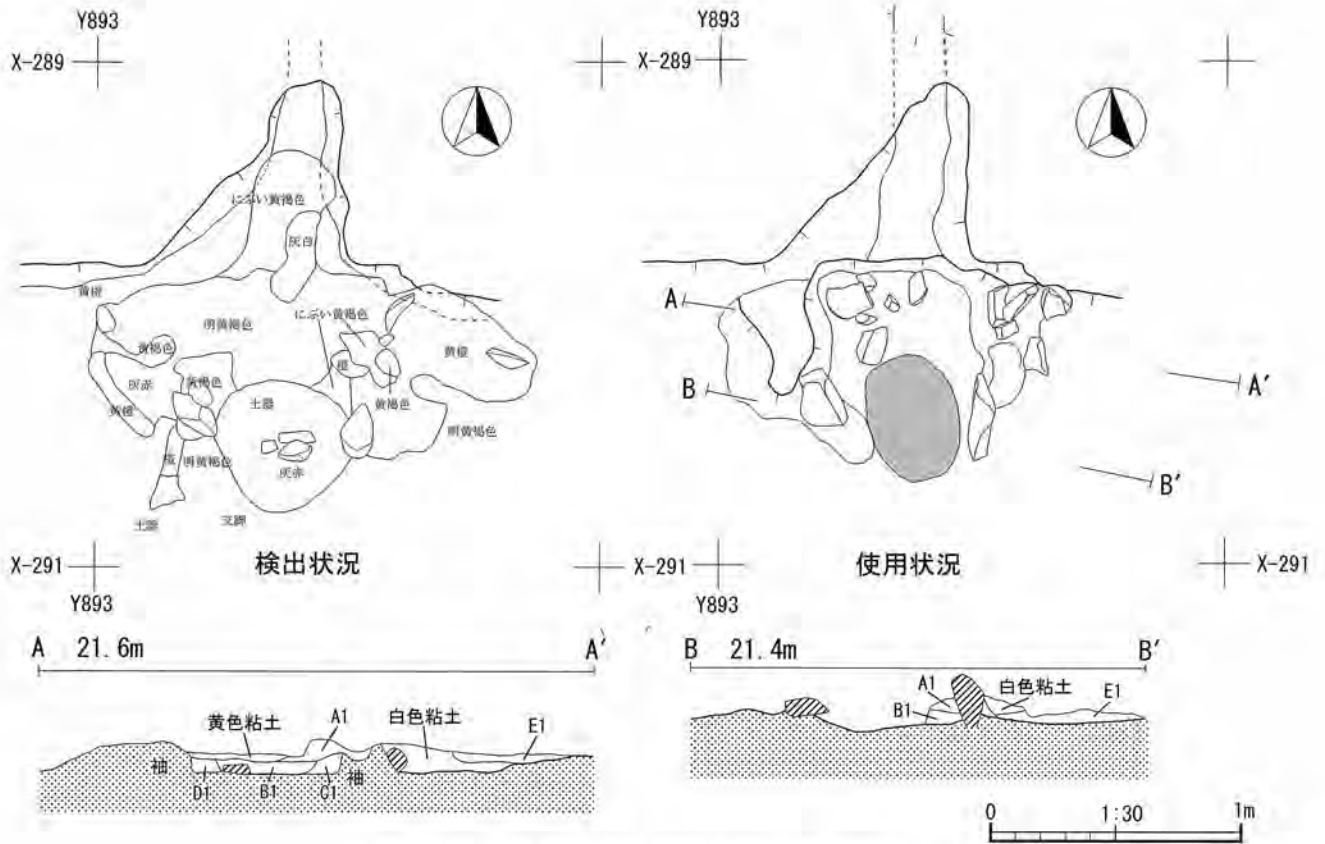
19号竪穴住居跡の年代は、切合い、出土遺物から平安時代に伴う。



第 61 図 19号 竪穴住居跡 平・断面図

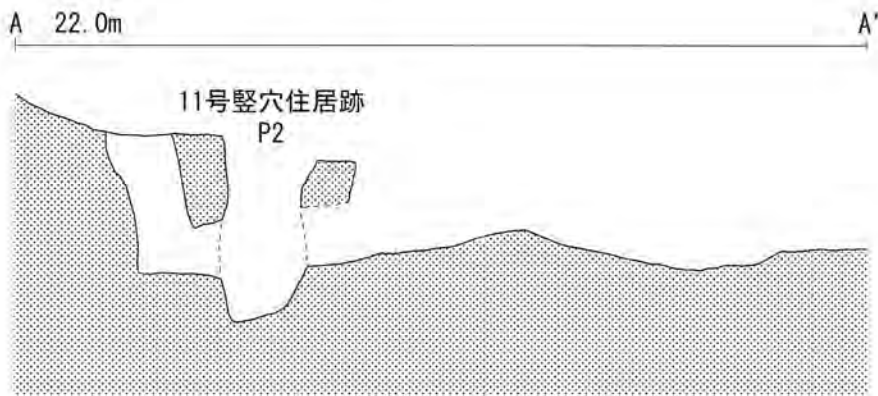
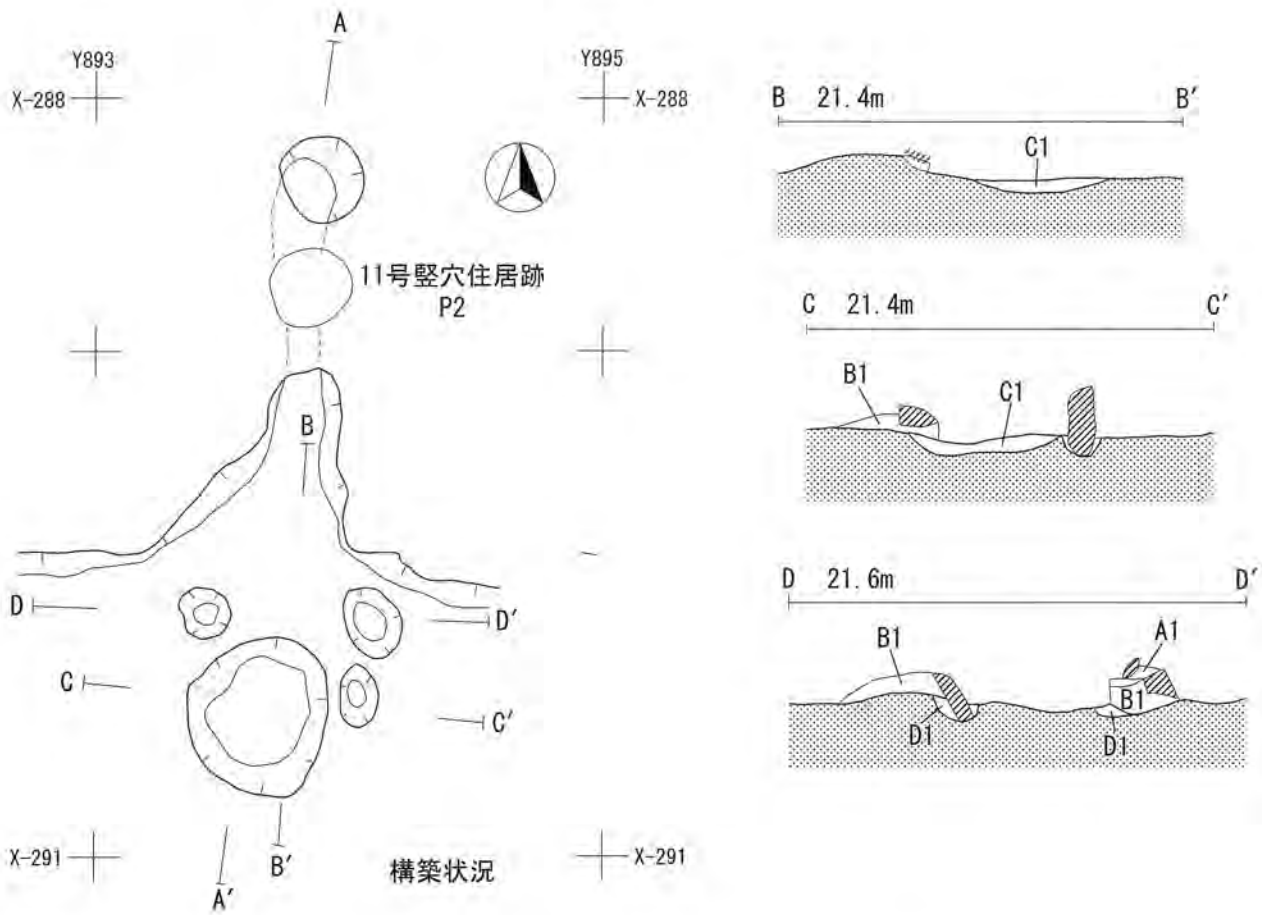
層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
19号 竪穴住居跡	A1 10YR3/3 暗褐色埴壤土	10 Y R 3/4 暗褐色埴壤土 20%塊状	中、中・砂質、焼土粒少量
	B1 10YR2/3 黒褐色埴壤土	10 Y R 3/3 暗褐色埴壤土 10%塊状	中、中・砂質
	C1 10YR3/3 暗褐色埴壤土	10 Y R 3/4 暗褐色埴壤土 5%塊状	中～軟、中～疎・5cm 大の小礫

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
P1	a1 10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 5%塊状	中～軟、中～疎・鉄滓を含む
	a2 10YR2/2 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 10%塊状	中～軟、中～疎・黄色粒微量
P2	a1 10YR2/1 黒色埴壤土	10YR2/2 黒褐色埴壤土 10%塊状	中～軟、中～疎・5mm 大の炭化物少量
	2 10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 20%塊状	中～軟、中～疎
P3	a1 10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 10%塊状	中、中・地山ブロック少量
	a2 10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 20%塊状	中、中・5cm 大の小礫
P4	a1 10YR2/3 黒褐色埴壤土	10YR3/4 暗褐色埴壤土 20%塊状	中～軟、中～疎・3mm 大の炭化物微量
	b1 10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/4 褐色埴壤土 10%塊状	中～軟、中～疎
P5	a1 10YR3/3 暗褐色埴壤土	10YR3/4 暗褐色埴壤土 20%塊状	中、中
	a2 10YR3/3 暗褐色埴壤土	10YR3/4 暗褐色埴壤土 10%塊状	中、中
	b1 10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR4/3 にぶい黄褐色埴壤土 10%塊状	中、中



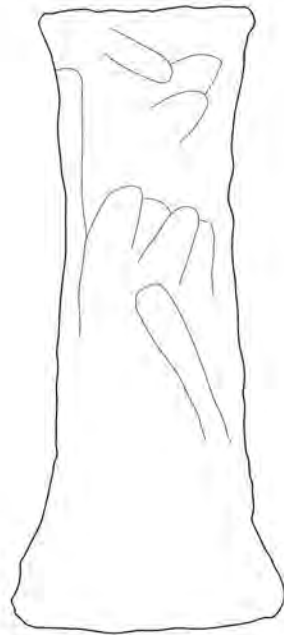
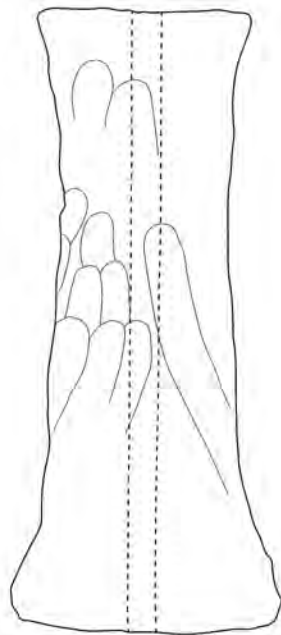
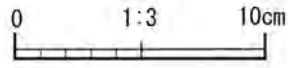
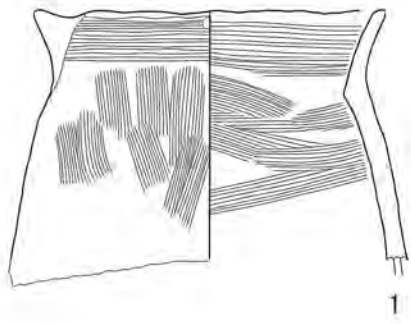
第 62 図 19 号竪穴住居跡カマド平面図(1)

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
19 号 竪穴住居 カマド	A1	10YR3/4 暗褐色埴壤土	10YR3/3 暗褐色埴壤土 20%塊状 中～軟、中～疎
	B1	5YR3/4 暗赤褐色埴壤土	5YR3/3 暗赤褐色埴壤土 20%塊状 7. 5YR4/3 褐色埴壤土 10%塊状 中～軟、中～疎・焼土粒少量
	C1	10YR3/2 黒褐色埴壤土	10YR7/8 黄褐色埴壤土 30%塊状 中～軟、中～疎・焼土塊多量
	D1	7. 5YR4/4 褐色埴壤土	7. 5YR5/4 にぶい褐色埴壤土 20%塊状 中～軟、中～疎・焼土塊やや黄色味を帯びる
	E1	10YR2/3 黒褐色埴壤土	5YR4/4 にぶい赤褐色シルト質壤土 10%塊状 10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 10%塊状 中、中・5mm 大の炭化物少量

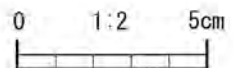


第63図 19号竪穴住居跡カマド 平・断面図(2)

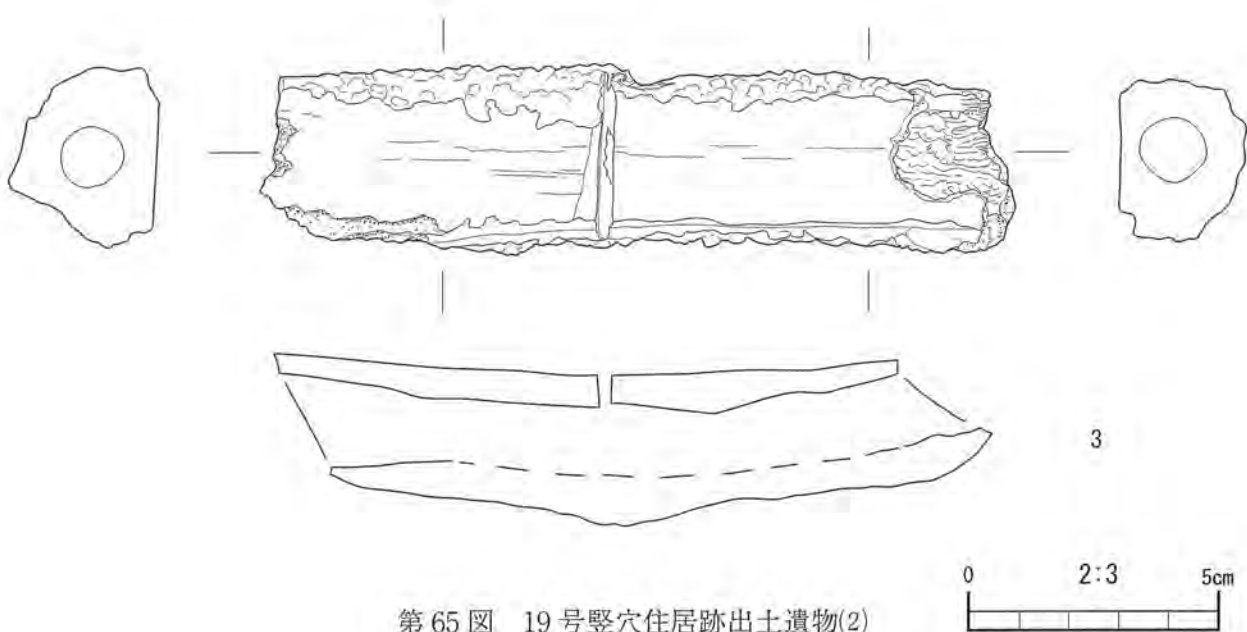
層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
19号	A1 10YR3/4 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色壤土 粉状 8%	中硬 少ない 竪穴埋土
竪穴住居	B1 10YR4/6 褐色壤土	10YR6/4 にぶい黄褐色 20% 一埴壤土塊状	やや硬い質 多 細炭化物 カマド構築土
カマド	C1 7.5YR6/6 橙壤土	2.5YR5/8 明赤褐色 砂壤土 5% 粉状	硬 やや少ない 焼土



2



第 64 図 19 号竖穴住居跡出土遺物(1)



第 65 図 19 号竪穴住居跡出土遺物(2)

20 号竪穴住居跡 (第 66 図)

調査区の北西の隅に位置する。検出面は 7 層である。11 号住居跡に切られ、21 号住居跡を切る。竪穴の形状、規模は不明である。床面から周溝、土坑跡、焼土、粘土の広がりなどが出土している。埋土は 4 層 (C1 ~ F1) に分かれる。

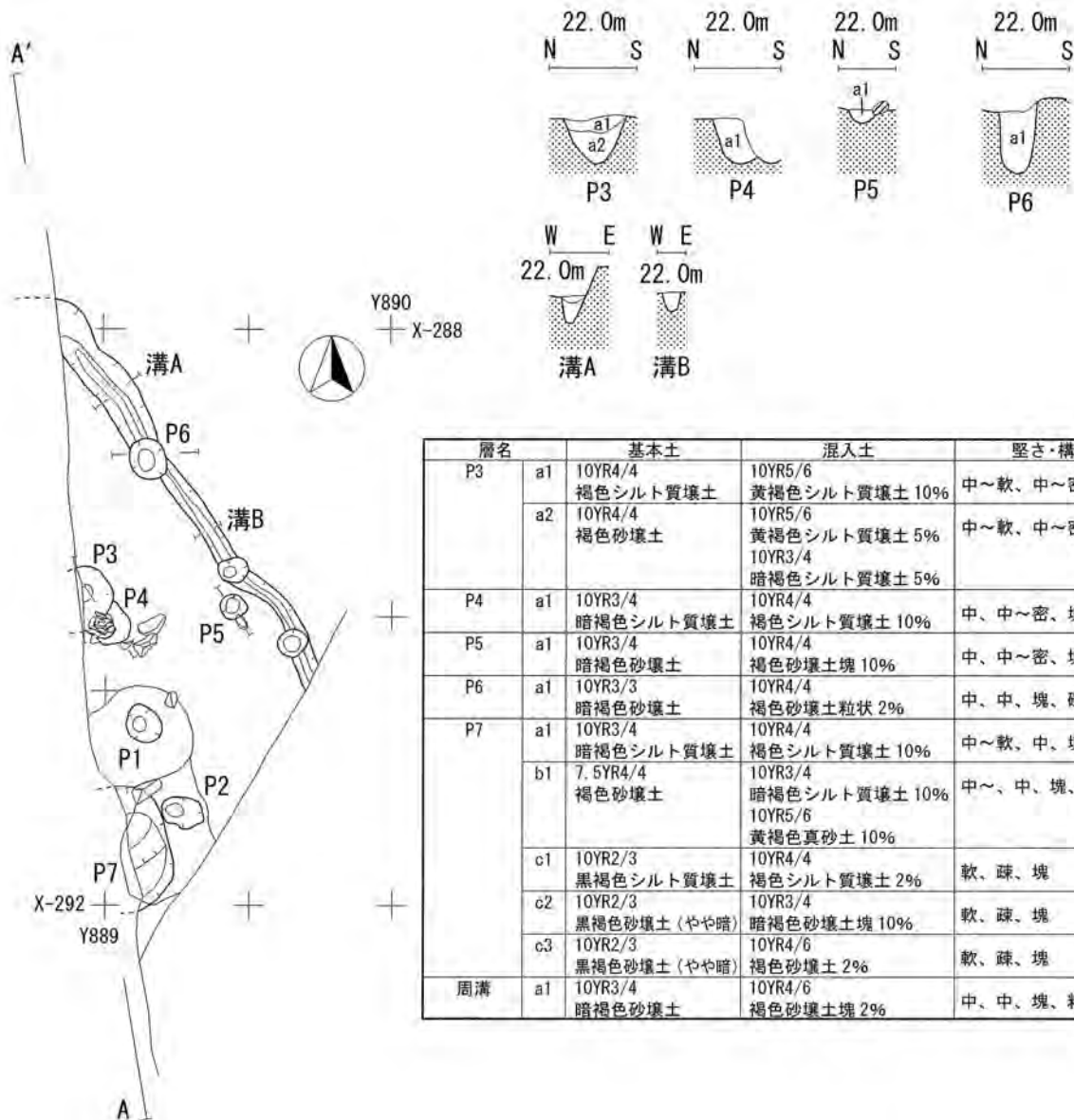
焼土、粘土の広がり (第 67 図)

床面の南に位置する。焼土の平面形は、調査区外まで広がっているため、正確な範囲はつかめないが、検出面では円形をなしている。焼土と境を接して南に粘土が広がっている。焼土は P 1 に、粘土は P 2 にそれぞれ切られている。また、焼土、粘土遺構の下からはやや大型の土坑 (P 7) が出土している。焼土の規模は 70cm × 70cm である。焼土層厚は 10cm を測り、焼土層の上には灰が厚く堆積していた。遺物は土師器、須恵器、砥石などが出土している。

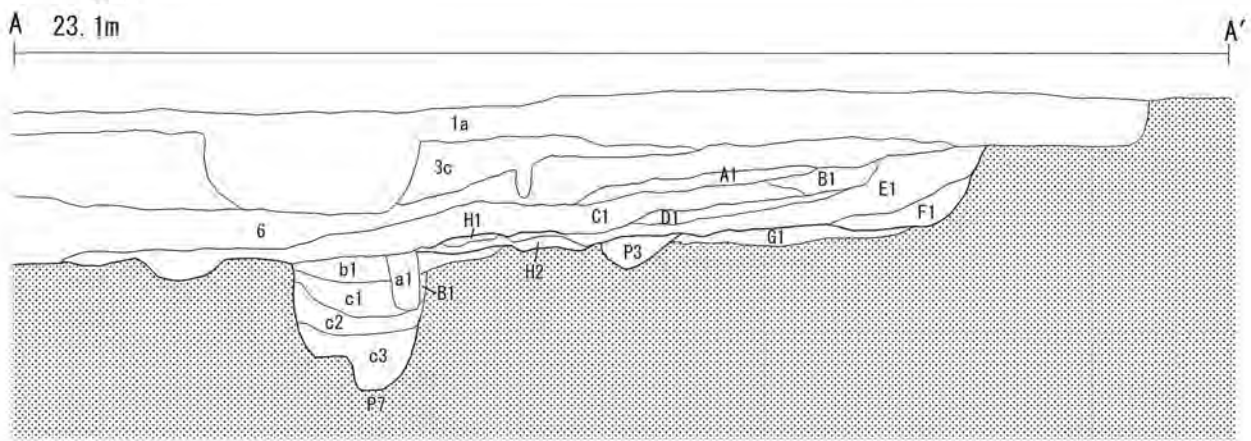
P 7 土坑跡 (第 66 図)

焼土遺構の下から検出した土坑である。平面形は楕円形と思われる。規模は南北 90cm、深さは最深部で 90cm である。遺物は土師器、須恵器、砥石などが出土している。

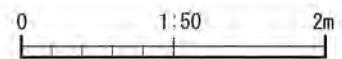
柱穴状小ピットは 5 基検出している。P 4 の南側で一括土器が出土している。



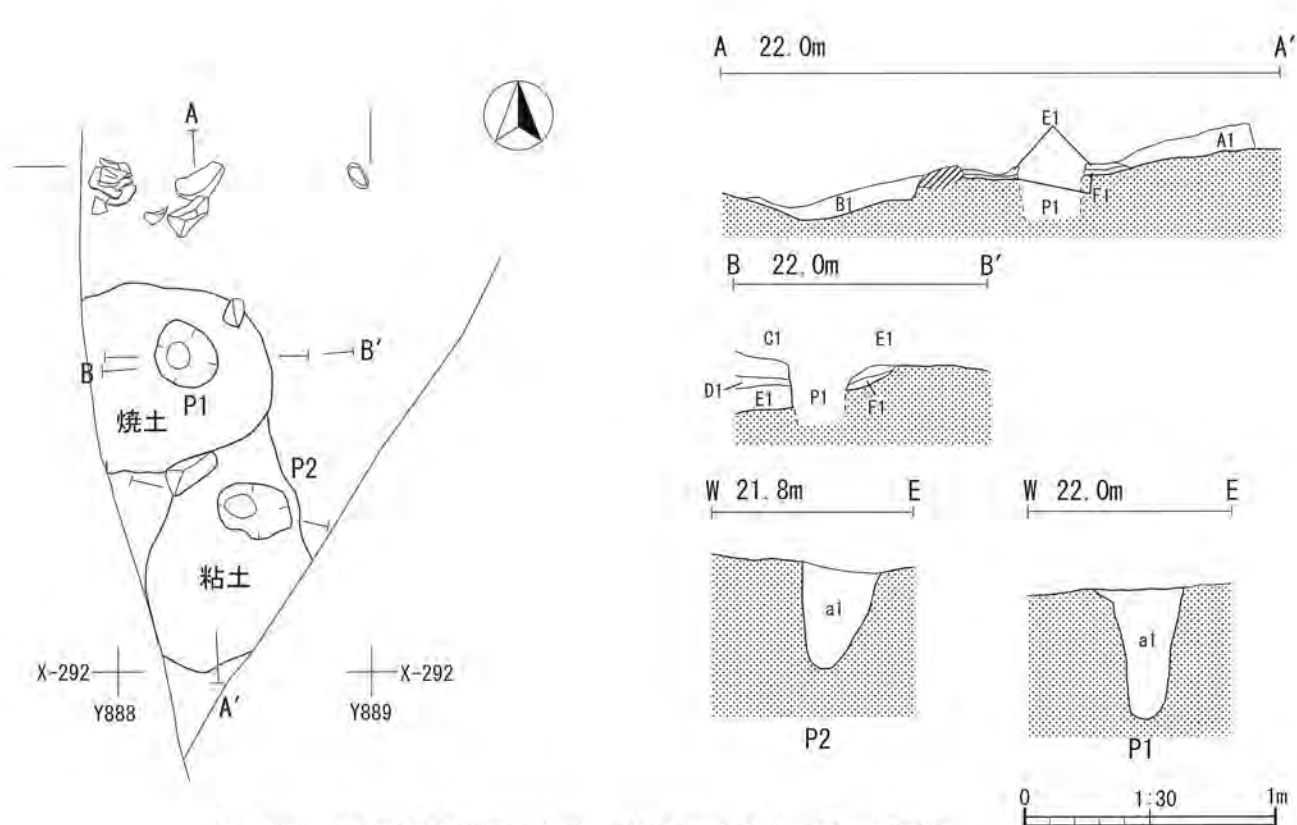
層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
P3	a1 10YR4/4 褐色シルト質壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 10%	中～軟、中～密、塊、焼土粒微
	a2 10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色シルト質壤土 5% 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 5%	中～軟、中～密、塊、焼土粒微
P4	a1 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土 10%	中、中～密、塊
	a1 10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 10%	中、中～密、塊、焼土粒（微）
P5	a1 10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土粒状 2%	中、中、塊、礫少
	a1 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土 10%	中～軟、中、塊、焼土塊
P7	b1 7.5YR4/4 褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色シルト質壤土 10% 10YR5/6 黄褐色真砂土 10%	中～、中、塊、焼土塊、炭
	c1 10YR2/3 黒褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土 2%	軟、疎、塊
	c2 10YR2/3 黒褐色砂壤土（やや暗）	10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 10%	軟、疎、塊
周溝	a1 10YR2/3 黒褐色砂壤土（やや暗）	10YR4/6 褐色砂壤土 2%	軟、疎、塊
	a1 10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土塊 2%	中、中、塊、粘土塊少



第 66 図 20 号 縦穴住居跡 平・断面図



層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
No. 58	A1 10YR4/4 褐色砂土	10YR5/1 褐灰色砂土 1%	中～固、中、塊
	B1 10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR2/3 黒褐色砂壤土塊 10%	中～固、中、塊
	C1 10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 10%	中～固、中～密、塊
	D1 10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 1%	中～固、中、塊
	E1 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土（粘りあり）	10YR4/4 褐色砂壤土塊 10%	中、中、塊
	F1 10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 10%	中～固、中、塊
	G1 貼床 10YR4/4 褐色砂壤土	10YR5/6 黄褐色砂壤土塊 10%	中～固、密、塊
	H1 10YR4/4 褐色砂壤土	7.5YR4/6 褐色砂壤土塊 10%	中～軟、中、塊
	H2 10YR3/4 暗褐色シルト質壤土	10YR4/4 褐色シルト質壤土塊 10%	軟、中、塊、焼土、粘土



第 67 図 20 号竪穴住居跡焼土、粘土の広がり 平・断面図

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
焼土 粘土	A1	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 2% 中、中～密、塊
	B1	10YR5/6 黄褐色シルト質埴土	7. 5YR5/4 にぶい褐色シルト質埴土 10% 10YR3/4 暗褐色砂壤土 5% 中～軟、密、塊、焼土、焼土多
	C1	7. 5YR4/4 褐色シルト質埴土	5YR4/6 赤褐色シルト質埴土 15% 中～軟、密、塊
	D1	10YR6/3 にぶい黄橙色砂壤土	10YR7/1 灰白色砂壤土 2% 中～軟、密、塊、焼土
	E1	10YR6/3 にぶい黄橙色砂壤土	10YR7/1 灰白色砂壤土 2% 中～軟、密、塊、焼土
P1	a1	2. 5YR4/6 赤褐色シルト質埴土 10YR3/3 暗褐色シルト質埴土	2. 5YR4/8 赤褐色シルト質埴土 10% 10YR4/4 シルト質埴土 2% 軟、密、塊
P2	a1	10YR2/3 黒褐色シルト質埴土 10YR3/4 暗褐色シルト質埴土 10%	10YR3/4 暗褐色シルト質埴土 10% 中～軟、中～密、塊

出土遺物 (第 68 図)

1 はアカヤキ土器の坏である。底面は回転糸切りで、無調整である。

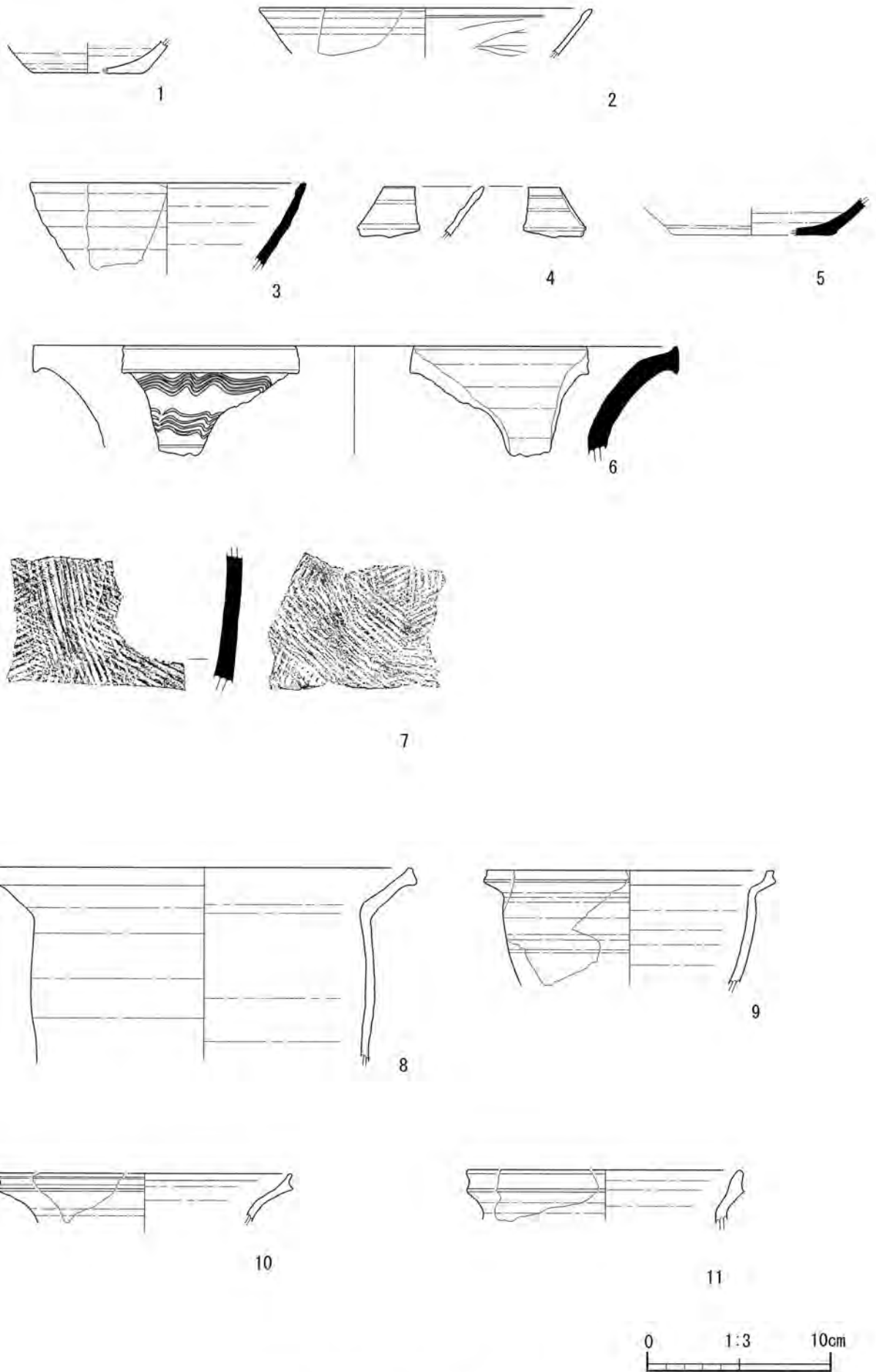
2 はロクロを使用した内黒の坏である。器厚は薄く、直線的に立ち上がる。内面にケズリ調整痕を残す。

3～7 は須恵器である。3～5 は坏である。3 はやや内湾しながら立ち上がる。4 は直線的に立ち上がる口縁部である。5 の体部はやや内湾しながら立ち上がり、底部は回転糸切りである。6 は 12 の一括土器と一緒に出土した広口壺の口縁部である。強く外反し、口唇部は上下に短く張出す。頸部に櫛描きで「波文」を施す。7 は体部片で、両面にタタキメを施している。

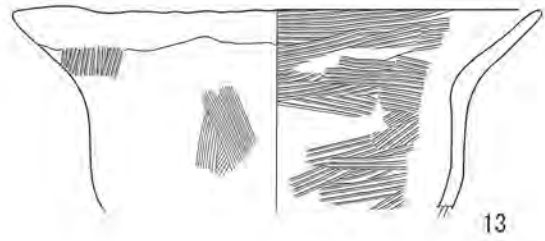
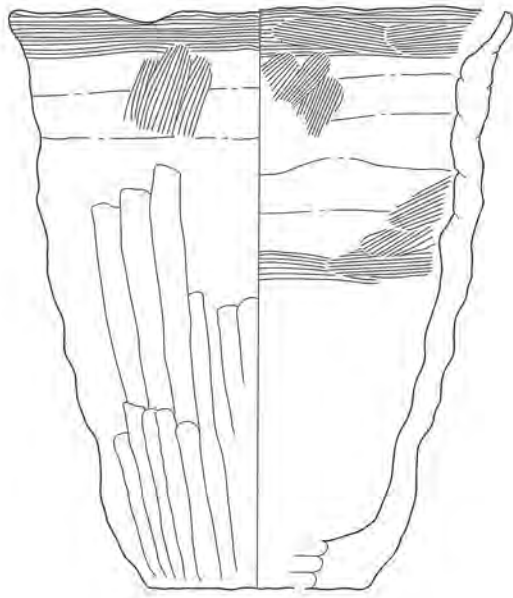
8～14 は土師器である。8～11 はロクロ成形の甕である。8 は体部がほぼ直に立ち上がり、口縁部はやや長めで、強く外反し、口唇部は上下に短く張出す。9 は体部はやや外反しながら立ち上がり、口縁部は強く外反し、口唇部は凹み、上に短く張出す。10 は短い口縁部で、口唇部は上に短く張出す。11 の口縁部はやや長めで、強く外反し、口唇部は凹み、上に短く張出す。12 は一括土器である。体部はわずかに膨らんで立ち上がり、口縁部はわずかに外反し細くなる。外面、底面にケズリ調整痕を残す。13 の体部は丸みを持ち、口縁部は長く、強く外反する。14 の口縁部は短く、外反する。

15、16 は砥石である。

20 号竪穴住居跡の年代は、切合い、出土遺物から平安時代に伴う。



第 68 图 20 号竖穴住居跡出土遺物(1)



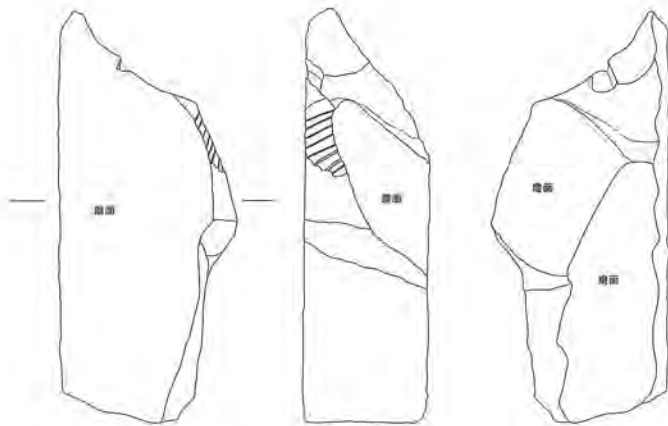
13



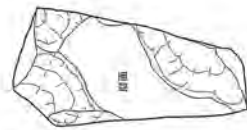
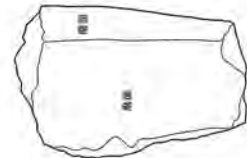
14



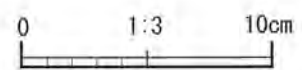
12



15



16

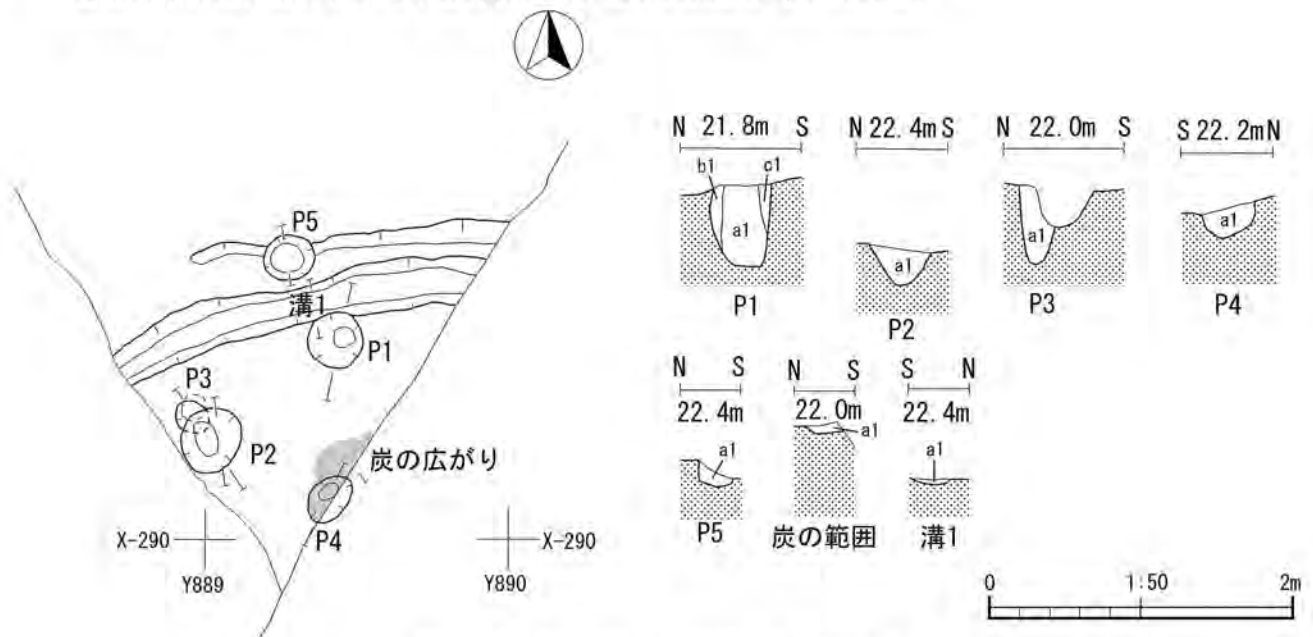


第 69 図 20 号 豎穴住居跡出土遺物(2)

21号竪穴住居跡（第70図）

58号住居跡の東側に位置する。検出面は地山層である。11号住居跡と20号住居跡に切られる。11号住居跡の床面から出土した北壁、周溝と柱穴状ピット群である。埋土層は確認していない。北側の壁は11号住居跡の壁と平行して延びて、20号住居跡の手前で切れている。壁高は約10cmである。周溝は壁に平行して延び、20号住居跡に切られている。柱穴状のピットは6基出土している。P6は規模が大きく、当りをもつ。南側で炭の広がりを検出し、その下からP3、P4が出土している。遺物は出土していない。

遺構の年代は、切合いから平安時代あるいはそれ以前が考えられる。



第70図 21号竪穴住居跡 平・断面図

層名		基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
P1	a1	10YR3/2 黒褐色壤土	10YR5/6 黄褐色壤土 粉状 8%	ややしまる 少ない 砂粒 礫 (3~8)
	b1	10YR3/3 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色壤土 粉状 5%	ややしまる 少ない 砂粒 礫 (3~8)
	c1	10YR3/3 暗褐色壤土	10YR5/6 黄褐色壤土 粉状 5%	ややしまる 少ない 砂粒 礫 (3~8)
P2	a1	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR4/6 褐色砂壤土塊 20%	中~軟、中、塊
P3	a1	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色粉状 10%	中~軟、中、塊
P4	a1	10YR3/2 黒褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 2%	軟、中、塊
P5	a1	10YR3/4 暗褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土塊 2%	中~軟、中、塊
周溝	a1	10YR3/4 暗褐色砂土	10YR4/6 褐色砂土 5%	軟、疎、塊
炭の広がり	a1	10YR3/3 暗褐色砂壤土	10YR2/1 黒色砂壤土 15%	軟、中~密、塊、炭、焼土塊

22号土坑跡（第71図）

調査区の東壁中央に位置する。検出面は7層である。17号住居跡と23号土坑跡を切る。平面形は円形である。規模は径1.3m、深さは検出面から50cmである。多量の礫で埋められていた。遺物は出土していない。

遺構の年代は検出状況から中世から近世まで考えられる。

23号土坑跡（第71図）

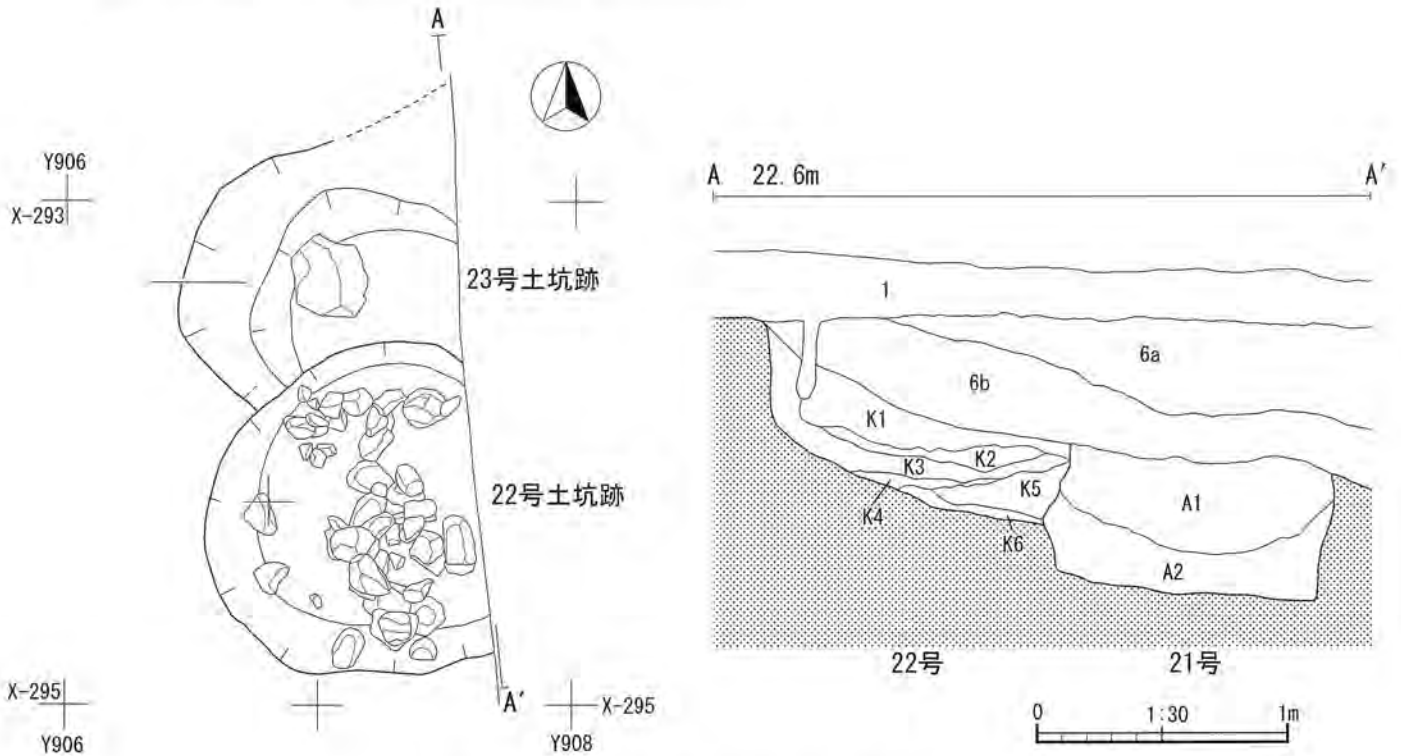
22号土坑跡の北側に位置する。22号土坑跡に切られる。検出面は7層である。平面形は検出範囲では円形を呈している。断面は、焼土、炭、真砂土、炭、灰という堆積状況である。炉として使用していたと思われる堆積状況である。検出した規模は1m×1m、深さは検出面から35cmである。遺物はk1、k3層から出土している。

出土遺物（第72図）

1は土師器である。甕の短い口縁部で、強く外反して立ち上がる。

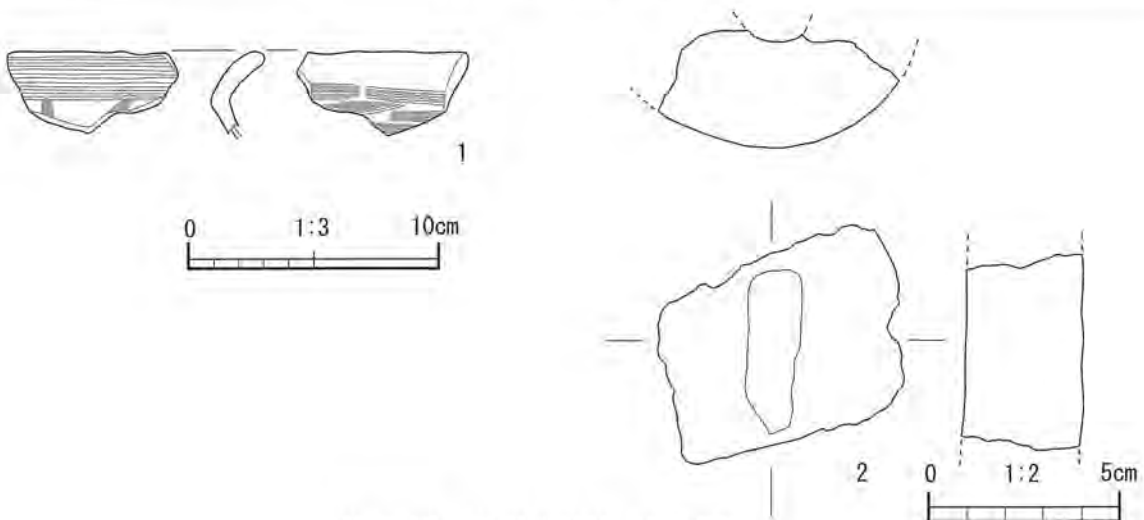
2は土製品である。羽口片である。外面は灰色に焼ける。

23号土坑跡の年代は、出土遺物から平安時代に伴う。



第71図 22、23号土坑跡 平・断面図

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物	
22号土坑跡	6a	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 5% 10YR4/4 褐色砂壤土塊 5%	中～固、中、塊、焼土塊、鉄滓、須恵器
	6b	10YR2/2 黒褐色シルト質壤土	10YR3/4 暗褐色砂壤土塊 10%	中～軟、中密、塊、粘土、焼土、須恵器
23号土坑跡	A1	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 2%	中～軟、中、塊、礫、炭
	A2	10YR2/3 黒褐色砂壤土	10YR5/4 にぶい黄褐色砂壤土 1%	中～軟、中、塊、礫
	K1	7.5YR4/4 褐色砂壤土	10YR4/2 灰黄褐色砂壤土 10%	中～軟、中～密、塊、土師器
	K2	10YR2/2 黒褐色砂壤土	7.5YR4/4 褐色砂壤土塊 3%	中～軟、中～密、塊
	K3	10YR5/4 にぶい黄褐色真砂土	10YR4/4 褐色砂土塊 10%	中～軟、中、塊
	K4	10YR2/2 黒褐色砂壤土	7.5YR4/4 褐色砂壤土塊 3%	中～軟、中～密、塊
	K5	10YR5/4 にぶい黄褐色真砂土	10YR4/4 褐色砂土塊 10%	中～軟、中、塊
	K6	5YR3/2 暗赤褐色砂壤土	5YR5/3 にぶい赤褐色灰砂壤土 10% 5YR3/3 暗赤褐色層状 10%	軟、密、塊



第72図 23号土坑跡 出土遺物

24号土坑跡（第73図）

調査区の南東部に位置する。検出面は黒色土8層である。切り合い関係はない。平面形は円形である。規模は径1.5m、深さ60cmである。埋土は4層に分かれ、3層が底部に形成された貝層である。

出土遺物（第74図）

遺物は土師器のみである。1は内黒の坏である。体部は内湾しながら立ち上がり、底部にはケズリ調整痕を残す。

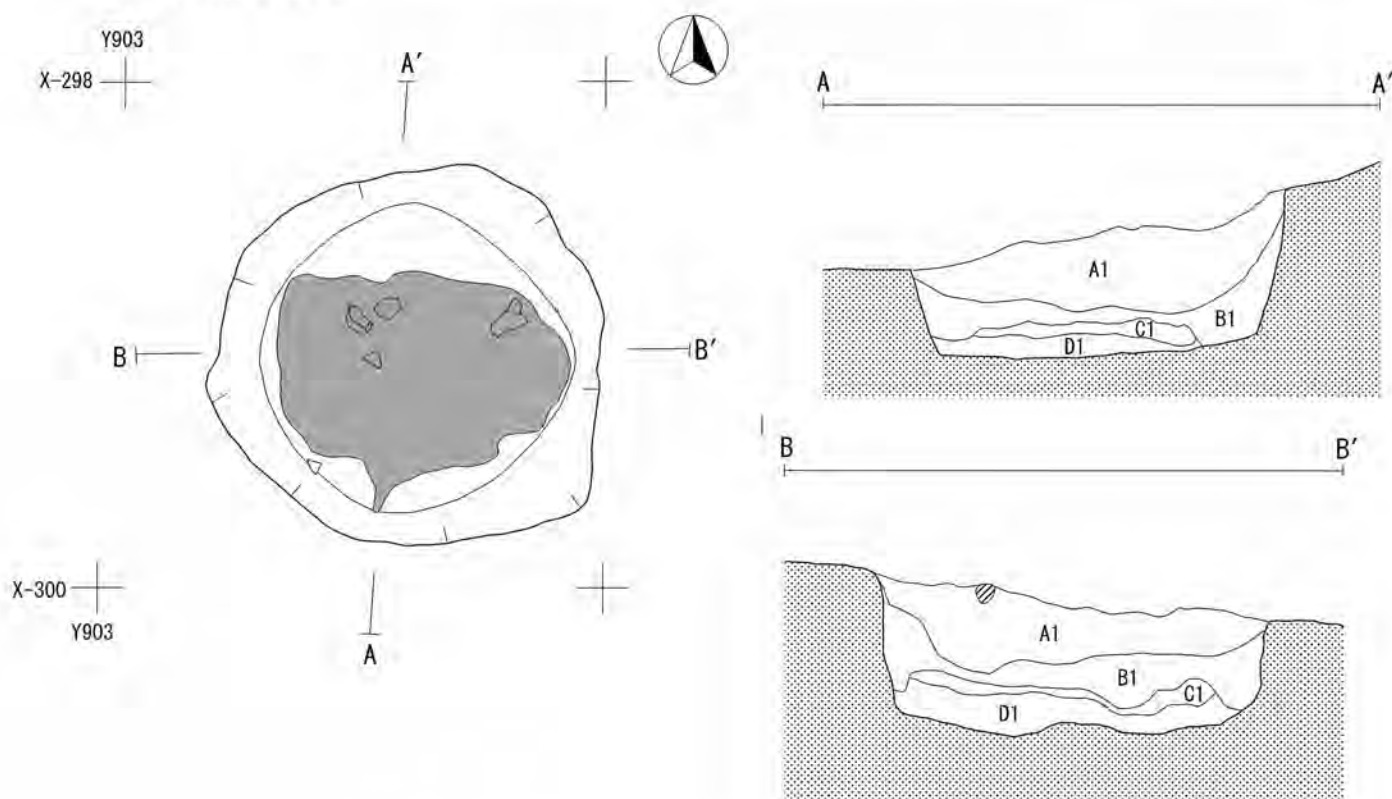
2～6は甕である。2は体部がわずかに膨らみ、短い口縁部は外反する。3は内外面にタタキメをもつ体部片である。4、5はロクロ成形の張出しを持たない底部である。底面はいずれもケズリ調整を施される。6の底部は、小さな張り出しを持ち、底面に木葉痕を残す。

遺構の年代は、出土遺物から平安時代に伴う。

貝層について

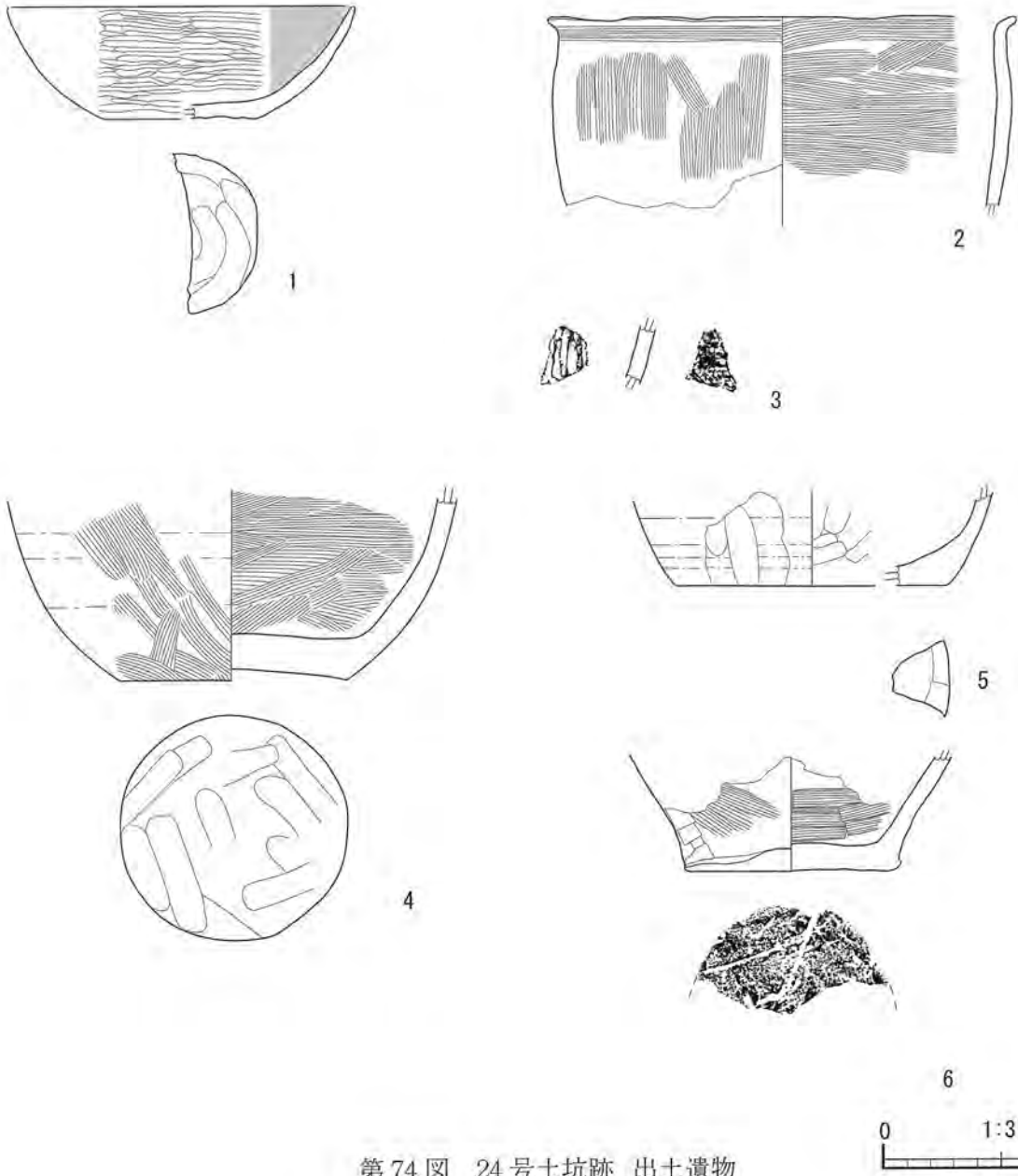
C1層からは貝類のほか魚類も検出している。貝類はイガイを主体にして、そのほかチシマフジツボ、タマキビガイなどが含まれている。魚類はフサカサゴ科が比較的に多く、そのほかカツオ、スズキ、アイナメ、マダイなども含まれている。

今回同定作業が間に合わず、おおまかな確認しかできなかったが、いずれ詳細については集計表の形で報告したい。



第73図 24号土坑跡 平・断面図

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物	
24号土坑跡	A1	10YR3/1 黒褐色土壌土	10YR3/4 暗褐色壤土 粉性3%	やや軟、やや多 炭化物 細
	B1	10YR2/1 黒色埴壤土	10YR3/3 暗褐色壤土 粉状2%	軟 多
	C1	10YR3/2 黒褐色埴壤土	10YR6/6 明黄褐色埴壤土 塊状5%	軟 多 貝 土師 土
	D1 (貝層の下の層)	10YR3/1 黒褐色埴壤土	10YR4/4 褐色砂壤土 粉状3% 10YR6/6 明黄褐色 シルト質埴壤土 5% 粉	やや軟 多 炭化物 中程度 ややあり 粗砂粒

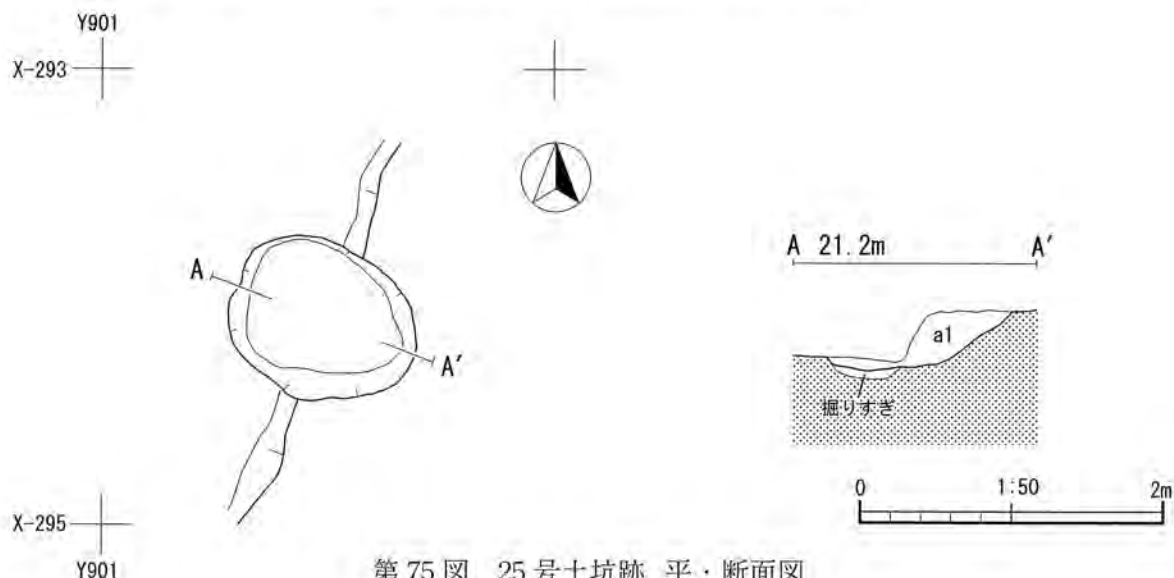


第74图 24号土坑迹 出土遗物

25号土坑跡（第75図）

16号竪穴住居跡の東壁の中央に位置する。16号住居跡に切られる。平面形は楕円形である。規模は1.2m×1.0m、深さ40cmである。埋土は1層である。遺物は出土していない。

遺構の年代は、切合いから平安時代あるいはそれ以前が考えられる。



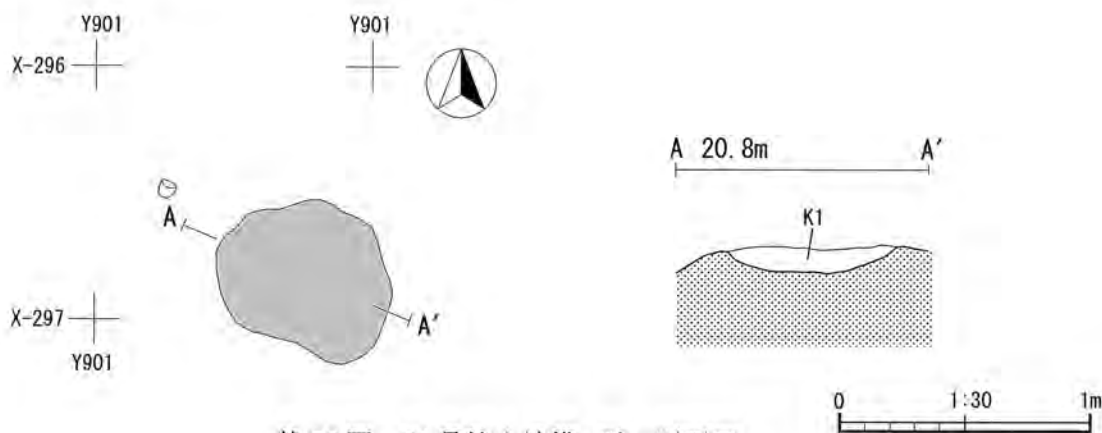
第75図 25号土坑跡 平・断面図

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
25号土坑跡 a1	10YR3/4 暗褐色砂土	10YR4/3 にぶい黄褐色砂壤土塊 3%	中～固、中、塊

26号焼土遺構（76図）

17号竪穴住居跡の南東隅に位置する。検出面は8層である。平面形は不整楕円形である。規模は70cm×50cmで、焼土層厚は10cmである。焼土は一様に明赤褐色に焼けていて、炉としてとくに整地した跡も見られない。二次的な堆積と思われる。遺物は出土していない。遺構の年代は、検出面から平安時代に伴う。

同様に二次堆積と思われる焼土塊が7層には多量に含まれている。



第76図 26号焼土遺構 平・断面図

層名	基本土	混入土	堅さ・構造・混入物
26号焼土遺構 K1	5YR4/8 赤褐色砂壤土	5YR4/4 にぶい赤褐色層状 10%	中～軟、中、塊

遺構外出土遺物（第77図～第83図）

1～6は盛土層3層、5層から出土した遺物である。

1は染付磁器の皿である。外面に雷文、内面に墨弾きで流水文を施す。産地、年代は不明である。

2は施釉陶器の皿である。黄瀬戸釉の上に鉄釉で雲文を施す。瀬戸美濃産、17世紀に伴うものと思われる。3～5は鉄製品である。3は鉄斧である。鋤先のように使用したものか。4、5は丸い棒状の製品である。6は土製品である。鋳型で鉄瓶の注ぎ口である。

7～65は、主に南西部に堆積する7層から出土したものである。

7～24は内黒の坏である。7～19は口縁部である。内湾するもの（7～10、13）、直線的に立ち上がるもの（11、12、14、17）、口縁部が外反するもの（15、18）などに分かれる。底部はケズリ調整されたもの（21）、回転糸切痕を残すもの（20、22～24）に分かれる。

25から29は須恵器の坏である。25から28はほぼ直線的に立ち上がり、29は口縁部が外反する。

30～33はアカヤキの坏である。口縁部は内湾して立ち上がる。

34～40は須恵器である。34は直に立ち上がる甕の口縁部である。35は壺の頸部である。36、37は広口甕の肩部である。38～40は高台をもつ底部である。

42～65は土師器である。42～62はロクロ成形の口縁部である。大きく外反させ、口唇部を上下に張り出させたもの（42～47）、短く外反させたもの（48～61）に大別できる。63は内外面にタタキメを持つ胴部片である。64、65は口縁部を短く外反させる。

66～96は8層出土の遺物である。主に北東部から出土している。

66～72は内黒の坏である。66～68はわずかに内湾しながら立ち上がり、69は直線的に立ち上がる。70～72の底部は回転糸切痕を残す。

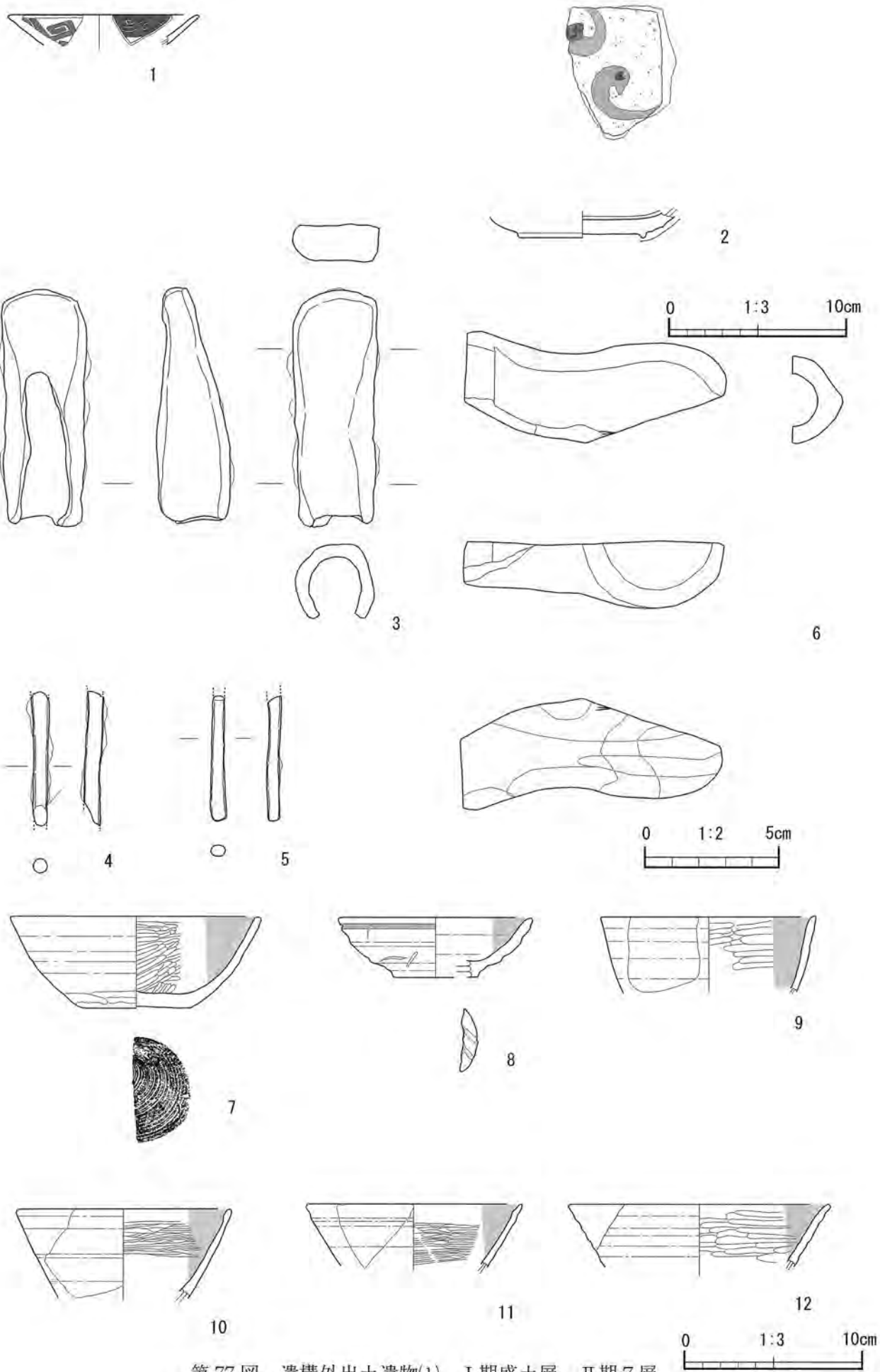
73～86は須恵器である。

73～77は坏である。73、74は内湾しながら立ち上がり、口縁部でわずかに外反する。75～77はアカヤキの坏で、直線的に立ち上がる。

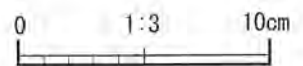
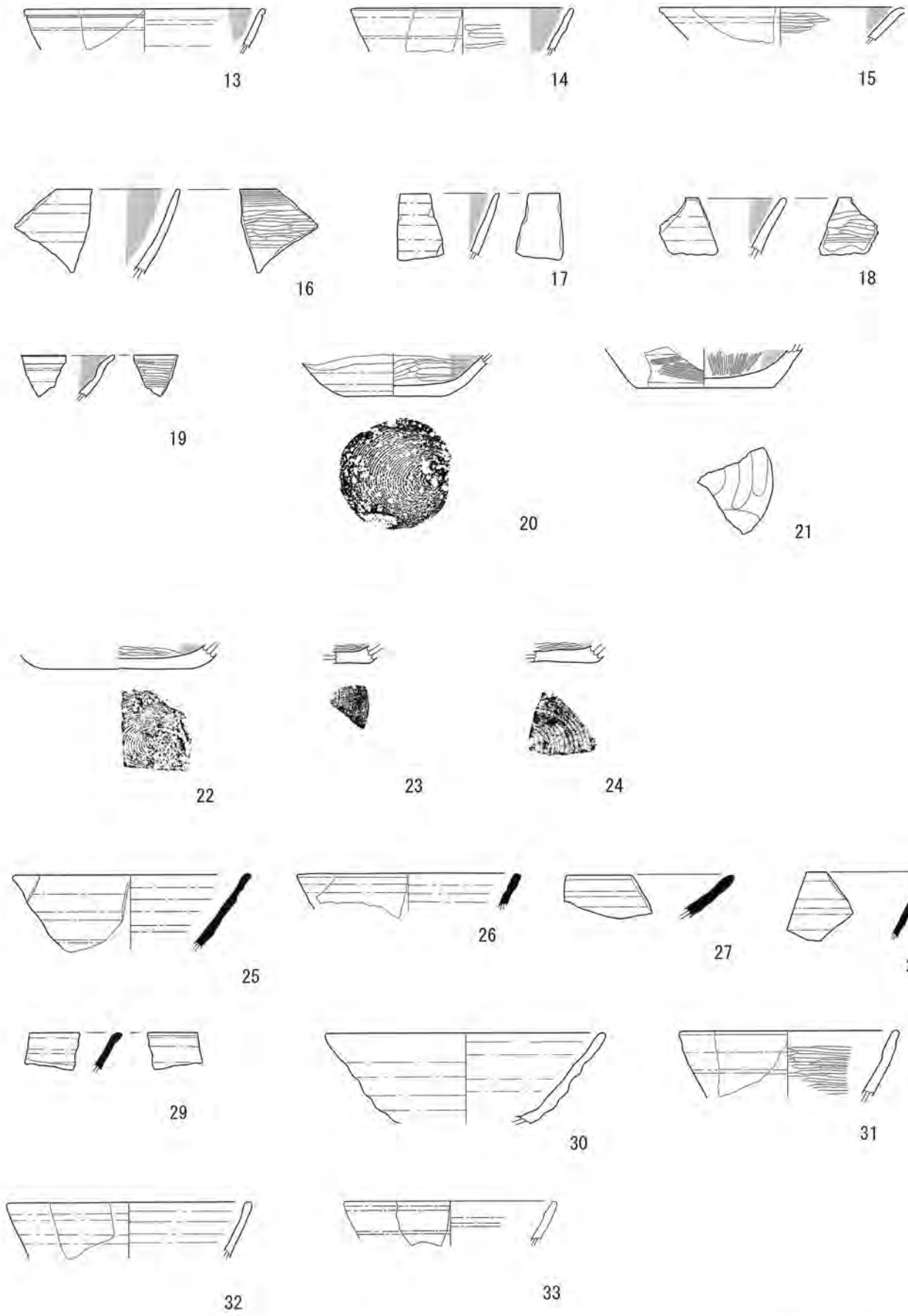
78、79は甕の口縁部である。80、81は壺の肩部である。82は壺の胴部である。86、87は底部である。86は張り出しを持たず、87は張り出しを持つ。

87～96は土師器の甕である。

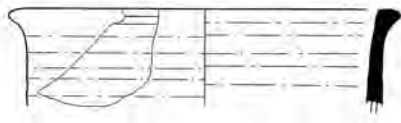
87～90はロクロ成形の口縁部である。87、88は口縁部を外反させ、口唇部を上下、あるいは上に張り出しを持たせる。他は短い口縁部を外反させる。96の底部は張り出しを持たず、底面はケズリ調整を施す。



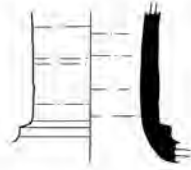
第 77 図 遺構外出土遺物(1) I 期盛土層、II 期 7 層



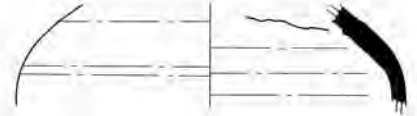
第 78 図 遺構外出土遺物(2) 7 層



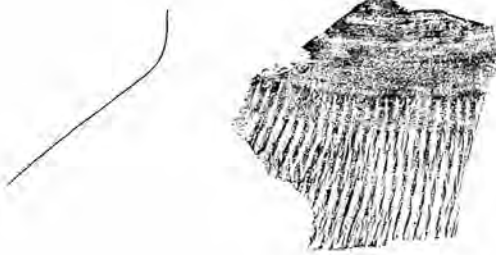
34



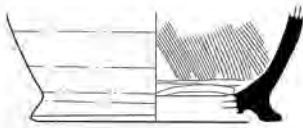
35



36



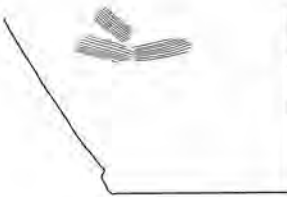
37



38



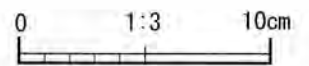
39



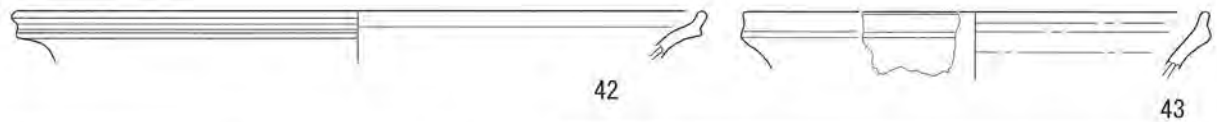
40



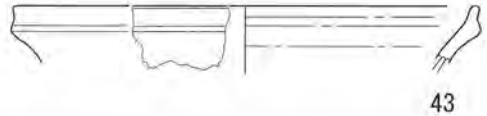
41



第 79 図 遺構外出土遺物(3) 7 層



42



43



44



45



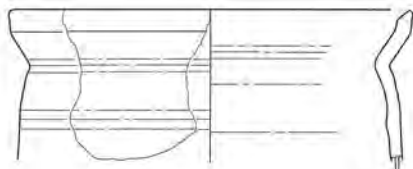
46



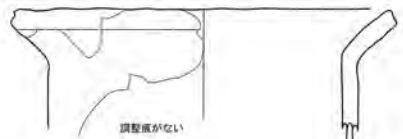
47



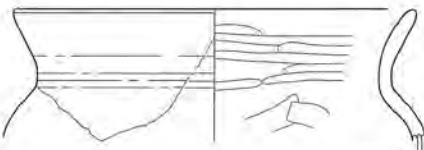
48



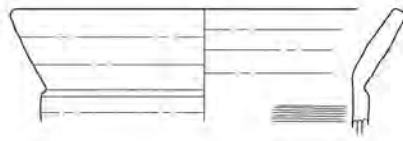
49



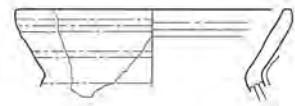
50



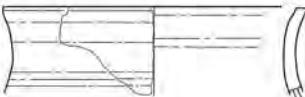
51



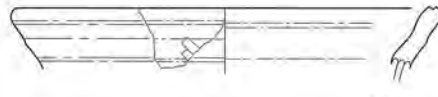
52



53



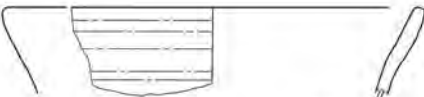
54



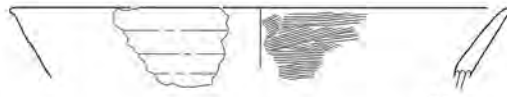
55



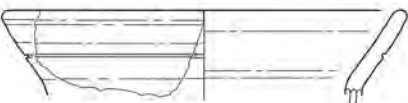
56



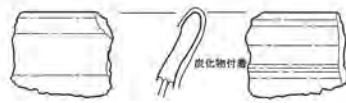
57



58



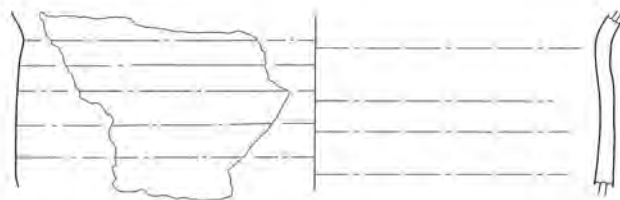
59



60



61

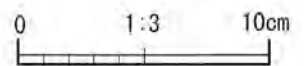


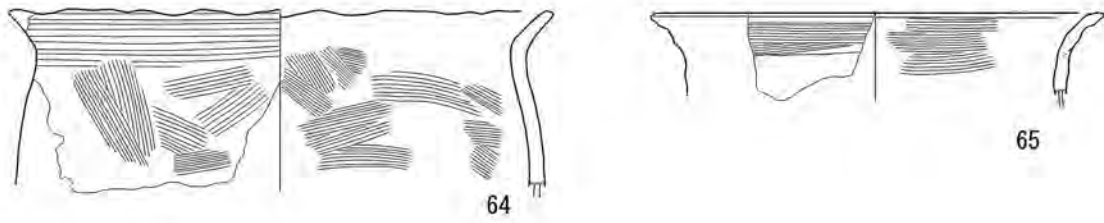
62



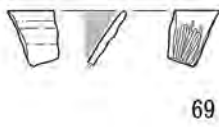
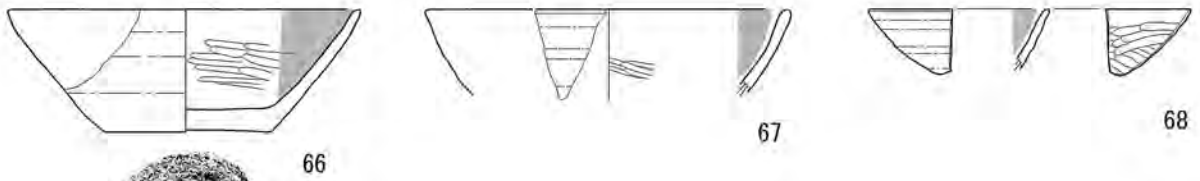
63

第80図 遺構外出土遺物(4) 7層





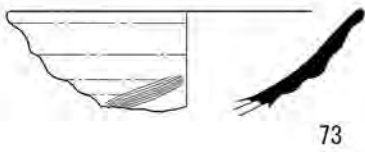
8層出土遺物



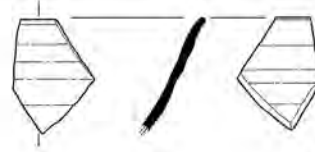
71



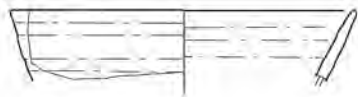
72



73



74



75



76



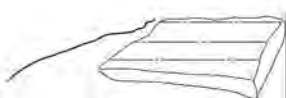
77



78



79

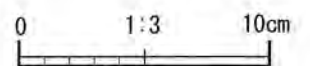


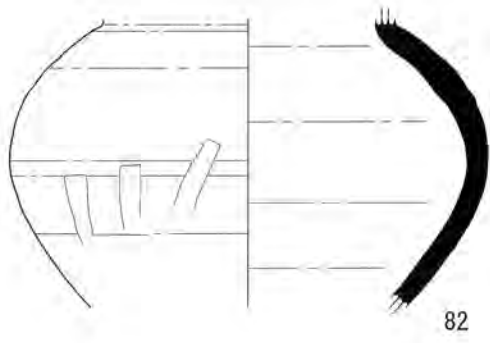
80



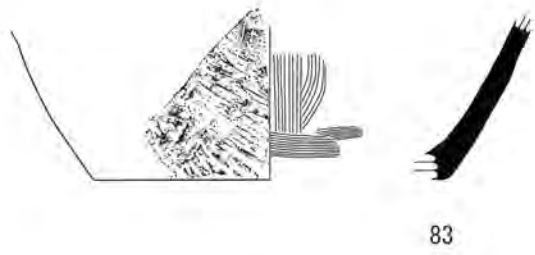
81

第 81 図 遺構外出土遺物(5) 8層





82



83



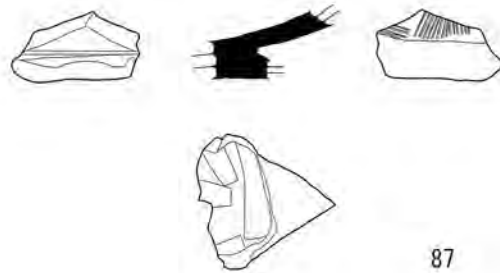
84



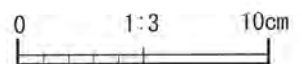
85



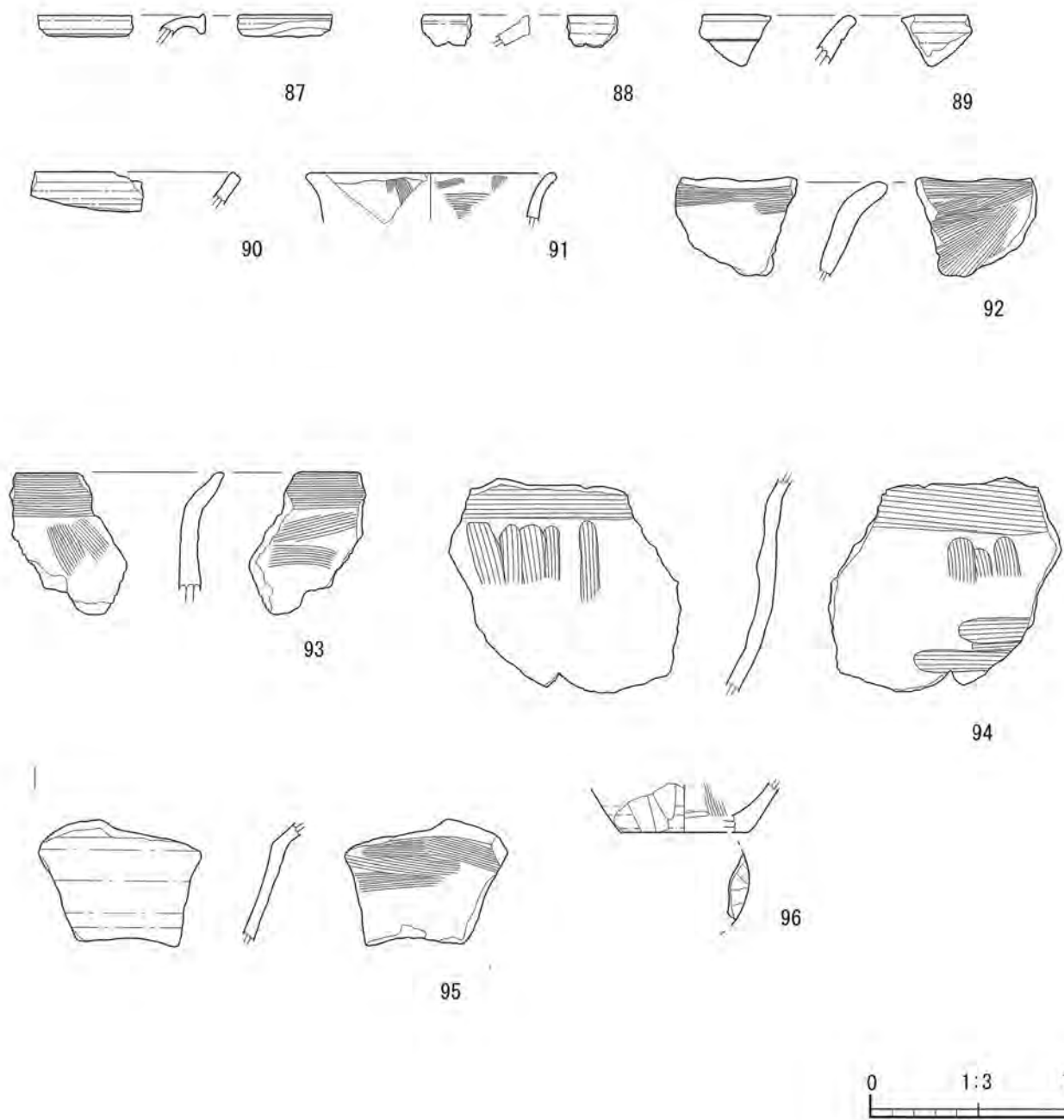
86



87



第 82 図 遺構外出土遺物(6) 8 層



第 83 図 遺構外出土遺物(7) 8 層

3 調査のまとめ

I期遺構群について

平成3年の1次調査は今回の調査区の西側で行われ、平坦部では鋳物生産関連の施設と背後の尾根で墓所が出土していた。今回の調査区は、平坦地の続き北側と東側に石垣が組まれており、建物跡などを想定して調査にあたった。

遺構群は2時期に分けられる。南西部の谷を埋めた盛土を掘り込み面とする1号溝、土坑跡と谷が盛土で埋め立てられる前の2号、3号遺構群と4号遺構群である。2、3号遺構群は遺構、遺物などから製鉄関連の遺構と思われる。4号遺構も遺構、遺物などからやはり製鉄関連の遺構であり、位置的にみても、1号遺構に切られる以前は両者は一つの遺構であったと思われる。その状況を第一次調査の結果と併せて図示してみたのが挿図1である。西側の平坦地に鋳込用の製鉄炉、その南斜面に鋳込みに使用されたとされる石組み円筒形枠が出土していた。平坦面は4号遺構群の黒色の硬化面に続き、3号遺構群の炉跡に至る。3号e炉跡を、構造が類似していることから炉跡として報告したが、鉄滓などの出土量も少なく、鋳込みの型枠として使用された可能性も高い。3号e炉跡の北側で出土した粘土で構築した土坑跡も鋳物関連の施設と思われるが、具体的な使用法は不明である。詳しい工程の解明などが課題として残されている。

1号溝、土坑跡は溜池のような施設と思われるが、遺物から推してこの溝を築いた頃にはこの場所では製鉄関連の操業していなかったものと思われる。

東側の3基の方形土坑跡（5号～7号）は、切り合い、出土遺物から5号、6号土坑跡は1号遺構に、7号は2号遺構群に伴うものと考えられる。土坑跡についても当初鋳物関連の施設を想定して調査にあたったが、遺構に焼けた跡もなければ製鉄関連の遺物も出土していない。「穴蔵」のような施設と推定する。



挿図1 平成3年度 調査区

結果的には当初想定していた建物跡は検出できなかった。しかし、南西部の遺構群と石垣の間には不自然な広い「空白域」があり、何もなかったとは考えにくい。礎石を使った建物（写真1）などが考えられる。

Ⅱ期 古代の遺構群

遺構の年代について

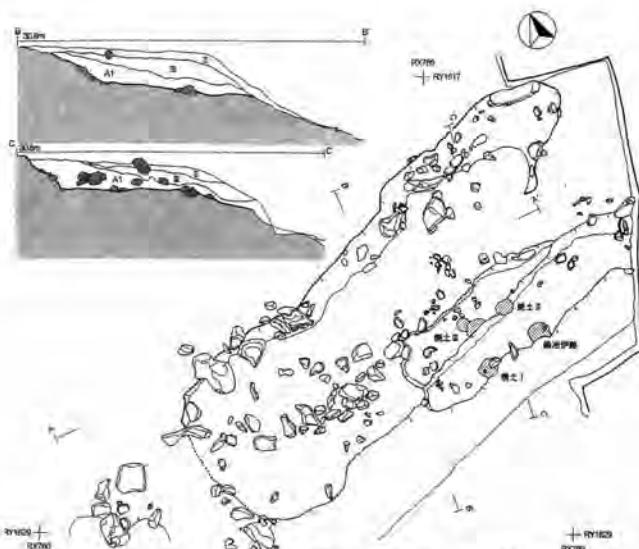
代表的な竪穴住居跡（16号、20号）、土坑跡（24号）の出土土器は、内黒の坏、須恵器の坏、アカヤキの坏、ロクロ成形の甕、口縁部の短い甕、須恵器の瓶などが共通している。これらのセットは「岩手の土器」でⅢ-2群に分類された土器群に該当し、9世紀末から10世紀台に伴う。これは「近内館山」（2007）や「磯鶏館山」（1995）のⅢ群に相当するものと思われる。

竪穴住居の形状について

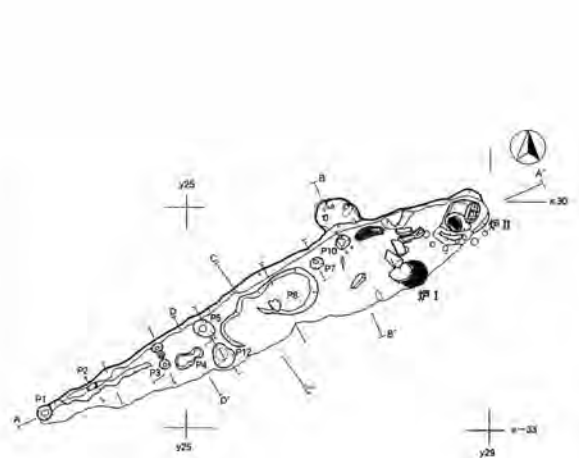
今回出土した竪穴住居跡の中では、傾斜地に等高線方向に長く掘り込まれているもの（11号、12号、13号）、竪穴の規模が大きく、床面に炉跡を伴う大型の土坑が掘り込まれているもの（16号）などが特徴的である。

横長の竪穴跡は市内では木戸井内Ⅳ遺跡、赤前Ⅳ遺跡の調査例などがあげられる（挿図2、3）。これらに共通していることは、鍛冶炉を伴うなど工房的な性格を持ち、一般的な住居跡とは異なる使われ方をしていることである。16号竪穴住居跡床面の土坑跡16号cは、床面の中央に石を据え、北西の壁と南東の竪穴床面に炉跡という配置である。炉跡からハンマースケールも出土しているため鍛冶炉と断定できないが、配置だけみるなら鍛冶工房とみえる。これまでの出土例ではカマドの傍らに小規模な炉という配置と異なり、火床を足元より高い位置に据えるという近、現代の鍛冶炉を思わせるような施設である。16号e炉跡は鋤先の完形品を伴い、土坑跡16号bの最上層と西隣りの18号竪穴住居跡の埋土から角棒状の鉄製品が出土している。これらは製品というよりは製品を作るための「材」ではないかと思われる。さらに遺物包含層7層に含まれる焼土の多さもかなり目立っている。これらの事例などから竪穴住居跡の工房的な性格が読み取れるように思われる。

一次調査では背後の尾根の江戸時代の墓所から墓碑が出土している（拓影1）。墓碑には「鉄山良



挿図2 赤前Ⅳ八枚田遺跡



挿図3 木戸井内Ⅳ遺跡

鑄信士」の文字が刻まれている。北東の「山口館跡」では夥しい数の鍛冶炉が出土し、北の「拝殿峠遺跡」では中世の製鉄炉跡が見つまっている（資料整理中）。また今回の調査区の背後の山には多量の鉄滓が分布している。これらの調査例などから、古代から中世に続き、近世の「鉄山」に至る「職業的」になっていく流れを辿れるのではないかと考える。これは今のところ想像でしかないが、大変に興味深いテーマと思われる。

調査のまとめ

<参考文献>

- 宮古市教育委員会 1992「黒森町Ⅰ遺跡」
- 〃 1999「赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡」
- 〃 2006「木戸井内Ⅳ遺跡」
- 岩手県文化財振興事業団埋蔵文化財センター 第485集「山口館跡発掘調査報告書」
- 岩手県立博物館 1982「岩手の土器」



写真1 国登録文化財 盛合家（宮古市津軽石）



拓影1 黒森町Ⅰ遺跡

写真図版



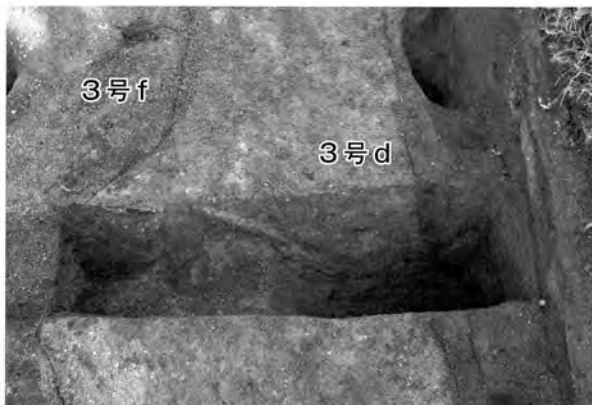
1 I期調査区全景（東から）



2 1号溝、土坑跡（東から）



3 3号遺構群検出状況



4 3号d炉跡、3号f焼土土層断面



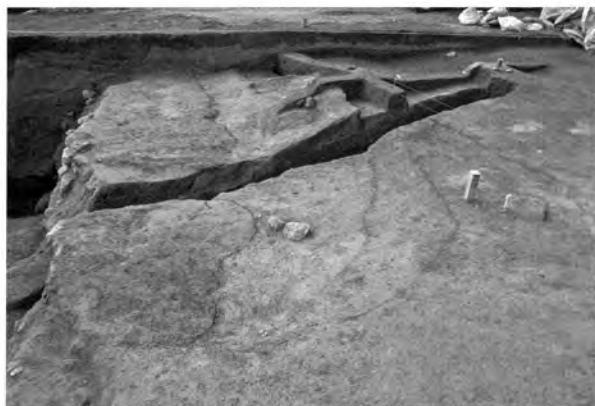
5 3号d、e炉跡土層断面



6 3号c土坑跡断面



7 2号西斜面堆積状況



8 4号遺構群全景（東から）



9 8号鍛冶炉跡土層断面



10 6号土坑跡完掘状況



11 5号土坑跡完掘状況



12 II期調査区全景

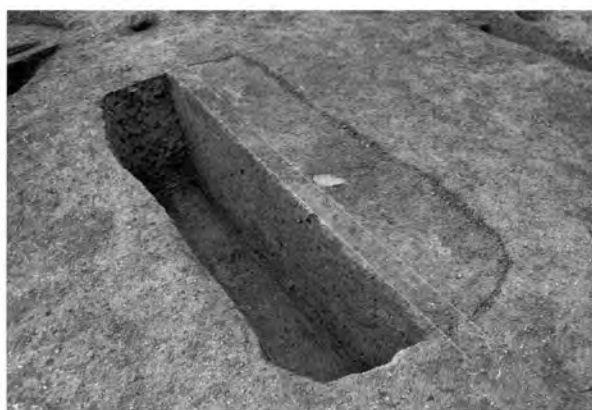
写真図版 4



13 16号竪穴住居跡全景（東から）



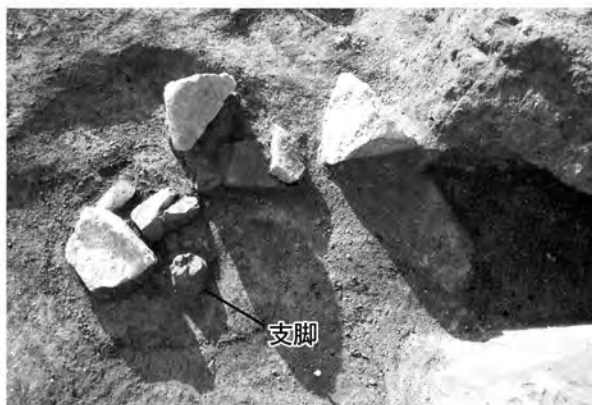
14 16号c土坑跡、15号e炉跡検出状況



15 16号b2土坑跡土層断面



16 16号e炉跡検出状況



17 16号竪穴住居跡カマド



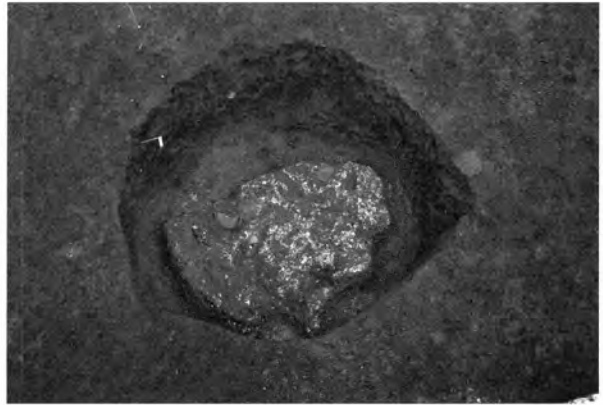
18 19号竖穴住居カマド検出状況



19 19号竖穴住居跡鹿角出土状況（カマドの東側）



20 22号、23号土坑跡検出状況



21 24号土坑跡貝層出土状況



22 調査区西壁面土層堆積状況



8-1



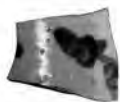
8-2



15-1



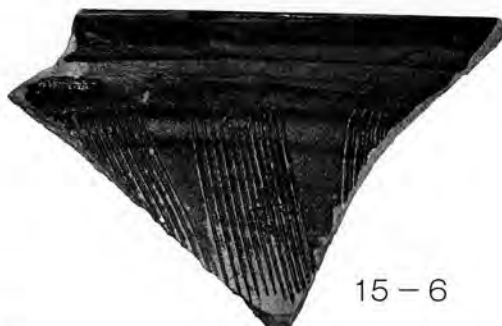
15-3



15-2



15-4



15-6



77-1



77-2



77-3



9-14



23-96



22-95



25-17



16-7



16-12



16-13



16-14



16-15



16-16



16-17



17-21



17-22



17-27



17-28



17-30



17-31



17-32



17-33



17-35



18-37



18-38



18-42



18-47



24-1



24-2



28-3



28-4



74-1



77-7



81-66



77-8



57-3



68-6



40-2



40-1



50-5



68-8



68-9



50-12



69-12



74-2



51-20

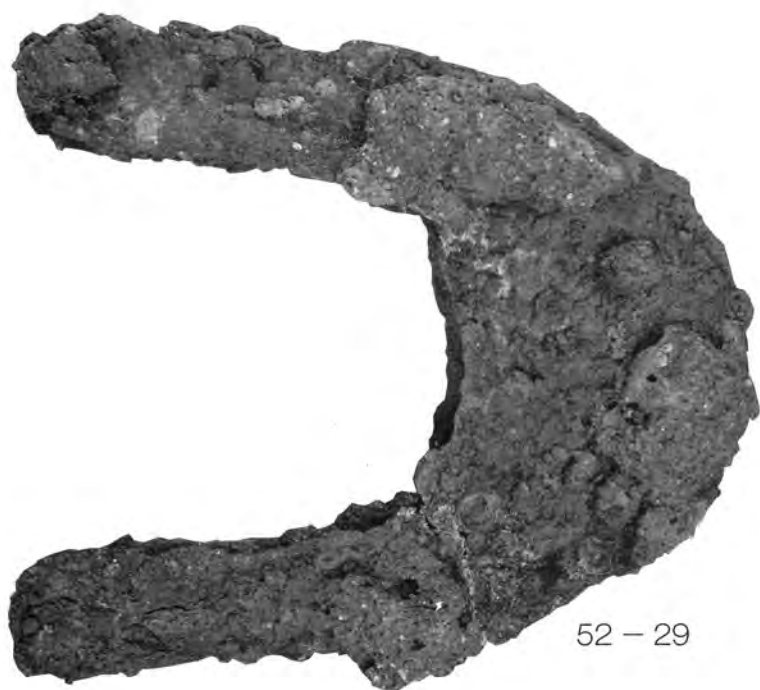




53 - 32



60 - 8



52 - 29



64 - 2



54 - 34



58 - 9



55 - 39



65 - 3

報告書抄録

ふりがな	くろもりちょういちいせき							
書名	黒森町 I 遺跡							
副書名	宗教法人「先天大道一貫道日本總天壇」研修施設建設工事関係発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名	宮古市埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	84							
編著者名	阿部 豊							
編集機関	岩手県宮古市教育委員会							
所在地	〒028-2101 岩手県宮古市茂市第2地割112番地1 TEL.0193-68-9122 FAX.0193-72-2176							
発行年月日	平成 27 年 3 月 6 日 (2015 年)							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査 面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号	。 ” (世界測地系)	。 ” (世界測地系)			
くろもりちょういちいせき 黒森町 I 遺跡	いわてけんみやこし 岩手県宮古市 くろもりちょう 黒森町 73-1	03202	LG23-2362	39°38'59"	141°56'21"	試掘調査 131002 ~ 131023 131111 ~ 140325	440㎡	宗教法人 「先天大 道一貫道 日本總天 壇」研修 施設道場 建設工事 に伴う本 調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		
黒森町 I 遺跡	近世製鉄関連遺構 平安時代の集落跡	江戸時代末期から 明治時代 平安時代		製鉄関連炉跡など 竪穴住居跡、遺物包含層		陶磁器、鉄製品、土製品 土師器、須恵器 鉄製品、土製品		

宮古市埋蔵文化財調査報告書一覧

- 1 1979 『宮古市大付遺跡発掘調査報告書』
- 2 1980 『宮古市千徳遺跡発掘調査概報』
- 3 1983 『宮古市遺跡分布調査報告書 1』
- 4 1984 『宮古市遺跡分布調査報告書 2』
- 5 1984 『赤前遺跡群第 1 次・第 2 次発掘調査報告書』
- 6 1985 『宮古市遺跡分布調査報告書 3』
- 7 1985 『金浜館跡発掘調査報告書』
- 8 1986 『宮古市遺跡分布調査報告書 4』
- 9 1986 『宮古市遺跡分布図一昭和 60 年度版一』
- 10 1986 『中谷地・島田遺跡調査報告書』
- 11 1987 『崎山貝塚・トロノ木Ⅳ遺跡調査報告書』
- 12 1987 『寒風・早稲橋Ⅳ遺跡調査報告書』
- 13 1987 『崎山遺跡群Ⅰ一昭和 61 年度発掘調査概報一』
- 14 1988 『青猿Ⅰ・下在家Ⅱ・千徳城遺跡群(掘合館)』
- 15 1988 『崎山遺跡群Ⅱ一昭和 62 年度発掘調査概報一』
- 16 1989 『千鶴遺跡一昭和 62 年度発掘調査報告書一』
- 17 1989 『トロノ木Ⅰ遺跡一第 1 ～ 7 次発掘調査報告書一』
- 18 1989 『崎山遺跡群Ⅲ一昭和 63 年度発掘調査概報一』
- 19 1989 『高根遺跡一昭和 63 年度発掘調査報告書一』
- 20 1989 『狐崎Ⅱ遺跡一昭和 63 年度発掘調査報告書一』
- 21 1989 『崎山トロノ木Ⅳ遺跡一昭和 63 年度調査報告書一』
- 22 1990 『狐崎遺跡一平成元年度発掘調査報告書一』
- 23 1990 『崎山遺跡群Ⅳ一平成元年度発掘調査概報一』
- 24 1990 『磯鶏館山遺跡一昭和 63 年度発掘調査報告書一』
- 25 1990 『鎌ヶ崎館山貝塚一平成元年度発掘調査報告書一』
- 26 1991 『崎山遺跡群Ⅴ一平成 2 年度発掘調査概報一』
- 27 1991 『青猿Ⅰ・千徳城遺跡群一平成元年・2 年度発掘調査報告書一』
- 28 1990 『熊野町遺跡一昭和 63 年度発掘調査報告書一』
- 29 1991 『弘川Ⅰ遺跡一平成 2 年度発掘調査報告書一』
- 30 1992 『金浜Ⅰ遺跡(昭和 58 年度)・大付遺跡(平成 2 年度)発掘調査報告書』
- 31 1992 『重茂館遺跡群一第 1 次調査報告書一』
- 32 1992 『黒森町Ⅰ遺跡一平成 2 年度発掘調査報告書一』
- 33 1992 『高根遺跡一平成 3 年度発掘調査報告書一』
- 34 1992 『鯉沢遺跡群一平成 2 年度発掘調査報告書一』
- 35 1992 『大付遺跡一平成 3 年度発掘調査報告書一』
- 36 1992 『細越Ⅰ遺跡・芋野Ⅱ遺跡一農林課関係田代地区埋蔵文化財発掘調査報告書一』
- 37 1992 『崎山遺跡群Ⅵ一平成 3 年度発掘調査概報一』
- 38 1993 『萩沢Ⅱ遺跡一平成 4 年度発掘調査報告書一』
- 39 1993 『早稲橋Ⅱ遺跡一第 1 次・第 2 次発掘調査報告書一』
- 40 1993 『崎山遺跡群Ⅶ一平成 4 年度発掘調査概報一』
- 41 1994 『崎山遺跡群Ⅷ一平成 5 年度発掘調査概報一』
- 42 1995 『赤前Ⅰ牛子沢遺跡一平成 4 年度発掘調査報告書一』
- 43 1995 『磯鶏館山遺跡発掘調査報告書』
- 44 1995 『崎山貝塚一範囲確認調査報告書一』
- 45 1995 『笹沢Ⅰ・加村・仲組Ⅲ・堺ノ神遺跡一市道浦の沢線改良工事関係埋蔵文化財』
- 46 1995 『花原市遺跡一平成 4 年度発掘調査報告書一』
- 47 1995 『宮古市内遺跡発掘調査概報Ⅰ 早稲橋Ⅱ遺跡・崎山貝塚』
- 48 1996 『大付遺跡一平成 5 年・6 年度発掘調査報告書一』
- 49 1997 『花原市遺跡一平成 8 年度発掘調査報告書一』
- 50 1997 『白石遺跡一第 6 次発掘調査報告書一』
- 51 1998 『赤畑・天神山・山口館一北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書一』
- 52 1998 『藤畑遺跡一平成 9 年度発掘調査報告書一』
- 53 1999 『赤前Ⅲ・赤前Ⅳ八枚田・赤前Ⅴ柳沢・赤前Ⅵ釜屋ヶ沢・小堀内Ⅲ遺跡一水産課津軽石環境整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書一』
- 54 1999 『千鶴Ⅳ遺跡一水産課千鶴地区漁港漁村総合整備事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書一』
- 55 1999 『崎山貝塚一第 12 次・13 次内容確認調査概報一』
- 56 2000 『木戸井内Ⅱ・木戸井内Ⅲ・上村Ⅲ遺跡一特別高圧送電線ラサ工業宮古支線新設工事関係埋蔵文化財調査報告書一』
- 57 2002 『山口館跡一北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書一』
- 58 2002 『小沢Ⅱ大上遺跡一市内遺跡発掘調査報告書 2 一』
- 59 2003 『大又沢Ⅱ遺跡一東北電力宮古ヘリポート移設工事関係発掘調査報告書一』
- 60 2003 『上根井沢Ⅰ遺跡・沼里遺跡一市内遺跡発掘調査報告書 3 一』
- 61 2003 『早稲橋Ⅱ遺跡第 6 次調査一市内遺跡発掘調査報告書 4 一』
- 62 2003 『下在家Ⅰ遺跡一平成 14 年度発掘調査報告書一』
- 63 2004 『大程Ⅱ遺跡・平浜遺跡一市道開伊崎線改良工事関係発掘調査報告書一』
- 64 2005 『弘川館跡一瑞雲寺裏庭整備関係発掘調査報告書一』
- 65 2006 『高浜Ⅵ地神遺跡一高浜四丁目宅地造成工事関係発掘調査報告書一』
- 66 2006 『崎山貝塚第 20 次調査・早稲橋Ⅱ遺跡第 7 次調査一市内遺跡発掘調査報告書 5 一』
- 67 2006 『八木沢古館 八木沢中田遺跡 八木沢駒込Ⅰ遺跡一市道岸ノ前ラントノ沢線道路工事関係発掘調査報告書一』
- 68 2006 『木戸井内Ⅳ遺跡一宮古市生活課市営火葬場整備事業関係発掘調査報告書一』
- 69 2006 『菅ノ沢遺跡発掘調査一市内遺跡発掘調査報告書 6 一』
- 70 2007 『山口館跡一市道北部環状線道路改良工事関係埋蔵文化財調査報告書一』
- 71 2007 『近内館跡一宮古市都市計画課近内地区土地区画整理事業関係発掘調査報告書一』
- 72 2007 『牛沢遺跡・大付遺跡第 11 次調査一市内遺跡発掘調査報告書 7 一』
- 73 2007 『弘川館跡第 2 次調査一宗教法人瑞雲寺住宅建築工事地区発掘調査報告書一』
- 74 2008 『荷竹日向Ⅳ遺跡一市道向川原荷竹線道路工事関係発掘調査報告書一』
- 75 2008 『宮古市遺跡分布調査報告書 5』
- 76 2009 『崎山貝塚 第Ⅳ期内容確認調査概報(骨角器類)』
- 77 2010 『宮古市遺跡分布調査報告書 6』
- 78 2011 『宮古市遺跡分布調査報告書 7』
- 79 2012 『重茂館遺跡群一第 2 次発掘調査報告書一』
- 80 2014 『八木沢駒込Ⅰ遺跡・八木沢駒込Ⅱ遺跡一市道磯鶏金浜線道路改良工事関係発掘調査報告書一』
- 81 2014 『蜂ヶ沢Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅰ遺跡・山口駒込Ⅱ遺跡一市道蜂ヶ沢線道路改良工事関係発掘調査報告書』
- 82 2014 『赤畑東遺跡一山口病院新棟建設工事関係発掘調査報告書一』
- 83 2015 『千徳城遺跡群一一条工務店モデルハウス建築工事関係発掘調査報告書一』
- 84 2015 『黒森町Ⅰ遺跡一宗教法人「先天大道一貫道日本總天壇」研修施設建設関係発掘調査報告書一』

宮古市埋蔵文化財調査報告書 84

黒森町 I 遺跡

—宗教法人「先天大道—貫道日本總天壇」研修施設建設工事関係発掘調査—

印刷・発行 平成 27 (2015) 3 月 6 日

発 行 宮古市教育委員会
〒028-2101 岩手県宮古市茂市 2-112-1
TEL 0193-68-9122

印 刷 花坂印刷工業株式会社
〒027-0081 岩手県宮古市新川町 1-2
TEL 0193-62-3125
FAX 0193-64-0212
